

ノ季節ニ至ラバ常備員ヲシテ半數宛毎夜其詰所ニ宿直セシムル事トセバ一層好結果ヲ得ベシト信ス

- 一、消防夫トシテ消防上心得ベキ要點
  - 二、地理水利ニ精通スル事
  - 三、家屋其他建築物ノ構造ニ注意スル事
  - 四、迅速機ニ應スルノ準備ヲ整フル事
  - 五、火ハ小火ノ内ニ撲滅スルヲ目的トスル事
  - 六、各個ノ功ヲ食ルヲナク協同一致全局ノ利害ニ着目スヘキ事
  - 七、努メテ焼点ニ近キ燃焼質体ニ射水スル事
  - 八、沈勇果斷ニシテ塵埃ノ精神ヲ養成スル事
  - 九、救護ノ任務タル精神ヲ失却セス一塊ノ木片ダモ漫リニ消失セシメテ災害ヲ大ナラシムル如キ事勿カラシムル事
  - 十、此他動作上又ハ精神上ノ訓練ニ付必要トスル處多クアリト雖モ一々筆掃ニ尽シ難ク要ハ唯常ニ準備ヲ整頓シ機ニ臨テ之ニ應シ以テ災害ノ程度ヲ減少スルヲ目的トス彼ノ消火ノ術ノ如キハ機械ノ使用ニ熟練シ之ヲ適當ニ使用セバ自ラ其局ニ適スベキヲ以テ故ラニ之ヲ記サス
- 一、此他消防ニ必要ナル器械價格方法
- 消防器具トシテハ先ツ蒸氣ポンプ腕用唧筒等ヲ主要トスルハ既ニ一般ノ熟知スル處ナリ而シテ其他ハ器械、唧筒、ノ運用ヲ補助スル器具ト人命救助ノ器具トニ外ナラス即チ左ノ如シ
- 一、伸縮梯子 馬牽用ト手挽用トアリ未タ内地ニ於テ製造スルモノアルヲ聞カ

- 二、防烟覆面 此品ハ内地ニ製造者アルヲ聞カス烟中ニアリテ窒息セス動作スルノ具ナリ半製品ノモノ壹個金五十圓前後
- 三、救助袋 東京市内ニ製造者アリ高所ヨリ安全ニ逃避セシムル袋ニシテ一個金二十圓以上但シ長サニ依リ價ニ差アリ
- 四、救助床 東京市内ニ製造者アリ高所ヨリ跳下セシメテ之ヲ安全ニ支フルノ布幕ナリ一個金十五圓前後
- 五、此他水利不便ノ地ニ於テ用ユル運水車糧食器具ヲ運搬スル輻重車 負傷者救護ノ担架水管及人ヲ輸送スル馬車 水管修繕器具等各其用途ニ應スル種々ノ器具アリト雖モ甚タ多數ナルヲ以テ貴地ニ於テ必要トセラル、モノヲ摘記質問セラルレバ更ニ詳細ニ陳述スル事トセム
- 六、尙個人ノ設備トシテハ自動消火器、輕便消火器、輕便唧筒等各種ノ裝置及器具アリ右ハ消防組用トシテハ適切ナラサレドモ聊カ參考ノ爲メ茲ニ附記ス

第二回書面

拜啓去日一報呈置候間御覽被下候筈更ニ別冊見聞並ニ愚見御參考ニ資候ハバ仕合ニ御座候「ポンプ」ノ如キモ唯今ナレバ二台丈ハ直ニ手ニ入り可申モ經費ノ都合モ有之其他ノ設備ニ至テハ尙更急時如何ト存候得共思出考出御報申上候次第又市原製造所ノ價格表モ御送付申上候間御熱覽被下度候目下東京防火ノ効實ニ可驚程進歩致居候併シ之ヲ質セバ全ク器械ノ善惡ニ因テ充分ニ消防ノ目的ヲ顯著ナラシメント欲セバ利器相擇候外無御座候何卒御猛省被下度候敬具



十一月三十日

上村慶吉殿

折田兼至

別冊

- 一、消火夫ノ服地ハ刺子ニ限ル  
羅紗類ハ假令最初浸水スルモ忽チ乾燥シ決シテ刺子ノ如ク久ニ耐ヘ難ク且ツ物ニ觸レバ破損ノ恐ナキ能ハス
- 一着見本買入鹿兒島ニテ調製セバ必ズ廉價ナルベシ
- 着用ノ際浸水シテハ着惡ク候ニ付着用ノ上火事場ニテ「ポンプ」ノ口ヲ天井又ハ壁板等ニ向ケ湃水シ其全身ニ被ル様スベシ直接「ポンプ」ニテ灌水スル如キハ甚タ危険ナリ
- 一、機關手ハ巡查ニ修練セシムルヲ可トス  
各縣ニテハ東京ノ機關手ヲ拾五圓ノ巡查ニ聘用外ニ一ヶ月五圓位宛市ニテ補助ナルモアリ又練習ノ爲メ巡查ヲ出京セシムルモアリト云フ
- 一、消火夫ノ給金ハ火掛ヲスレハ一回貳拾五錢位繰出ノミニテハ辨當代ト鞋錢ノミヲ給ス(但「ポンプ」組常詰ハ此限ニアラス)
- 一、地方ニテハ輕便蒸汽「ポンプ」(千七百五十圓ノロ)ヲ適當ノ消火器トス  
目下市原製造所ニテ製造中ノモノ二台アリ今後十日間位ニハ竣工スベシ一台凡ソ六十日間ヲ要ス依テ既ニ注文ニ應スル能ハストノ事右二台ハ何レモ未約束ナリトノ事
- 一、舶來品ニ異ナル處ハ代價安直ノ一点ノミニテ堅牢敢テ讓ラサル由
- 一、燃料ハ石炭タルベシ然レトモ焚付ハ松薪ニ石油ヲ撒布スベシ

一、烈風等ノ際ハ微温湯位ノ度数ニテ始終入火シ置ケバ必ス急速ノ効ヲ奏スベシ

一、輕便「ポンプ」ノ有効距離ハ二丁迄ナルモ少シニテモ火元ニ接近スル程消火力大ナリト知ルベシ

東京ノ消火夫ハ鬚髻ノ焼ケ焦ケ又塗屏等ニ壓セラレ氣絶スルモノ珍シカラス是レ消火手ノ名譽トスル處ナリト今度ノ鹿兒島火事ヲモドカシカル者アルニ付御名前ハ御預置タルモ去日ノ直接ノ某當局者ガ風力烈シク火ノ子熾ニシテ何分堪ヘ難キ爲メ無據消火線ヲ變更シタリトノ話ヲ爲セシニ消火手ノ火事ニ於ケルハ軍人ノ戰場ニ臨ムト等ク宜ク決死ノ勇氣ナクンバアルベカラス火事場ニテ假令風力烈シカリシニモモヨ東京ノ烈風ニ及フ可クモアララス然ルニ火ノ粉ヲ恐ル、トハ軍人ガ彈丸有効距離ナリ敵前ナリト恐怖スルト一般若シ軍人ニシテ斯ル行爲アラバ之ヲ恕ス可キヤト大笑ナリキ當局者請フ猛省セヨ

一、廿年前迄ハ壹萬以上ニアラサレハ大火トセサリシ江戸モ漸次消防器械ヲ改良シ今ハ三軒以上ニ及ヘハ關係消防手ノ面目ニ關ス依テ消防手が消火ニ熱中スル推シテ知ル可シ或ル消防手ノ談ニ消火栓附近ニテハ當然ノ事ナレモ蒸汽唧筒一台アレバ容易ニ一戸若クハ半焼ニ過キシメト蒸汽唧筒ノ効力可知也

一、用水ニ付テハ貳丁若クハ三丁毎ニ非常水溜ヲ設ケ便宜稻荷川、滑川造士館堀(決シテ埋立ベカラス)照國神社脇ノ池等浚渫引用シ(土管ナレバ格別ノ費ニ及ハサルベキカ)新町邊ト海邊ト海水引用ノ方法ヲ講セバ決シテ不足ナカルベシ

海水ニテ効力差支ナキ由

飲用水路ノ脇ニ非常水溜ヲ設置シ午後六七時後ハ之ニ貯水シ置クモ一策ナル可シ十戸迄ノ鎮火用ニハ決シテ用水ニ不足アル事ナカル可シ

一、寒中ハ夜警巡視ノ方法ヲ設ケ大事前ニ失火ヲ知ル事最モ必要ナルベシ



- 一、半鐘ヲ増設シ急速報知ノ方法ヲ講スルモ亦一策ナルベシ
- 一、交番所夜警所ノ消防手詰所間ニ電話ヲ架設セバ頗ル便利ナラン(併シ經費隨分多額ヲ要ス可シ)

明治三十四年十二月四日 鹿兒島市水火防研究會ヲ市役所樓上ニ開キ左ノ各件ヲ議決セリ

- 一、「ポンプ」ハ蒸汽ニシテ大小各一個宛ヲ購入スル事
- 一、代金ハ二個ニシテ五千五百圓ヲ以テ程度トス
- 一、代金ハ凡テ有志者ノ寄附ヲ募集スル事
- 一、將來經常費ニ於テハ毎年市ノ負担トス
- 一、「ポンプ」格護所ハ警察署構内トス
- 一、水源ハ保科氏ノ調査ニ依ル事
- 一、水溜構造費ハ八百圓トス

明治三十四年十二月九日 鹿兒島市水火防研究會幹事會ヲ市役所樓上ニ開キ左ノ各件ヲ議決セリ

- 一、「大」ポンプ「ノ」水管四吋
- 一、「小」ポンプ「ノ」水管二吋
- 一、寄附金六千圓ヲ募集スル事
- 若シ募集額六千圓ニ達セサル時ハ「小」ポンプ二臺ヲ購入スル事

一、寄附金募集委員五名ヲ選舉スル事  
但シ會長指名

明治三十四年十二月十一日 是日上村鹿兒島市水火防研究會長ハ左ノ五名ヲ同會火防具購入費寄附金募集委員ニ指名囑托シタリ

染川 權輔 河野庄太郎 山下喜兵衛 藤安辰次郎 海江田 金次郎

明治三十五年二月六日 是日市役所樓上ニ鹿兒島市水火防研究會火防具購入費寄附金募集委員會ヲ開ク染川權輔委員長タリ

明治三十五年二月十二日 是日鹿兒島商業會議所ニ於テ鹿兒島市水火防研究會火防具購入費寄附金募集委員會ヲ開キ左ノ各件ヲ議決セリ

- 一、寄附金ノ申込ハ市役所ニ於テ取扱フ事
- 一、現今委員二十二名ノ外更ニ各町ニ二名ノ募集委員ヲ設ケル事
- 但シ委員ニハ衛生組長及副組長ヲ以テ充ツル事
- 一、各町戸別割十七等以上ノ人員ヲ取調ベ寄附金ヲ募集スル事
- 但シ該名簿ハ二名ノ委員ヘ交付スル事
- 一、寄附金ノ申込期限ハ本年三月十五日限リトスル事
- 一、會長ヨリ浪速銀行支店ヘ宛寄附金ヲ促ス事
- 但シ金額壹百圓トス
- 一、小形唧筒壹臺ハ即時購入スル事



本項ニ對シ上村會長ハ購入後若シ寄附金集マラサルトキハ今日ノ出席員ニ於テ責任ヲ負ハルヤヲ確ム  
一同之ヲ承諾ス

一、ボンプハ初メ小形壹臺ヲ買入レ試驗ノ結果ニ依リ更ニ同様ノモノ若クハ大一個ヲ購入スル事

一、兩本願寺西五拾圓東三拾圓ト見積リ會長ヨリ寄附ノ相談ヲ爲ス事

一、趣意書ノ廣告ハ二號活字ニテ二月十四日ヨリ一週間兩新聞へ廣告スル事

一、本日ノ委員會ノ顛末ハ其概要ヲ兩新聞雜報へ登載スル事

明治三十五年二月十四日 鹿兒島市水火防研究會ハ左ノ寄附金募集趣意書ヲ發表シ全時ニ募集委員ノ活動ヲ開始ス

新式消防蒸汽唧筒購入寄附金募集趣意書

昇平無事ノ時ニ當リ最モ恐ルベキハ火災ニ若クハナシ而テ豫防ノ必要モ亦火災ヨリ急ナルハナカレ可シ客冬本市ニ於ケル火災ノ如キ倏忽數十萬ノ財產ヲシテ烏有ニ歸セシメタルノミカ罹災者中一時活路ヲ失ヒ其慘狀視ルニ忍ヒサルモノアリ蓋シ火災ノ起ル素ヨリ豫メ期ス可カラスト雖モ烈燄天ニ漲ルノ慘禍ヲ咄嗟ノ間ニ撲滅シ以テ被害ノ度ヲ減縮セシムルガ如キハ平素火防設備ノ如何ニ在リ豈ニ之ヲ忽ニス可ケンヤ從來本市火防ノ不完全ナルハ一般ノ夙ニ憂慮スル所ナルガ刷新未タ其緒ニ就カサルノ際昨年ノ火災ハ恰モ改善ノ動機トナレリ有志者此ニ見ルアリ乃チ當局者ト協商シ水火防ノ研究會ヲ組織セリ爾來研究調査ノ末差向キ防火用新式蒸汽唧筒大小二臺ヲ購入スルノ必要ヲ認メタリ其價格ヲ調査スルニ約六千五百圓ヲ要ス此金額ハ此際

特ニ有志ノ寄附ヲ仰カントス而シテ火防諸般ノ設備ニ要スル經常費ノ如キハ多少ノ増額ヲ要スト雖モ固ヨリ永ク本市ノ支辨ニ屬ス可キハ言ヲ待タス要スルニ公私相待テ善後ノ策ヲ實行シ以テ本市ノ幸福ヲ増進セシメントスルニ外ナラス有志諸君右ノ趣意ヲ了シテ應分ノ寄附アラント切望ニ堪ヘサルナリ

但シ寄附金ハ三月十五日限リ市役所へ御申込相成度候

明治三十五年二月

鹿兒島市水火防研究會

明治三十五年二月十八日 鹿兒島市水火防研究會ハ市内各衛生組長全副組長へ

同會火防具購入費寄附募集委員ヲ囑托セリ

明治三十五年二月二十日 鹿兒島市水火防研究會ハ是日折田兼至上京ノ便ニ托

シ小形ノ蒸汽唧筒一台並ニ消防被服刺子一着ヲ注文ス

明治三十五年二月二十七日 鹿兒島市水火防研究會幹事會ヲ市役所樓上ニ開キ

諸般報告ノ後議事ニ移リ左ノ各項ヲ議決セリ報告事項トモ左ニ之ヲ掲グ

一、久保調査委員長ヨリ火防上ノ設備及自衛ノ方法ニ就キ協議シタキ事アリ開會ヲ請求シタル旨報告アリ

一、染川募集委員長ヨリ寄附金募集ニ關シ今日迄取扱ヒ來リタル經過報告アリ

一、上村會長ハ此度折田兼至氏ノ上京便ニ托シ二號式ボンプ一臺及附屬品並ニ消防手

用刺子製ノ被服ヲ一着注文シ置キタル旨ノ報告アリ

一、蒸汽唧筒ハ二號式二臺ヲ購入スル事ニ決定ス



一、蓋キニ決定セシ用水ニ關スル調査其他ノ設計ハ一號式唧筒ニ屬シテノ設計ナレバ  
 二號式ニ變更シタル以上ハ其邊ノ調査モ更ニ變更セサルヲ得ス仍テ此調査方ハ蓋  
 キニ撰定シタル久保氏以下八名ノ委員ニ囑托スル事ニ決定ス  
 一、火防上自衛ノ方法等ハ前項ノ委員ニ於テ調査シ議案トシテ各幹事ニ配付シタル上  
 更ニ次回ニ於テ議スル事ニ決定ス  
 一、火災ノ際延焼ノ多キハ家屋構造ノ不完全ナルニ起因ス仍テ今回ノ災后ニ建築スル  
 モノハ勿論新ニ市内ニ建築スルモノ若クハ改造修築スルモノハ從來板壁ニセシ部  
 分ノ構造ヲ凡テ土壁等火防ニ堪ユ可キ材料ヲ使用スル事ニ會長ヨリ市長ニ建議シ  
 市長ハ市民一般へ諭告方ヲ知事へ上申スル事ニ決定ス

明治三十五年二月二十八日 鹿兒島市水火防研究會長上村慶吉ハ左ノ建議ヲ本  
 市長ニ提出シ以テ火災豫防ノ一助タラシメンコトヲ圖レリ

家屋改造ノ議ニ付建議

我が鹿兒島市ハ連年類々トシテ火災起リ毎々多數ノ類焼ヲ來タシ昨年十月ノ大火ノ  
 如キ見ル間ニ數十萬ノ財産ヲ烏有ニ歸シ更ニ非常ノ慘狀ヲ極メ又今回山下町ニ於ケ  
 ル火災ノ如キ一瞬三十有餘戸ノ家屋ヲ燒燼スルニ至リタリ是レ畢竟火防具ノ不完備  
 モ其一因タル可シト雖モ一ハ家屋構造ノ不完全ニ起因スルモノ多シト言ハサルヲ得  
 ス有志者茲ニ見ル所アリ蓋キニ水火防研究會ナルモノヲ起シ今ヤ火防具ノ購入水源  
 ノ調査其他自衛ノ方法ヲ講スル等々實行シツ、アリ之ト同時ニ家屋ノ改造ヲ計ル  
 ハ又今日ノ急務ナリト信ス仍テ今回ノ災後ニ於ケル再築ヲ第一着トシ爾後新ニ市内  
 ニ家屋ヲ建築スルモノ若クハ改造修築スルモノハ從來板壁ニセシ部分ノ構造ヲ凡テ

土壁等火防ニ堪ユ可キ材料ヲ以テ改造セシムルノ必要ヲ認メ候條市民一般へ諭告  
 方知事へ上申相成度本會ノ決議ニ依リ茲ニ建議候也

明治三十五年二月廿八日

鹿兒島市水火防研究會長 上村慶吉

鹿兒島市長上村慶吉殿

明治三十五年三月一日 本市長ハ鹿兒島市水火防研究會長ノ提出ニ係ル家屋改  
 造ニ關スル建議ヲ採用シ是日本縣知事ニ向テ左ノ如ク上申ス

市内家屋改造ノ儀ニ付上申

我が鹿兒島市ハ連年類々トシテ火災起リ毎々多數ノ類焼ヲ來タシ昨年十月ノ大火ノ  
 如キ見ル間ニ數十萬ノ財産ヲ烏有ニ歸シ實ニ非常ノ慘狀ヲ極メ又今回山下町ニ於ケ  
 ル火災ノ如キ一瞬三十有餘戸ノ家屋ヲ燒燼スルニ至リタリ是レ畢竟火防具ノ不完備  
 モ其一因タル可シト雖モ一ハ家屋構造ノ不完全ニ起因スルモノ多シト言ハサルヲ得  
 志者茲ニ見ル所アリ蓋キニ水火防研究會ナルモノヲ起シ今ヤ火防具ノ購入水源ノ調  
 査其他自衛ノ方法ヲ講スル等々實行シツ、アリ之ト同時ニ家屋ノ改造ヲ計ルハ又  
 今日ノ急務ナリト信ス仍テ今回ノ災後ニ於ケル再築ヲ第一着トシ爾後新ニ市内ニ家  
 屋ヲ建築スルモノ若クハ改造修築スルモノハ從來板壁ニセシ部分ノ構造ヲ凡テ土壁  
 等火防ニ堪ユ可キ材料ヲ以テ改造セシムルノ必要ヲ認ムルニ依リ一般市民へ諭告方  
 同會長ヨリ建議ノ次第モ有之候條便宜ノ方法ニ依リ市民一般へ諭告方可然御取計相  
 成候様致度此段上申候也

明治三十五年三月一日

鹿兒島縣知事千頭清臣殿

鹿兒島市長 上村慶吉

鹿兒島市史 警備 一 消防機關



明治三十五年三月二日 豫テ鹿兒島市水火防研究會長ヨリ蒸汽唧筒ノ注文ヲ囑  
托シタル同會員折田兼至是日東京市日本橋區市原唧筒諸機械製作所へ其新調ヲ  
托ス

明治三十五年三月七日 鹿兒島市水火防研究會調査委員會ヲ市役所樓上ニ開キ  
左ノ各件ヲ議決ス

一、火防貯水池ハ此際市内ノ最モ樞要ナル場所ヲ撰定シ其距離ハ六拾間ト百間トナ  
程度トシ設置スル事

設備事項

一、蒸汽唧筒到着ノ上ハ一臺ハ警察署内ニ一臺ハ商業會議所内ニ格護スル事

自衛事項

一、市街ニ於ケル家屋ノ建築ハ從來板壁ニセシ構造ヲ改メ壁ハ土塗又ハ石材等火防ニ  
耐ユ可キ材料ヲ使用シ屋根ハ凡テ瓦葺トシ土藏ヲ所有スルモノハ豫テ目塗用粘土  
類ヲ用意シ置ク事

一、竹垣ハ火災ニ際シ延燒ノ媒介トナル可キモノナルニ依リ市街地ニハ之ヲ使用セサ  
ル事

一、火災ノ節見物人群集シテ消防上ノ妨害ヲ爲スコト甚タシキニ依リ爾後見物人トシ  
テ出場セシメサル様家族雇人ニ至ル迄嚴重ニ諭シ置ク事

一、夜警番ノ事ハ是迄各町ノ適宜ニ放任シアリシモ種々ノ弊害アリテ奏効尠キニ依リ  
自今一切警察ニ委任スル事

但消防夫ヲ以テ之ニ充ツルノ見込

一、夜間就寢後ハ「ランプ」ノ如キ危険ヲ生シ易キモノハ之ヲ使用セス之ニ換ユルニ行燈  
及ヒ豆「ランプ」ノ類ヲ用ユル事

一、俗ニ云フ「カンテラ」ハ火氣ノ入り易キモノナレバ各戸之ヲ使用セサル事

一、井戸ヲ所有スルモノハ方五寸ノ木札ニ「井」ノ字ヲ記載シタル標札ヲ門口ニ揭示スル  
事

一、各戸火締等ノ事ニ就テハ失火ノ際孰レモ責任ヲ免レントスル弊アルニ依リ各戸火  
締ノ責任者ヲ定メ置ク事

右責任者ハ下男下女ノ如キ常ニ火ヲ取扱フ者ヲ以テ之ニ充ツル事トセバ從テ火元  
ニ注意シ失火等ヲ生セシムル虞モ減少スルニ至ラン

明治三十五年四月二十八日 是日豫テ鹿兒島市水火防研究會ガ第二號蒸汽唧筒  
ノ新調ヲ托シタル東京市市原工場内ニ於テ同唧筒ノ試運轉ヲ行フ警視廳消防機  
關士兼技手土田團之助該試運轉担任者タリ是レヨリ先キ本縣警部甲斐田毅公用  
ヲ以テ東京ニ在リ同唧筒ノ製作其他試驗等ノ事ニ關シ斡旋ノ勞多シ即チ該試運  
轉担任者ノ如キ亦全警部其撰定ヲ警視廳ニ乞ヒシ者ニ係ル而シテ又全警部ハ該  
廳ニ就キ唧筒竣成後ノ運轉操縦ニ關シテ専門技術者ノ下ニ練習生ヲ養成スルノ  
要アルヲ詳ニシ鹿兒島市水火防研究會長ト遙ニ協商ヲ重ヌルコト數回然ルニ當



時恰モ東京ノ地ニ數年間職ヲ警視廳消防士ニ奉シ後消防署長タリシ本縣出身折田兼一ナル人アリ將ニ要件ヲ帶ヒ鹿城ニ歸ラントスルニ會シ甲斐田本縣警部ト全人トノ間ニ歸魔後叙上練習生ノ教師タルノ約略ボ成ル乃チ此試運轉ヲ行フヤ同人モ亦タ之ニ參加セリ而シテ是日試驗ノ結果別紙復命書ノ如キ好結果ヲ得タリ

復命書

四月二十八日鹿兒島市消防用蒸汽唧筒試運轉施行可致旨御命ニヨリ全日午後四時製造所市原工場構内ニ於テ試運轉執行致候處其成蹟左記ノ通りニ有之實用上支障無之モノト被認候依テ此段復命致候也

尙右蒸汽唧筒ニ使用セル汽罐ハ水壓二百封度ヲ加ヘ試驗ヲ施シタルニ支障無之就テハ最大汽壓百封度迄ハ安全ニ使用シ得ベキモ汽罐保存上八十封度前後ニ封鎖相成候方適當ニ可有之ト思料被致候

明治三十五年四月二十九日

消防署第二課勤務

消防機關士兼警視廳技手

土田團之助

消防署長警視吉見輝殿

成蹟

汽	壓	五拾封度	八拾封度
放水口數	單口	雙口	單口
一分時回轉數	百二十回	百八十回	百五十回
水壓	三十封度	三十五封度	四十封度
推定放水射程 (但七十五度射角)	十二間	八間	十五間
			十二間

明治三十五年五月二十四日 豫テ鹿兒島市水火防研究會ニ於テ東京市市原製作所へ新調ヲ托シタル第二號蒸汽唧筒着ス此購入費附屬品運送荷造費共金貳千〇八拾四圓七拾錢

明治三十五年五月二十七日 鹿兒島市水火防研究會調査委員會ヲ市役所樓上ニ開ク先ツ蒸汽唧筒ニ關スル左記折田兼一ノ談話アリ次テ左ノ各件ヲ議決セリ

談話要領

- 一、本唧筒ニ於テハ水管ハ十二個位使用スルヲ限度トス之ヨリ超過スル時ハ瀛罐ニ故障ヲ生スルコトアルベシ
- 一、蒸瀛釜ニ使用スル水ハ水質ノ異ナルヲ厭フ故ニ釜ニ使用スル水ハ豫テ試驗ノ上一定シ置クヲ要ス若シ異性ノ水ヲ使用スル時ハ釜中ノ水甚シク沸騰シテ火災ニ臨ミ使用ノ出來サル事往々アリ



一、唧筒置場ハ可成位置ヲ撰定シ出入ヲ便ニセサレバ急變ノ際混雜ヲ生シ且ツ濼鑛ヲ破損セシ實例往々アリ

一、「ポンプ」二臺購入ト全時ニ輜車一臺ヲ備ヘ置キ附屬水管ヲ捲キ運搬スルノ要アリ

一、取扱者ハ出火ニ際シテハ水管ノ燃レサル様注意スル事最モ必要ナリ

一、東京市ニハ當時蒸氣「ポンプ」八臺アリ當市ノ如キモ一臺ニテハ其用ヲ爲サズ少クトモ二臺ヲ要スベシ

一、警視廳ニテハ朝夕二回機械検査ヲ爲シ尙一ヶ月二回以上ノ試運轉ヲナス

一、輜車ハ一臺市原ヘ注文スル事

但シ箱ナシニテ二十圓位ノモノ

一、唧筒置場ハ商業會議所内ト定メ實地検査ノ上位置ヲ決定スルコトトシ同上委員長以下出張ノ上同所宅地西側ノ一隅間口四間半奥行二間半ト略ホ之ヲ定ム

一、機關士及火夫ハ專任者ニアラサレハ到底充分ナル結果ヲ得難キニ依リ當市ニ於テモ專任者ヲ雇フ事

一、用水池ハ尙ホ一應保科技師ノ担任ニテ市内ニ於ケル井戸ノ内「ポンプ」ノ使用ニ堪ヘ得ヘキ個所ヲ調査スル事ニ決ス

保科氏調査ノ結果報告

一、同氏ノ担任ニ係ル用水池ハ八十間ノ間隔ヲ取り樞要ノ場所ニ拾ヶ所ヲ設ケ一ヶ所ノ費用貳百六拾圓ヲ要シ其用水池ハ方二間深サ二十尺ニシテ二時間ノ使用ニ堪フ可シ

明治三十五年五月二十九日 是日市役所ニ於テ鹿兒島市水火防研究會蒸氣唧筒

ノ試運轉ヲ行フ些ノ故障ヲ見ズ

明治三十五年六月四日 鹿兒島市水火防研究會ハ鹿兒島商業會議所ガ鹿兒島警察署ニ近キ故ヲ以テ蒸氣唧筒格護所トシテ全所内西側ノ一隅ニ間口四間半奥行

三間半ノ地ヲ劃シテ貸與ヲ受ケンコトヲ同所ニ交渉シ其承諾ヲ得タリ是日研究會ハ東京市市原製作所ヘ蒸氣唧筒附屬輜車一台ヲ注文ス

明治三十五年六月五日 鹿兒島市水火防研究會調査委員會ヲ市役所樓上ニ開キ

左ノ各件ヲ議決ス此時ヨリ全委員長タリシ久保敏樹(警部長轉任ノ後ヲ承ケタル

西村陸奥夫該調査委員長タリ

一、唧筒小屋ノ敷地借用及家屋ノ建築方ハ會長ニ一任スル事

一、用水池設置ノ事ハ多額ノ費用ヲ要シ到底本會ノ遂行シ能ハザル所ナルニ依リ市ニ於テ施設スル事ニ會長ヨリ市長ニ建議スル事

一、唧筒購入ニ要シタル費用ノ概算ヲ報告シ更ニ一臺ヲ購入スルヤ否ヤヲ幹事會ニ附議スル事

一、保科技師ノ担任ニ係ル用水池ハ拾ヶ所ニシテ一ヶ所費用二百六拾圓ヲ要シ其場所ハ左ノ如シ(用水池ハ方二間深サ二十尺ニシテ四百二十)

三官橋通 壹ヶ所 二官橋通 壹ヶ所 二本松馬場通 壹ヶ所

諏訪小路 壹ヶ所 天神馬場通 一ヶ所 松山通後寛堀附近 一ヶ所



廣馬場通 貳ヶ所 東本願寺附近 壹ヶ所  
上町方限ハ

滑 川 二ヶ所 造士館ノ下堀 稻荷川

一、試運轉及練習ニ要シタル消防夫ノ手當ハ相當賃錢ヲ支拂フ事ニ決シ其給額ハ警察署ト市役所ト協議左ノ通決定ス

一、機關士 一人 一日金六拾錢トシ七日分

一、火 夫 一人 一日金六拾錢トシ七日分

一、消防夫 四十二人 一日金三拾五錢宛

合計貳拾參圓拾錢

一、曩キニ東京ニ於テ機關ノ検査等ヲ依頼シ今又試運轉及教授ニ從事シ居ラル、折田兼一氏ヘ東京往復旅費及手當トシテ金八拾圓ヲ贈與スル事  
一、試運轉及練習ニ要シタル諸雜費ハ警察署ト市役所ト協議調査ノ上寄附金ノ内ヨリ支拂フ事

明治三十五年六月九日 鹿兒島市水火防研究會ハ是日午前第八時三十分照國神社下ニ於テ蒸汽唧筒ノ實地演習ヲ行ヒ同會火防具購入費寄附者其他一般市民ノ縦覽ニ供シ好成績ヲ得タリ同會ハ又是日曩キニ東京ヨリ歸リ同會蒸汽唧筒ノ試運轉及其取扱方法ノ教授担任者折田兼一ヘ手當トシテ金八拾圓ヲ贈リタリ  
明治三十五年六月二十一日 是日鹿兒島市水火防研究會長ハ左ノ書面ヲ本市長

ニ致シ以テ蒸汽唧筒一臺全附屬品一切並ニ既收寄附金等ヲ併セテ本市ニ寄附シタリ願フニ昨冬ニ於ケル市内ノ大火其動機トナリ本市有志者ニ由テ全會ノ組織ヲ見ルニ至リタルハ實ニ全年十一月八日ニ在リ爾來僅ニ七ヶ月有餘然ルニ全會ハ此短日月ノ間ニ於テ火防上ニ關シ種々ノ研究調査ヲ重テテ蒸汽唧筒ヲ本市ニ備ヘ又市内家屋改造ノ建議ヲ試ル等本市火防上ニ寄與シタル處既ニ鮮少ナラサルモノアリ然ルニ今ヤ此ノ寄附ヲ見ル本市ニ對スル同會ノ貢獻ヤ大ナリト云フ可シ

寄附申込書

本會員等兼テ火防ノ必要ヲ感シ研究ノ未遂ニ市内有志ノ義捐ヲ計リ之レガ要具トシテ蒸汽唧筒一臺ヲ購入スルコトニ決定候處己ニ一臺ハ購入シ一臺ハ現金ノ儘ニ有之候ニ付右「ポンプ」並ニ現金共別冊ノ通本市警備費ノ内へ會員ヨリ寄附致度候條御採用相成度金員物件目錄添付此段申出候也

明治三十五年六月二十一日 鹿兒島市水火防研究會長 上 村 慶 吉

鹿兒島市長上村慶吉殿

追而寄附申出ノ見込アルモノ多少有之候ニ付爾後ノ分ハ貴廳ニ於テ直接御受納相成度候也

寄附金目錄







住吉町	二二二	五	一	二五	三一	藥師馬場町	八八	一五	八	三〇
堀江町	二二三	六	〇	四四	五〇	鷹師馬場町	九三	一五	四	二四
新江町	一九六	二〇	九	四七	七六	長田町	一七一	一〇	一	一一
船津町	一六四	一	〇	二〇	二一	下龍尾町	一八九	七	二	一六
松原通町	三七五	二四	一九	二二	六五	冷水通町	一〇七	九	三	一四
新照院通町	一三三	四一	二四	二五	九〇	上龍尾町	一五一	一八	四	二八
西千石馬場町	二四三	二二	三	一〇	二五	池ノ上町	一五一	二	三	五
平ノ馬場町	二五八	三	〇	五	八	波川町	一一一	二	四	二四
山ノ口馬場町	二六四	七	二	四	三一	清水馬場町	一五九	一三	二	二〇
山下町	四六六	一九	五	七	二四	稻荷馬場町	一三六	二二	三	二八
東千石馬場町	三一六	八	三	一三	二四	春日小路町	二〇三	二一	七	四三
新屋敷通町	一八二	一五	九	一八	四二	小川町	二四七	三四	二	七六
加治屋町	二〇三	六	一	一一	一八	車町	九九	五	六	二〇
樋ノ口通町	二八七	二九	二〇	一一	六二	惠美須町	一〇二	二一	六	二〇
鹽屋村	三二二	七八	四六	二三	一四	榮町	一〇八	二一	七	三五
西田村	三〇三	六五	三八	二五	一四	向江町	六一	一八	八	三二
西田町	二一〇	四七	二六	二五	九八	濱町	六八	三二	一〇	四七

柳町	一一八	三八	一五	八	六一	荒田村	二一〇	六一	三五	二〇	一六
和泉屋町	九九	一一	四	三	一八	下荒田町	四六四	九七	六九	二七	九三
高麗町	一七三	一六	五	一五	三六	計	四六八	八三	九二	四五	六四
上ノ園通町	一一二	一	〇	七	八		八、八一	三九	二一	四五	六四

食料ヲ給シタル戸口並ニ糧米  
 一、食料ヲ給シタル戸數 二千十八戸  
 一、全上人口 八千五百二十三人  
 一、給與シタル食料ノ數量 百二十石二斗三升二合  
 一、全上代價(但シ下米相場) 七百十五圓六十三錢四厘  
 備考 救助日數ハ或ハ連續五日ニ亘リ或ハ七日ニ亘レリ  
 小屋掛料ヲ給シタル戸數及金額 九百三十二戸  
 一、小屋掛料ヲ給シタル戸數 參千二百八十六圓  
 一、給與シタル小屋掛料 九百三十二戸  
 備考 小屋掛料ハ三圓ト四圓ノ差アリテ均一ナラス

一、死 者 五人  
 一、負傷者 一人

明治二十三年九月二十五日 今回ノ暴風ニ際シ本市長ハ左ノ告諭ヲ發シ以テ材  
 木商ニ戒告スル所アリタリ



告諭第一號

今般暴風ノ災害ニ罹リ市内ノ慘狀言フ可カラス就中貧民ノ家屋ニ至テハ全倒半倒等  
殆ンド全市戸數ノ九分ノ一ニ垂ントス之レガ小屋掛等ニ供給スル材木其他ノ要品ヲ  
商業トスル者ハ此災難ノ事情ヲ深ク酌ミ受ケ平常ノ價格ヲ以テ賣拂ハラハルベシ  
明治二十三年九月二十五日 鹿兒島市參事會 市長 上村 慶吉

明治二十三年十一月 毛利侍從來縣去ル九月二十三日暴風被害狀況ヲ親シク視  
察セラレタリ

明治二十四年九月十三日 是日暴風雨家屋ノ倒潰大破等五百十二戸ニ達シ和船  
十一ヲ壞レリ是レヨリ先キ全十二日午前第十時ヨリ天候不穩ノ兆ヲ呈シ風少シ  
ク加ハリ同日午後四時ノ頃ニ及ンデ漸次風力ヲ増シ遂ニ是日午前第三時頃ニ至  
テ暴風トナレリ而シテ風力ハ昨年ノ暴風ニ大差ナカリシト雖モ被害戸數其半數  
ニ達セカリシハ主トシテ市民全体昨年ノ慘況ニ鑑ミ自衛ノ方法ヲ講シタルニ因  
ル而シテ市ハ例ニ依リ罹災貧困者ヲ救助シタリ即チ左ノ如シ是日新築工事中ノ  
市役所廳舍亦倒潰ス

- 一、食糧ヲ給與シタル戸數 二百三十五戸
- 一、給與シタル食料數量 九百九十三人
- 一、全上代價 九石壹斗八升四合(支米)
- 一、給與シタル小屋掛料 五十五圓十二錢四厘
- 一、小屋掛料ヲ給シタル戸數及金額 三百七十二戸
- 一、給與シタル小屋掛料 金九百三十五圓

明治二十八年七月二十四日 是日暴風雨午前六時前後西南ノ風起リ雨加ハリテ  
漸次風力ヲ増シ午前十時頃ニ至テ暴風雨トナリ午後三時ノ頃ニ至テ止ム倒家三  
十七棟半倒二十七棟破損九十四棟小屋全倒七棟ヲ出ス故ニ規程ニ依リ小屋掛料  
ヲ給シタル戸數三十三此金額八十三圓海上死傷者若干ヲ出ス

明治二十八年九月七日 復タ暴風起ル是レヨリ先キ全五日北東ノ風起リ是日雨  
亦タ加ハリ午後二時過ヨリ漸次風力ヲ増シ全五時ニ至リテ暴風ニ變シ同八時止  
ム被害ハ僅ニ倒家八ヲ出セルノミ小屋掛料ヲ給ス

明治三十二年八月十四日 是兩日間ニ亘リテ未曾有ノ一大暴風アリ十四日未明  
天候既ニ異狀ヲ呈シ午前九時三十分中央氣象臺海陸ノ警戒報ヲ發ス日暮レ驟雨  
一過此時ヨリ漸次妖雲ノ東ヨリ西ニ走ルヲ見爾後刻一刻天候益々不穩ノ兆ヲ呈



シ同十一時ヲ過クルノ頃ニ至リ果然東ノ疾風起リ次テ南東ノ烈風トナリ十五日午前二時頃ニ及テ風雨激シク南方ニ轉スルニ至テ最モ激烈ヲ極メ同三時ノ頃西ニ轉シテ風力稍緩ク同四時過ニ及ンデ風全ク收マル古老ノ言ニ依レバ六十年來ノ暴風ナリシト云フ其被害左ノ如シ

一、被害家屋 一千四百四十七戸

内

全倒 九百十六戸 半倒 三百四十六戸 大破 百八十五戸

一、被害船舶 六十隻

内

全破損 四十六隻 半破損 十四隻

一、慘死者 十餘人

是日西田方面ノ如キハ倒潰家屋ノ外又多數ノ浸水家屋ヲ出セリ

市ハ此暴風ニ際スルヤ十四日夜半ヨリ消防組ノ出動ト共ニ罹災者ノ救助ニ着手シ諸般ノ施設ニ遺憾ナキヲ期シタリ臨機炊出乃至食料給與ノ外五百五十一戸ニ小屋掛料ヲ給シタリ

今左ニ鹿兒島測候所カ本縣廳ヘ致セル今次ノ暴風報告ヲ掲ゲ以テ其風力ノ如何

ニ猛烈ナリシカヲ知ルニ便ス

暴風報告

(前署)

十三日午前九時三十分中央氣象臺ヨリ海陸ノ警報到ル曰ク「低氣壓ノ位置ハ琉球北部ニ在リテ七百四十五耗ヲ示シ最低氣壓所在地近傍晴雨計大ニ降ル中心ハ北東ニ進ム」ト當所ノ晴雨計ハ七百五十八耗ヲ示シ其差十三耗ナリシ爾後二時該中心ハ九州南部ノ沖ニ移動シテ七百五十耗ヲ示セリ而シテ氣壓ハ毎時約一耗宛累降シ風力次第ニ募リ午後八時ヨリ烈風トナリ天候益々險惡ヲ示シ同十一時廿分颯風ニ達シ爾後晴雨計ハ一時間十耗前後急降シ風勢愈々猛烈ヲ極メ翌十五日午前一時乃至二時ニ毎秒平均速度七十米九ヲ示シ氣壓ハ同一時四十分ニ七百廿三耗九ノ最低ヲ示セリ蓋シ暴風ノ中心ハ當時最近距離ヲ通過セシヨリ風向ハ該中心ノ經過スルニ從ヒ烈風七時ヨリ強風午後一時疾風トナリ遂ニ沈靜セリ這回ノ如キ急激ナル氣壓ノ變化ハ本邦氣象觀測開始以來稀有ノ現象ニシテ風勢ノ猖獗ナリシハ石垣島ニ於テ觀測セシ外他ニ其類ヲ見サル處ナリトス

備考 風速度七十米九ノ一間平面積ニ對スル氣壓力ハ五百三十三貫二百目ナリ

明治四十四年九月二十一日 暴風起リ河川氾濫シテ屋舍倒壞等被害實ニ算ナシ

是日朝來天曇リ亭午ヲ過キ北東ノ風ハ雨ヲ帶ヒ午後三時天候俄ニ險惡トナリ雷鳴之ニ加リ六時ヲ過キ愈々一大暴風トナリ家屋倒壞人畜ノ死傷防波堤ノ破壞等慘狀凄絶ヲ極ム上町方面ハ稻荷川氾濫甚シク之ニ沿フタル稻荷清水、鼓川、池ノ上







ノ迹ヲ視察セラルル知事市長等隨行ス洲崎沿岸及ヒ運河對岸防波堤ノ破壞ヲ巡視シ尙ホ知事及ヒ市長ヨリ當日ノ慘狀ヲ聽聞シ海岸一帶視察ヲ終リ城山公園ニ登リ岩崖崩壞等ノ跡ヲ視察シ夫ヨリ田ノ浦海岸破壞ノ視察ヲ遂ケラレタリ而シテ是歲十二月左ノ訓令アリ

訓令乙第二二四號

本年九月二十一日ノ暴風雨罹災者御救恤トシテ御下賜相成タル金額別紙ノ通其所轄罹災者へ下渡候條特ニ 天恩ノ優渥ナル旨ヲ懇諭シ下賜方取計ハルベシ

明治四十四年十二月十八日

鹿兒島縣知事 谷口留五郎

鹿兒島市長 川貞壽殿

別紙

一金貳百七拾五圓參拾六錢

鹿兒島市

内

金八拾參圓四錢

死者 (八人)

金拾六圓四十錢

傷者 (八人)

金百七拾五圓九拾貳錢

小屋掛料ノ受給者

右ノ外本縣人ノ米國在留者及ヒ他府縣等ヨリ罹災者ニ寄贈セル義捐金ハ縣ヨリ交付シ市ハ之ヲ分配セリ是ヨリ先キ十月本市ニ全國市長會議ヲ開ク各市出席者

ハ當日ノ慘狀ヲ聽取シテ大ニ同情ヲ表シ各市釀金シテ百八拾五圓ヲ市内慘死者ノ遺族へ贈與シタリ

### 三 火災

明治二十六年三月九日 是日午前第一時頃市内六日町三十八番戸ヨリ出火シ火勢東西ニ延ビ東ハ築町界西ハ山下町ニ及ビ同日午前第五時鎮火ス類焼戸數六十五半焼及ビ引崩シ戸數九市ハ直ニ備荒儲蓄規則ニ依リ罹災貧困者ヲ救助シタリ即チ左ノ如シ

一、玄米貳石參斗參升七合

此金拾五圓六拾五錢八厘

一、小屋掛料金百八十參圓

此戸數三十三戸

明治二十六年三月二十八日 去ル九日六日町出火ノ日ヲ距ルヲ僅ニ十九日是日亦午前十時頃東千石町六十五番戸(天文館通)ヨリ出火午後二時過鎮火ス其延焼區域ハ館屋小路及ビ中ノ小路共兩側中福良通千石馬場東側一部ニ亘リ類焼戸數九十二半焼及ビ引崩シ戸數三十五市ハ直ニ備荒儲蓄規則ニ依リ罹災貧困者ヲ救



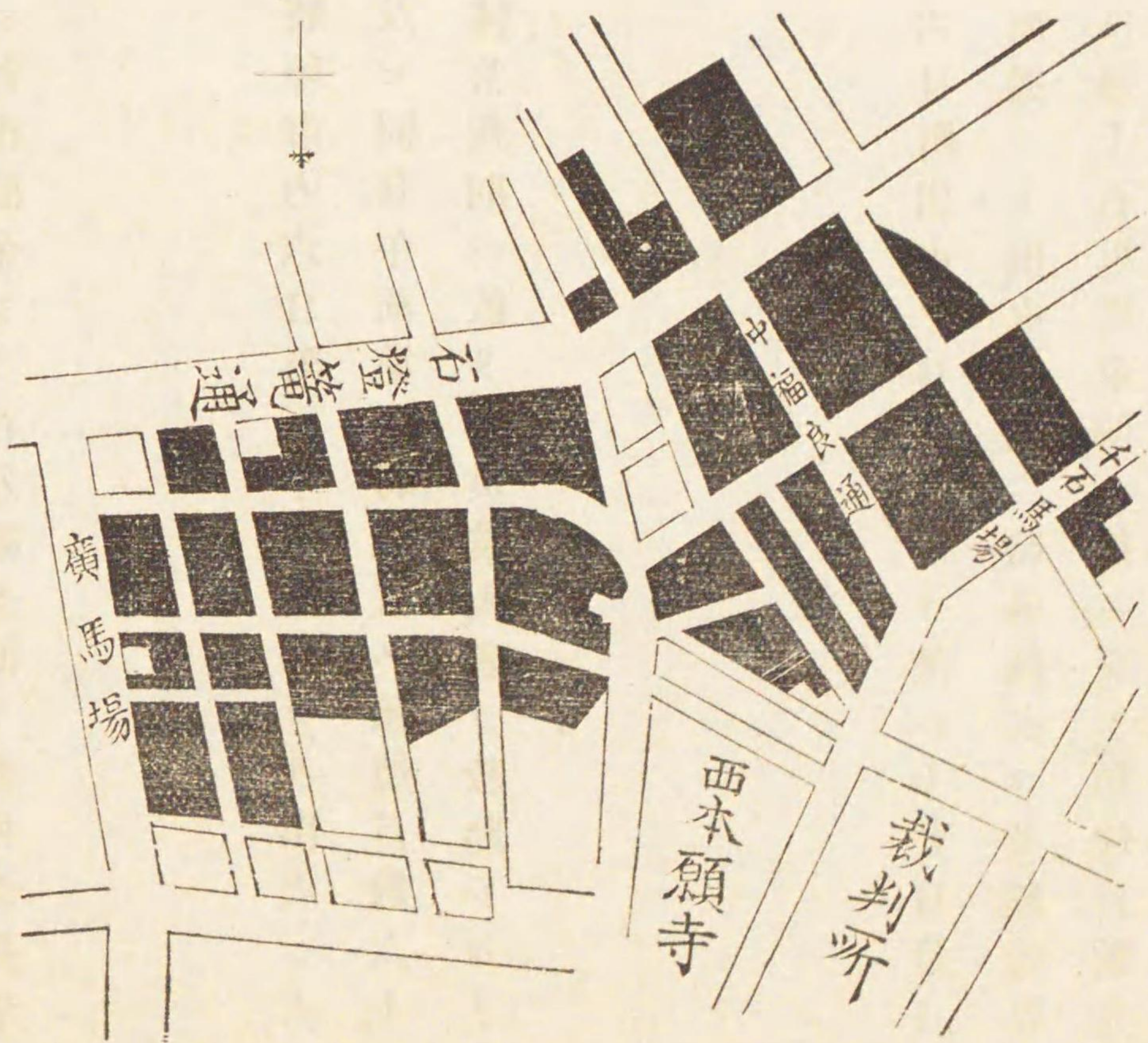
助シタリ即チ左ノ如シ

- 一、玄米四石九斗四升八合
- 此金額參拾參圓拾五錢貳厘
- 二、小屋掛料金貳百七拾圓
- 此戶數六十一戶

明治二十七年一月二十四日 是日午

前第二時五十分頃市内金生町井上方  
 烟筒ヨリ發火ス偶々東北ノ風稍々強  
 シ瞬間忽チ隣家ニ延燒シテ終ニ一大  
 火トナリ天明ニ至テ漸ク鎮火ス其延  
 燒區域ハ實ニ下圖ノ如ク

金生町、中町、東千石馬場町、山下町、山之  
 口馬場町及ビ吳服町等ニ亘リ罹災總  
 戶數五百七十二、内全燒戶數五百五十  
 五、半燒戶數三、引崩ン戶數八、大破戶數



六、其他全燒小屋十二、土藏八、學校二、教會堂一、半燒土藏一、今罹災狀況ヲ町別ニスレ  
 バ左ノ如シ

町名	全燒	半燒	引崩シ	大破	計	町名	全燒	半燒	引崩シ	大破	計
金生町	九〇	〇	二	〇	九二	山ノ口馬場町	二五	〇	〇	〇	二五
中町	一三七	一	〇	〇	一三八	吳服町	一	〇	〇	〇	一
東千石馬場町	二八二	二	五	五	二九四	計	六	三	八	六	五七二
山下町	二〇	〇	一	一	二二	備考	本表ハ住家以外ノモノヲ算入ス				

是レヨリ先キ帝國軍艦千代田號碇泊シテ鹿兒島港ニ在リ本曉ノ出火アルヤ同艦  
 一隊ノ水兵唧筒其他消火器ヲ携ヘテ上陸シ號音指揮ノ下ニ消防ニカヲ尽シタリ  
 鹿兒島郡役所ノ危難ヲ免レシハ實ニ同水兵ノ力ニ依レリ本曉ノ出火タルヤ叙上  
 ノ如ク延燒區域六ヶ町ニ亘リ罹災戶數五百七十二ヲ算シ實ニ近來ノ大火タリ加  
 フルニ鎮火後小雨アリ幾多罹災者ノ困難殆ンド名狀スベカラザルモノアリ市ハ  
 直ニ應急ノ処置ヲ取り全カヲ傾ケテ其救助ニ努ムル處アリ磯嶋津邸並ニ玉里邸  
 亦タ一般罹災者ノ窮狀ヲ憐ミテ磯島津邸ハ五百圓玉里邸ハ三百圓ヲ義捐シ又河

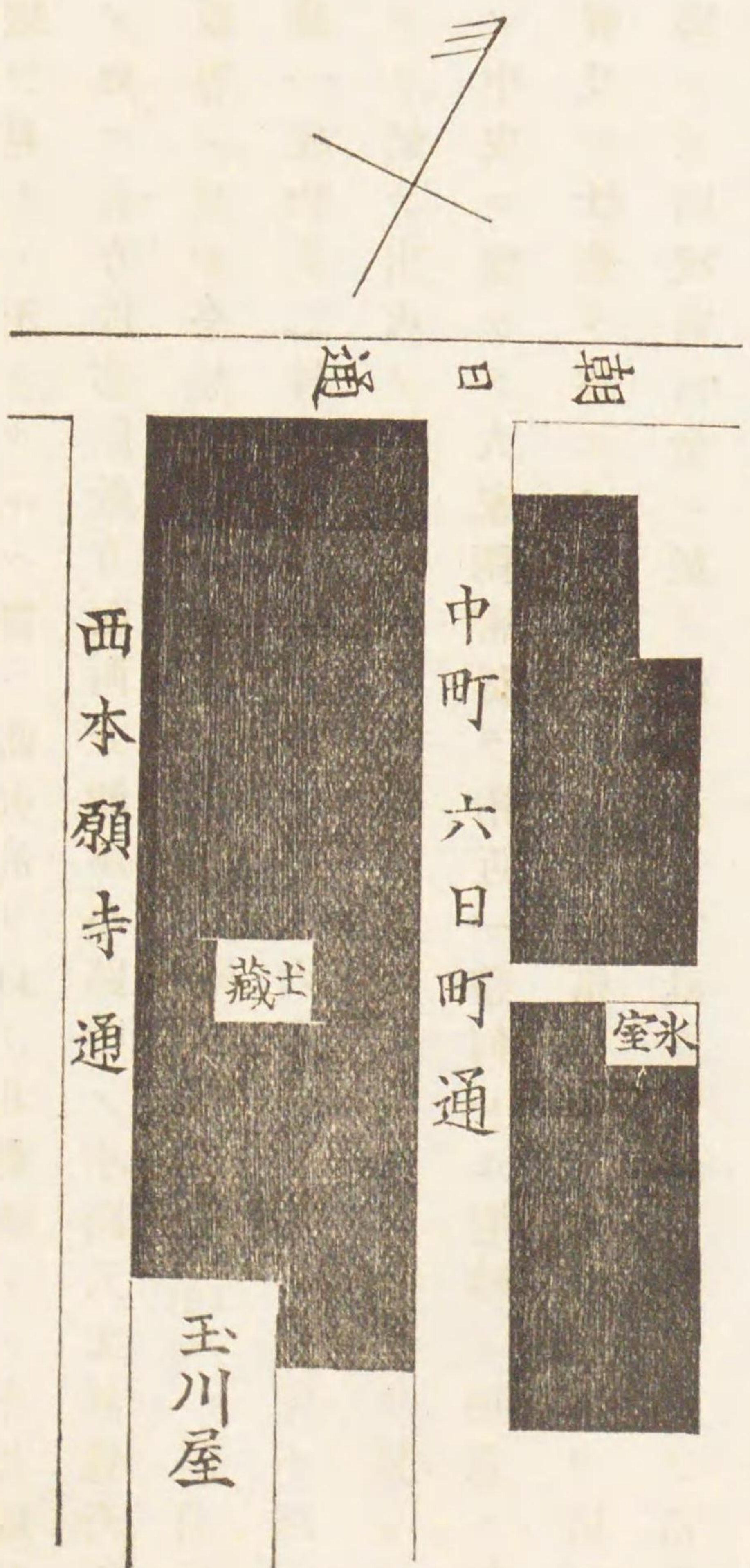


村伯其他實業家親睦會一般有志等奮テ義捐ノ舉アリ以テ罹災者ノ救助ニ資シタ

不幸ニシテ材料ヲ欠キ爲メニ市ガ此際ニ於テ救助シタル詳細ノ顛末ヲ掲グルコト能ハサルヲ遺憾トス

明治二十九年十月三十日 一昨二十七年一月以來ハ我市内ニ火災ヲ見ザリシガ是日午前四時二十分ノ頃市内中町八十番戶枝元洋服裁縫店ヨリ發火ス始メ出火スルヤ火ハ忽チ左右ノ兩隣家ヲ襲ヒ北隣ハ只ダ一戶ヲ燒失ヤシニ止マリ防火壁ノ遮キル所トナリシト雖モ其南隣ヲ襲ヒシ火勢ハ岐レテ二トナリ一ハ納屋通リヲ越ヘ一ハ全處ヨリ直ニ東ニ轉シタリ其納屋通リヲ越ヘタル火勢ハ黒松店ニ至リテ止マリ更ニ東方ニ轉シ中間坂元店一軒ヲ殘シテ納屋通片側ノ大部分ヲ灰燼ニ歸セシメ他ノ一ハ遂ニ中町通角迄片側ヲ烏有ニ歸セシメ午前六時頃鎮火ス全燒戶數十五引崩シ戶數一是日中町通リハ道幅狹キ爲メ消防作業上ニ至大ノ困難ヲ覺ヘ特ニ猛火ノ全通リ前面即チ東側ニ轉セントスルヲ防止シタル際ノ如キハ最モ困難ヲ極メタリ是日出火アルヤ偶々當港碇泊中ノ帝國軍艦海門號水兵三十餘名ヲ上陸セシメ消防ニ努メシムル所アリタリ

明治三十年六月八日 是日午後第二時西千石馬場町五十六番戶邸内英語夜學所ヨリ出火ス類燒ノ災ニ罹リタルモノナカリシモ燒死者一名ヲ出セリ  
明治三十二年一月二十六日 是日午後二時頃西本願寺前梶原佛具屋ヨリ出火ス全燒戶數三十三半燒戶數二全燒物置二半燒一其火災地ノ略圖ヲ掲グレバ左ノ如シ



明治三十四年十月二十三日 是日午前三時東千石町元志々目殿小路旅人宿新穗

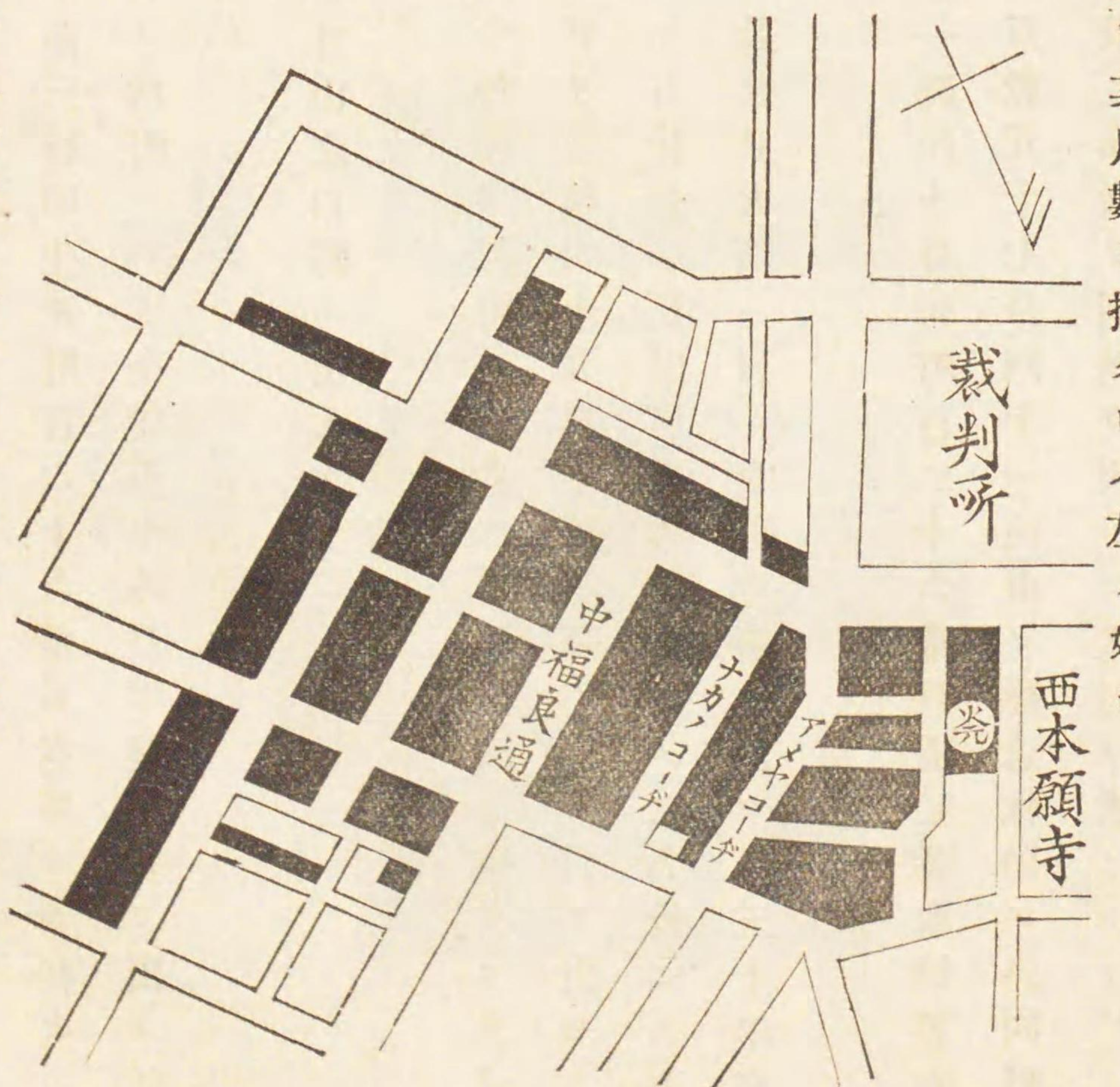


方ヨリ發火シ同五時半頃鎮火ス蓋シ近年ノ大火災ニシテ三十五年鹿兒島市水火防研究會ノ組織ヲ見ルニ至リタルハ實ニ此火災ヲ以テ其動機トス今其延燒區域ヲ示セバ左圖ノ如ク北方佐志屋敷方面西方館屋小路中ノ小路天文館通乃至伊勢殿屋敷花岡屋敷等ニ及ビ全燒戸數三百六十二(内劇場一、寄席一、寫眞屋一、勤工場一、旅人宿一、五アリ)引崩戸數四及廐十五棟石藏一棟物置二棟電信柱六本電燈柱十六本燒失且ツ館屋小路ニ負傷者三名ヲ出シタリ始メ出火ノ警鐘傳ハルヤ市ハ直ニ救助米ノ炊出ヲ爲シタルガ火災地恰モ市ノ中央ニ當リテ人家稠密從テ附近一帶何レモ避難ノ用意ニ忙殺セラレ爲メニ物資及ビ炊爨ヲ爲スノ民家ヲ缺キ應急措置上多大ノ困難ヲ感シ遂ニ師範學校ニ交渉シテ同校寄宿舎ニ於テ炊ギ赤十字社鹿兒島支部ニ謀リ常置看護婦二十名ヲシテ握飯ヲ作ラシメ午前七時ニ至テ全ク各罹災民家ニ配給ヲ終ヘタリ而シテ火勢ノ漸ク終熄ニ歸スルヤ類燒地及附近ノ道路ハ到ル處搬出セラレタル諸物品累々トシテ路上ニ滿ツルアルモ各所有者ハ或ハ全燒或ハ半燒ノ厄ニ遭遇セル者多ク只ダ呆然自失爲ス所ヲ知ラサルノ慘況ニ在リ乃チ市ハ常置掃除夫ノ臨時召集ヲ爲シ三十五臺ノ掃除用車輛ヲ以テ各之レガ運搬ニ從ハシメタリ市

カ罹災者ニ給與シタル小屋掛料及ビ其戸數ヲ掲クレバ左ノ如シ

一、小屋掛料ヲ給與シタル戸數 四十三  
 一、全 上 金額 金百九拾壹圓

明治三十五年二月二十一日 是日午前四時四十分頃鹿兒島郵便局ノ後ニ隣セル加藤洋服店ト全局構内電信工夫宿泊所ノ間ヨリ出火シ同七時鎮火ス其延燒區域ハ郵便局ヲ除キテ其一廓火元附近ヨリ加治木屋敷小路ニ出デ終ニ道ヲ越ヘテ東側ニ及ビ鹿兒島新聞社堺ニ至テ止リ全燒三十戸引崩シ四戸ヲ出シタリ是日本縣師範學校生徒六十有餘名唧筒一臺ヲ以テ大ニ消防ニカメタリ市ガ小屋掛料ヲ給シタルハ僅ニ六戸ニ過キズ





明治三十六年五月二十八日 鹿兒島縣立中學校分校寄宿舎是日火アリ  
明治三十七年十月十三日 是日午前三時頃生産町百六十六番戸空屋ヨリ發火シ  
全五時鎮火ス其延燒區域生産、易居ノ兩町ニ亘リ全燒五十八戸半燒三戸ヲ出ス給  
水充分ナラスシテ消防大ニ苦ミタリ

明治三十九年十二月三十一日 是日山之口町ニ出火アリ

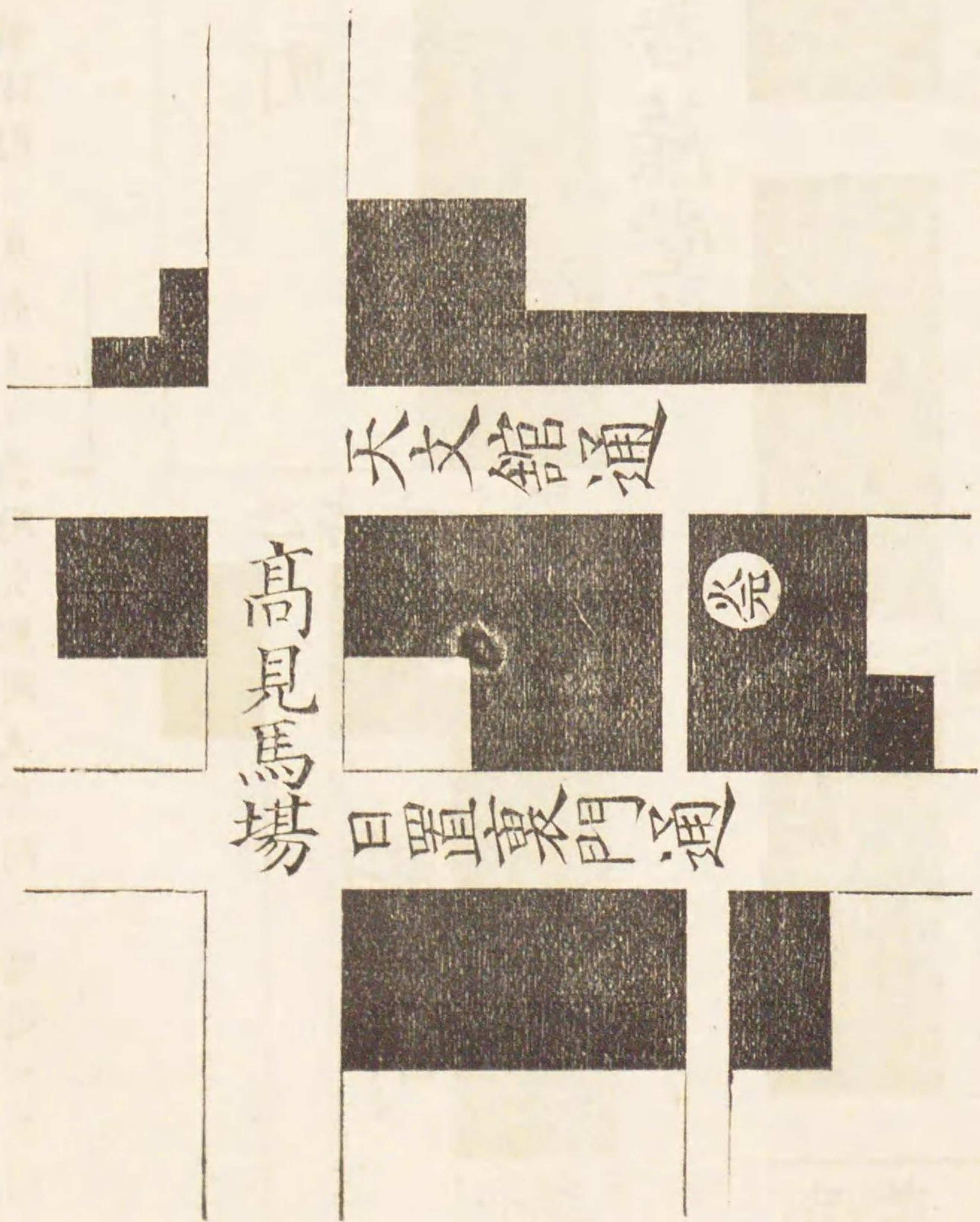
(材料ヲ欠キ其詳ヲ掲クル能ハズ)

明治四十年十月二日 午前二時二十分和泉屋町ニ出火アリ同五時頃鎮火ス其延  
燒區域惠美須、車及和泉屋ノ三町ニ亘リ全燒四十五戸半燒三戸引崩五戸ヲ出セリ  
各消防組ノ外歩兵第四十五聯隊ヨリ百廿名ノ兵出テテ防火ニカメ二名負傷ス上  
町ハ明治丁丑亂後大火ナカリシガ是日ノ火災ハ實ニ全町方面ニ於ケル三十年來  
ノ大火ナリシナリ

明治四十三年三月五日 是日午前一時四十分柳町百二十六番戸隈元薩摩燒製陶  
所ヨリ出火シ同三時鎮火ス此燒失戸數五十七戸(四十一棟)市ノ應急救助ノ外同町  
附近ニ於ケル特志者ハ罹災者ノ慘狀ニ多大ノ同情ヲ表シテ米穀ヲ贈リタリ

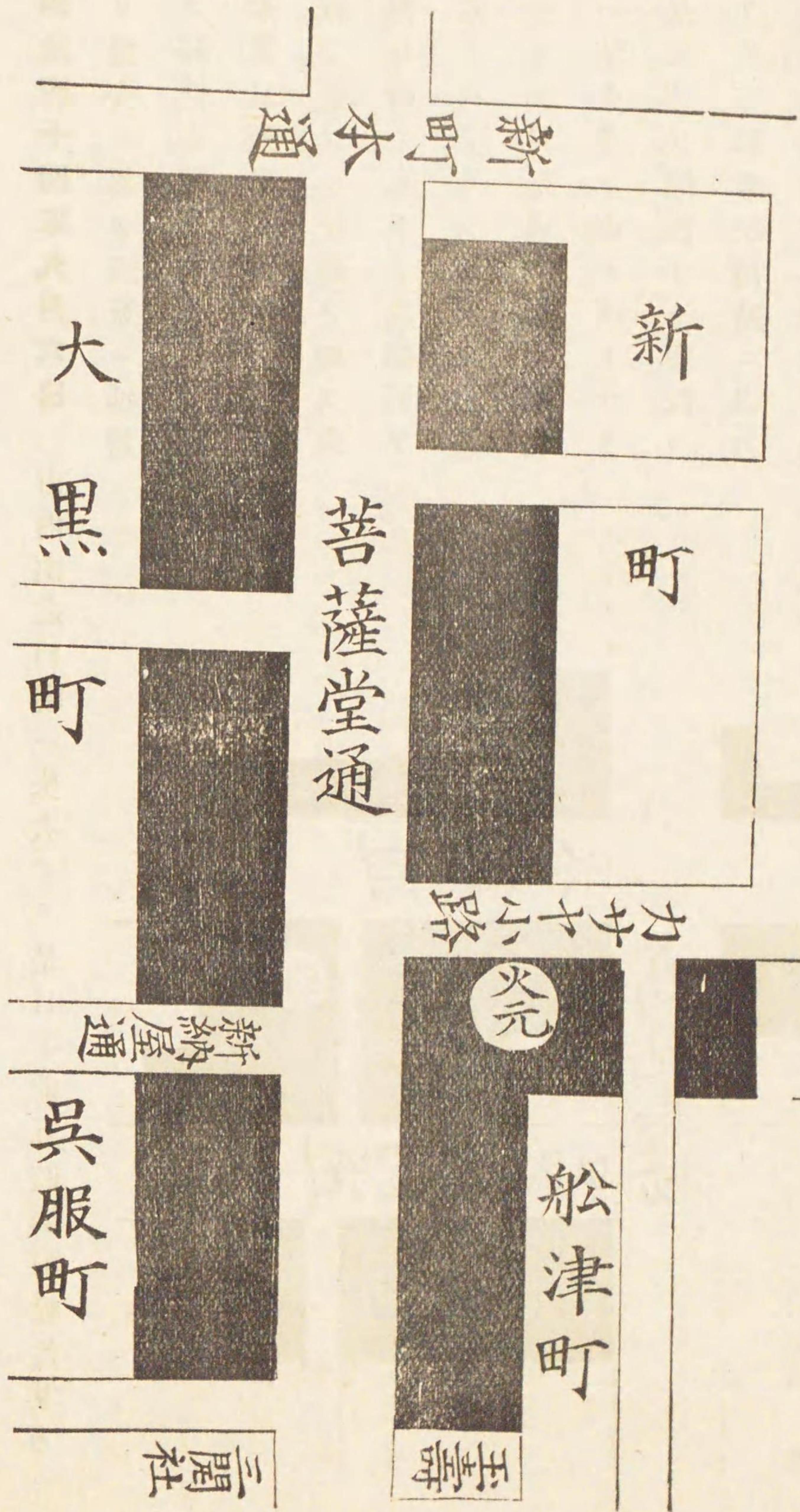
明治四十四年九月六日 市内山之口町ニ失火アリ是日午前五時同町帖佐某方ヨ

リ發火シ忽チ隣家ニ延燒  
ス時偶々朝嵐加リ且ツ近  
來累日天旱シ爲ニ火勢猛  
威ヲ逞フシ左圖ノ如ク東  
西北面ニ亘リテ炎燄天ヲ  
焦シ其勢甚シク天文館通  
及ヒ高見馬場ヲ越テ東北  
ハ防火壁ノ遮ル所トナリ  
是日歩兵第四十五聯隊ヨ  
リ兵卒馳來テ消防ニ盡力  
シ午前八時終ニ鎮火ス燒  
失九十六棟半燒引倒二十  
餘棟ニ及タリ市ハ失火ヲ認ムルヤ急ニ石燈籠通神川莊吉方ニ焚出所ヲ設ケ中座





ニ運搬シ茲ニ焚出救與所ノ札ヲ掲ケテ罹災者ヲ救助シタリ  
明治四十四年十一月九日 船津町ニ失火アリ新町吳服町大黒町ニ延焼シテ白晝



ノ大火トナル被害戸數ハ全燒四十五半燒一土藏二棟ニシテ消防夫三名負傷ス是日午前九時船津町旅人宿徳永方ヨリ火ヲ發シ近來ノ旱天ニ乘シ火勢猛烈ヲ極メ瞬間ニ四隣ヲ燒盡ス偶々北風ハ風位ヲ南西ニ變シ火ハ驀然北東ヲ掠メ黒烟菩薩堂通ヲ捲キ兩側ヲ焦土ニ歸シ左圖ノ如ク船津町ハ玉壽吳服店ノ防火壁ニ遮ラレ吳服町ハ三開社ノ小路ニ止マリ新町大黒町ハ新町本通ニ於テ防止シ同十一時全ク鎮火ス是日縣立第二中學校生徒ハ其備付ノ唧筒ヲ以テ消防ニ盡カス負傷者數名アリ

### 四 水 災

明治三十四年六月二十九日 是兩日間雨大ニ降ル西田新照院高麗町上ノ園方面多數ノ浸水家屋ヲ出シ其他被害多シ市ハ防水ノ處置ヲ取リ救助船ヲ出シ又各罹災民家ニ食料ヲ給スル等救護ニカメタリ其被害左ノ如シ

- 一、浸水家屋 床上二百五十五戸 計四百三十三戸
- 一、家屋半潰 床下二百七十八戸
- 一、堤防ノ破損 二 戸
- 一、道路ノ破損 八ヶ所(二百二間)
- 五ヶ所(二百九間)



- 一、埋没及流失シタル田 八反三畝歩
- 一、全上畑 二畝歩
- 一、浸水シタル田 廿四町四反歩
- 一、全上畑 二反歩
- 一、全上宅地 十四町七反九畝歩
- 一、用悪水路溜池堰溝渠樋等ノ破損 四ヶ所
- 一、石垣ノ破壞 四ヶ所
- 一、山崩レ 十六ヶ所

明治三十四年七月一日乃至二十一日 是月一日以來大雨斷續二十一日ニ至ル西田方面其他甲突川沿岸多數ノ浸水家屋ヲ出ス市ハ例ニ依リ應急ノ處置ヲ取り其救護ニ任シタリ其被害左ノ如シ

- 一、負傷者 二人
- 一、浸水家屋 床上百三十七戸 計三百八十四戸  
床下二百四十七戸  
全潰二戸  
半潰二戸
- 一、住家 十四ヶ所(二百八十九間)
- 一、堤防ノ破損 十二ヶ所(六百五十一間)
- 一、道路ノ破損 一
- 一、橋梁ノ破損 一
- 一、埋没及流失シタル畑田 一反二畝歩

- 一、流水シタル
- 一、石垣ノ破壞
- 一、山崩レ

畑田

- 三六町二反歩
- 一ヶ所
- 六ヶ所

明治三十四年九月三日 公爵島津忠重公ハ是歲六七月ニ於ケル縣下ノ水災被害者救恤トシテ金壹千圓ノ義捐アリ是日知事千頭清臣本市へ金拾參圓ヲ配當ス市ハ直ニ之ヲ七月ノ水害罹災者ニ配與シタリ即チ左ノ如シ

- 一、金五圓 負傷者 市内小川町四百六十五番戸七號 柳元藤太郎
- 一、金參圓 住家全潰 同 人
- 一、金五圓 負傷者 市内中町百七十一番戸 小川吉兵衛

明治三十九年六月二十一日 是日大雨西田方面其他浸水家屋ヲ出シ市ハ直ニ應急處置ヲ取り其救護ニ從事シタリ(材料チ欠キ爲メニ被害狀況ヲ詳ニスルヲ得ス)

明治四十年六月二十九日 是日大雨西田方面其他ニ浸水家屋五十九戸ヲ出ス市ハ直ニ應急處置ヲ取りテ其救護ニ任シタリ被害左ノ如シ

- 一、浸水家屋 床下 五十九戸
- 一、浸水シタル田地 六反五畝歩
- 田 十町

明治四十年七月六日 大降雨古老皆曰ク六十年來ノ大雨ナリト前日ヨリ豪雨ニ



シテ是日ニ至テ尙竭マス午後六時頃甲突川氾濫シ西田方面一帯及ヒ新上橋南北新照院方面西田橋以南下流沿岸ノ高麗町荒田町方面並ニ平ノ町西千石町加治屋町新屋敷町樋之口町塩屋ノ各方面ニ亘リテ浸水シ特ニ西田方面ト新照院國道筋一帯最モ甚シク濁流滔々遂ニ舟ヲ浮ヘテ人ヲ往來セシメタリ始メ事ノ急ナルヤ市ハ直ニ各方面ニ吏員ヲ分派シ炊爨所ヲ設ケ一方警察ト協力シテ避難ト防水ニ努メ廳員殆ンド夜ヲ徹シテ極力救護ノ事ニ當リタリ夜ニ入り漸ク減水ス是日稻荷川亦タ氾濫シ附近幾多ノ浸水家屋ヲ出ス市内ノ被害左ノ如シ

- 一、負傷者
- 一、浸水家屋
- 一、堤防ノ破損
- 一、道路ノ破損
- 一、橋梁ノ破損
- 一、浸水シタル宅地
- 一、石垣ノ破壊
- 一、山崩

- 一、人
- 床上下四百二十三戸 計六百六十六戸
- 壹ヶ所(四十間)
- 壹ヶ所(二百四十間)
- 三十ヶ所(八百七十間)
- 壹ヶ所
- 百八町八反四畝歩
- 十五町歩
- 三ヶ所
- 二ヶ所

明治四十四年六月二十二日 大雨河川氾濫ス甲突川最モ甚シク前夜來豪雨トナ

リ是日濁流大ニ漲ル堤防ノ危険ニ陥リシハ新上橋ノ上流西田橋ノ下流武橋ノ上流渾テ河西ニ當ル方面ナリ市内橋梁ノ流失堤防ノ破壊ナシト雖モ西田方面ヨリ新照院町高麗町塩屋村樋之口町ニ亘リテ家屋浸水少ナカラス市ハ是等罹災者ヲ救護シテ食料ヲ給與ス其戸數西田町西田村合シテ四十、高麗町十三即チ市内ノ被害左ノ如シ

- 一、浸水家屋
- 一、家屋全潰
- 一、家屋半潰
- 一、道路ノ埋没
- 一、道路ノ破損
- 一、山崩

- 床上下五百七十五戸 計五百七十二戸
- 一、戸
- 一、戸
- 四ヶ所(二十六間)
- 三十八ヶ所(二千百十五間)
- 四ヶ所

明治四十五年六月十五日 曉來雨強ク亭午ヲ過キ其勢車軸ヲ流スカ如ク滂沛トナリ而シテ三時間ニ亘ル故ニ甲突川大ニ漲ル新上橋附近ヨリ西田方面へ濁流氾濫シ武ノ田圃湖水ノ如ク草牟田町ハ堤防ノ溢流家屋ヲ浸シ國道ヲ奔流ス稻荷川亦漲テ濁流四方ニ氾濫ス市ハ各方面ニ吏員ヲ急派シ防水ニ盡カス乃チ炊爨所ヲ設テ救護ニ努ム尙ホ警察ト協力シテ西田町ニ舟二隻ヲ浮ベテ通行人ヲ保護シ警



戒ヲ加ヘ以テ家屋ノ流失人畜ノ被害ナキヲ得タリ浸水區域ノ炊事ヲ爲ス能ハサルモノニ之カ給與ヲ施シタルハ西田、鷹師、藥師、新照院、草牟田、池之上、鼓川ノ七ヶ町ニ亘リテ其戸數約二百白米八斗ヲ要シタリ即チ市内ノ被害左ノ如シ

- 一、浸水家屋
  - 一、堤防ノ決潰
  - 一、堤防ノ破損
  - 一、道路ノ埋没
  - 一、道路ノ流失
  - 一、道路ノ破損
  - 一、浸水畑田
  - 一、浸水宅地
- 床上十八戸
  - 床下二百四十戸
  - 計二百五十八戸
  - 三ヶ所(百五十七間)
  - 一ヶ所(百十一間)
  - 七ヶ所(四十六間)
  - 七ヶ所(五十五間)
  - 五十四ヶ所(八百九十八間)
  - 一町歩
  - 二町歩
  - 八反歩

### 五 救荒豫備蓄積金

本市ハ明治三十四年夏季霖雨ノ際罹災者救助ノ爲メ市内有志ノ寄附金ヲ募集シ其金額實ニ壹千五百圓參拾錢五厘ニ達シタルガ内金四百九拾九圓貳拾參錢ハ救助金トシテ已ニ之ヲ支出シ金壹千壹圓七錢五厘ヲ餘シタルニ依リ其利殖ヲ圖ル

ノ目的ヲ以テ該殘餘金ハ全年九月二十日農工銀行へ預入レ爾來年月ヲ經ルノ久シキ終ニ其金額壹千七百參拾壹圓拾七錢五厘ニ達シタリ然リ而シテ該殘餘金ハ當時罹災者ノ救助金トシテ市ニ於テ保管ノコトニ寄附者ノ同意ヲ得タルモノナルヲ以テ明治四十三年六月二十二日市會ニ諮リテ其贊同ヲ得本市救荒豫備蓄積金トシテ不時ノ用ニ供スルコトナレリ是レ實ニ當時ニ於ケル幾多寄附者ノ賜トス



### 報時機關

我鹿兒島ハ舊藩時代ヨリ維新後明治丁丑ノ乱マデハ鶴嶺ノ東北同山勢ノ盡クル處今ノ縣立鹿兒島病院(舊御廐)ノ上所謂胡麻燒ノ鐘撞堂ガ唯一ノ報時機關タリシモ同戰乱中該鐘撞堂ハ遂ニ兵燹ノ厄ニ罹リタリ然レモ其後區制時代現今ノ鹿兒島商業會議所々在地ニ鐘樓設置セラレ胡麻燒ノ時鐘此處ニ移サレ後明治二十二年市制實施ノ際其所管市ニ移リ市内不斷光院同時鐘ノ貸與ヲ出願シテ許サレ爾來同院ニ於テハ晝間ニ限リ時ヲ報シ一面火災等ノ際非常ヲ報シ來リシト雖モ往々時間ノ正確ヲ欲クコアリ市民之ヲ不便トシタリ然ルニ明治二十九年四月同院住職石仲舜哲市ニ對シテ同時鐘費中へ市費ノ補助ヲ仰キ以テ晝夜連續シテ市内報時ノ任ニ當ランコトヲ出願シ市會ノ容ル、處トナリ爾來市ハ明治四十二年度迄十四年間市費補助ノ下ニ報時機關ヲ扶ケ來リ明治四十二年十月ニ至リ初メテ市營ヲ以テ午砲ノ設置ヲ見ルニ至リタリ之ヲ我鹿城ニ於ケル報時機關沿革ノ梗概トス以下專ラ市營事業タル午砲設置ニ關スル事蹟ヲ明カニス

#### 附記

不斷光院へ市ヨリ貸與セル時鐘ハ午砲ノ設置ト同時ニ水火災其他非常ノ際警鐘ヲ撞キ鳴ス條件ヲ以テ無料貸與セラル

明治三十九年十二月二十二日 是日鹿兒島市會開カル議員染川權輔市會ニ建議シテ曰ク市ガ現下補助金ヲ交付シツ、アル市内易居町不斷光院ノ時鐘ハ往々ニシテ時間ノ正確ヲ欲ク事アリ故ニ市ニ午砲ノ設備ヲ爲スノ必要ヲ認ム乞フ當局者之レガ調査ヲ遂ケ以テ相當提案アラシコトヲト滿場之ヲ賛シ乃チ市會ノ可決スル處トナル

明治三十九年十二月二十八日 市午砲用火砲拂下ノ件ニ關シ市長ハ是日陸軍大臣へ對シ左ノ上申ヲ爲ス

#### 庶進第八四號

本市ニ於テ午砲ノ必要有之夫々準備計畫中ニ候得共如何セン使用スベキ該砲求ムルニ由ナク就テハ三十七八年戰役ニ於ケル戦利品午砲ニ使用シ得ル適當ナル砲一臺特別ノ御詮議ヲ以テ無償ニテ御拂下相成度此段及上申候也

明治三十九年十二月二十八日

鹿兒島市長 上村慶吉

陸軍大臣子爵寺内正毅殿

明治四十年一月十一日 客臘午砲用火砲拂下ノ件ニ關シ市長ガ陸軍大臣へ提出



シタル上申ニ對シ陸軍省副官ヨリ左ノ通牒來ル

陸軍省 受領 滿發第二九號

陸軍省副官 立花小一郎

鹿兒島市長上村慶吉殿

午砲用火砲拂下ノ件ニ關シ庶進第八四號ヲ以テ當大臣宛出願相成候處戰利品ハ拂下又ハ下附相成ラサル證議ニ有之候ニ付承知相成度尤モ左記本邦舊砲火砲ニ候ヘバ下段ノ價格ヲ以テ拂下相成候條此段及通牒候也

追テ拂下方出願ノ場合ニハ取締上差支ナキ旨貴縣知事ノ副申ヲ要スル義ニ有之候將又庶進第八四號ノ願書ハ一應返戻候

品目	壹門	(空砲發火用)	價格	(運搬及荷造)
四斤野砲	一百五拾圓	(附屬品共)	費ヲ含マス	
長四斤砲	一百圓			
四斤山砲	七拾五圓			

明治四十二年三月五日 染川權輔外二百五十五名本市午砲設備費へ金九百七十

八圓二十九錢ヲ寄附シ市會之ヲ採納ス

明治四十二年三月 是月門司市ニ於テ全國市長會議ノ開催アリ市長之ニ出席ス

此ノ時機ヲ以テ佐世保市へ出張シ市午砲ノ件ニ關シ佐世保鎮守府ニ就キ種々調査交渉ヲ試ム

明治四十二年四月十三日 市長ハ是日市午砲用火砲拂下ノ件ニ關シ本縣知事ヲ經陸軍大臣へ左ノ出願ヲ爲ス

庶進第三一號

今般本市ニ午砲設置致度候間貴省ニ於テ御不用ニ屬シ口徑五吋内外ニシテ銅製ノモノ有之候ハバ相當代價ヲ以テ御拂下相成度此段奉願候也

明治四十二年四月十三日

鹿兒島市長 有川 貞壽

陸軍大臣子爵寺內正毅殿

明治四十二年五月四日 曩キニ市長ガ陸軍大臣へ出願セル市午砲用火砲拂下ノ件ニ關シ關屋本縣内務部長ヨリ左ノ通牒來ル

甲一第一三五七號

客月十三日庶進第三一號ノ一ヲ以テ午砲用火砲拂下ノ件進達方申出相成候處陸軍省ニ於テハ目下剩餘火砲無之乍遺憾證議不相成大阪砲兵工廠へ製作方直接注文可然旨回答ニ接シ候條御了知相成度此段及通牒候也

明治四十二年五月四日

明治四十二年六月十二日 是日市午砲用火砲ノ件ニ關シ佐世保鎮守府副官ヨリ市長へ左ノ通知來レリ

佐鎮第五六〇號

豫テ御照會ノ貴市號砲用トシテ廢砲供用方ノ件了承右ノ目下當府保管中ノ舊砲一門

鹿兒島市史 報時機關



相當手續履行相成候へバ支障無之ト存候尤モ制規ノ手續又ハ書式トテハ規定無之次  
第二付相當理由ノ下ニ舊砲一門一式保管轉換方縣知事ヲ經内務大臣へ具申可然ト思  
考致候  
別紙號砲一門用品名及數量表一相添  
右通知ス  
終リ

品目	員數	品目	員數	記事
短四斤山砲	壹門	短四斤山砲	壹個	
砲口栓	壹個	洗帚並裝填杖	壹個	
禮砲用木製砲架	壹臺	五號藥囊盒	壹個	
短火門錐	壹個	短火門針	壹個	
小牽索	貳個	釘拔並摩擦管拔	壹個	
摩擦管盒	壹個	駐退索	貳房	
駐退索環	貳個	拇囊	壹個	

是ヨリ先キ市午砲用火砲ノ件ニ關シ市長ト有馬佐世保鎮守府司令長官トノ間ニ  
書面ノ往復アリ即チ本通知ヲ見ルニ至レルモノ偏ニ同司令長官幹旋ノ結果ナリ  
トス

明治四十二年六月十六日 是日市長ハ知事ヲ經内務大臣ニ向テ市午砲用火砲ト

シテ佐世保鎮守府保管ニ係ル舊砲一門保管轉換ノ件ニ關シテ左ノ具申ヲ爲ス

庶進第五五號

本市ニ於テハ未タ號砲ノ設備無之公衆ノ不便ヲ感シ候ニ就テハ幸ヒ佐世保鎮守府ニ  
舊砲一門一式有之趣ニ候間保管轉換方特別ノ御詮議ヲ以テ御取計相成度此段具申仕  
候也

明治四十二年六月十六日

鹿兒島市長 有川 貞 壽

内務大臣法學博士男爵平田東助殿

明治四十二年七月十二日 是日市ハ午砲使用ノ件ニ關シ本縣知事へ左ノ上申ヲ  
爲ス

庶進第六二號

本市ニ於テハ未タ午砲ノ設備無之公衆ノ不便ヲ感シ候ニ付テハ幸ニ佐世保鎮守府ニ  
舊砲一門一式有之趣ニ候間貴廳へ保管轉換ノ上本市ニ於テ午砲用トシテ使用方御許  
可相成候様致度此段上申候也

鹿兒島縣知事阪本鈺之助殿

鹿兒島市長代理助役 山本 德次郎

明治四十二年八月二十五日 午砲發送ノ件ニ關シ佐世保海軍工廠會計部ヨリ本  
市役所へ左ノ照會來ル

佐工會第八九六號

鹿兒島市史 報時機關



今回海軍大臣ノ命令ニヨリ貴所へ保管轉換スベキ短四斤山砲(附屬品共)一門運搬賃左ノ通りニ有之候處御差支ナクバ發送可致候條何分ノ御回報有之度  
(運賃明細及兵器明細書省署)

明治四十二年八月二十八日 午砲發送ノ件ニ關スル海軍工廠會計部ノ照會ニ對シ市ハ左ノ回答ヲ爲シ以テ其發送ヲ依托ス

庶發第二〇九號

佐工會第八九六號ヲ以テ山砲發送方ノ件御照會ノ趣了承右ハ運賃明細書ノ通り差支無之候間共同組石井善次郎ニ御下命發送方御取計相成度此段及回答候也

明治四十二年九月三日 是日市午砲用短四斤山砲附屬品ト共ニ海路到着ス同四日本縣内務部長ヨリ市長へ左ノ照會來ル

甲一第二二七九號

去ル七月十二日庶進第六二號ヲ以テ上申相成候貴市午砲ニ要スル火砲一式保管轉換ノ上貴市へ無料使用ノ件客月二十日内務大臣ノ許可ヲ得候ニ付テハ號砲設備完成ノ上ハ其旨直ニ報告相成度此段及照會候也

明治四十二年十月二十五日 市長ハ午砲試發ノ件ニ關シ左ノ告示ヲ發シ同時ニ當警察署へ通知スル所アリタリ

庶發第一一號

本市午砲建設ニ付來ル二十八日午後二時鹿兒島測候所附近ニ於テ試發ス

是日市參事會ハ午砲附屬火藥庫壹棟建設ノ議ヲ決シ市長ハ鹿兒島警察署長へ倉庫建設届出ヲ爲ス

明治四十二年十月二十八日 市ハ鹿兒島測候所々在地上ノ原々頭ニ於テ午砲ノ試發ヲ行フ

是日市參事會ハ金五十五圓六拾錢ノ豫算ヲ以テ本市池田嘉左衛門へ午砲附屬火藥庫建設ヲ結約シ同二十九日起工明治四十二年十一月十日迄竣工ノ契約書ヲ徵ス

明治四十二年十月三十日 是日市ハ午砲ヲ來ル十一月三日正午ヨリ發砲スヘキ旨當警察署ニ通知ヲ爲シタリ

明治四十二年十一月二日 是日午砲ノ設備成ル市長ハ發砲實行ノ件ニ關シ本縣内務部長ニ左ノ報告ヲ爲ス

庶進第六二號

本市午砲設備完成ニ付來ル三日正午ヨリ發砲致候ニ付此段及報告候也  
但場所ハ鹿兒島側候所下測(冷水町三二八番地民有地畑反別四畝歩内)

鹿兒島市史 報時機關

六二一



明治四十二年十一月三日 正式ニ午砲ヲ放ツ是ヨリ先キ十月二十八日市ハ午砲ノ試發ヲ行ヒシガ肥薩鐵道開通式舉行ノ日ニ先ツコト十七日は日ヨリ初メテ午砲ヲ放ツコト、ナレリ

明治四十二年十一月十日 是ヨリ先キ十月十五日起工セル市午砲用火藥倉庫ハ是日工事全ク竣ル此費金五拾五圓六拾錢

明治四十二年十一月十五日 市ハ午砲附屬火藥倉庫建築竣工ノ旨鹿兒島警察署長へ届出ヲ爲ス同十六日鹿兒島警察署長ヨリ該火藥庫使用承認ノ通知來レリ

明治四十二年十一月十八日 多量火藥類讓受許可證ノ交附アリ是ヨリ先キ本月十五日市長ハ本縣知事ニ向テ午砲用火藥二十四貫目(百五十斤)及ヒ導火線十二把市内火藥商横山辰次郎ヨリ讓受ノ許可證下附ノ出願ヲ爲セシニ是日ヲ以テ同許可證ノ交附ヲ受タリ

明治四十二年十二月十四日 市長ハ是日午砲用敷地所有者崎元直哉ト左ノ契約ヲ締結ス

契約書

今般崎元直哉所有ニ係ル本市冷水町三百二十八番地ノ内畑反別四畝歩ヲ午砲用敷地トシテ本市ニ借用致候ニ付契約スル左ノ如シ

- 一、同地所貸借ノ期間ハ明治四十二年十一月一日ヨリ向フ拾ケ年トス
  - 一、該借地料ハ壹ケ年壹畝歩ニ付壹圓ノ割合ヲ以テ本市ヨリ毎年十二月ニ金四圓ヲ支拂フベキモノトス
  - 一、前項期間内下雖モ公共上ノ都合ニ由テハ本契約ヲ解ケテ得ルモノトス
- 右確守スル爲メ双方連署スルモノ也

明治四十二年十二月十四日 鹿兒島市參事會 借主 市長 有川 貞壽  
鹿兒島市冷水町六番地 貸主 崎元 直哉

明治四十三年三月二十四日 多量火藥類讓受許可證ノ交附アリ是ヨリ先キ本月廿二日市長ハ知事ニ向テ午砲用火藥六百貫目及導火線二十把火藥商横山辰次郎同田中宗太郎ヨリ讓受ノ許可證下付ノ出願ヲ爲セシニ是日ヲ以テ該許可證ノ交附ヲ受タリ

明治四十三年四月七日 昨年三月染川權輔外二百五十五名ノ寄附シタル午砲設備費ノ現在額五百九拾六圓貳拾七錢參厘ヲ午砲基本財産ト爲ス

明治四十三年五月七日 是日零時七分市午砲附屬火藥庫爆發ス原因不明故ニ市長ハ同九日本縣知事ニ左ノ報告ヲ爲ス



庶進第三四號

本市使用ノ午砲用火藥庫去ル七日正午十二時七分爆發シ倉庫及砲附屬品中左記物品破壊及ヒ散乱焼失ニ付原因取調候處同日ハ兼テ規程ノ砲手心得ニ基キ午砲監督者鹿角義助監督ノ下ニ砲手東紋次郎倉庫ノ開閉並ニ發砲ノ準備其他一切ヲナシ無事發砲ヲ終ヘ歸所後約四五分ニシテ轟然爆發セシ次第ニテ倉庫開閉ノ際ハ監督者ニ於テモ大ニ注意シ火藥出入ニハ最モ嚴重ノ取扱ヲ爲シ居ルナレバ無論火氣ヲ帶ビ居ル危險物等ヲ携帶出入スル様ノ事モ無之尙ホ形跡焼失ノ事ナレバ何分調査ノ資料トナルモノナク結局監督及ヒ砲手ノ口答ニヨリ想像判定スルノ外無之原因不明ニ付不取敢右形行及報告候也

明治四十三年五月九日

鹿兒島市長 有川貞壽

鹿兒島縣知事阪本鈺之助殿

左記

- |           |     |                 |     |
|-----------|-----|-----------------|-----|
| 一、藥 囊 盒   | 壹 個 | 一、火 門 針         | 壹 個 |
| 一、火 門 錐   | 壹 個 | 一、小 牽 索         | 貳 個 |
| 一、摩 擦 管 盒 | 壹 個 | 一、針 拔 兼 摩 擦 管 技 | 壹 個 |
| 一、拇 囊     | 壹 個 | 一、洗 簪 兼 裝 填 杖   | 壹 個 |

明治四十三年五月十六日 市長ハ是日午砲附屬火藥庫再築ノ件ニ關シ本縣知事ヘ左ノ申請ヲ爲シ同三十日其許可ヲ得タリ

庶進第三九號

本市午砲用火藥倉庫本月七日爆發シ全部焼失致候ニ付更ニ從前通り建築ニ付テハ金

六拾貳圓六拾錢四厘ヲ要候ニ付午砲基本財産ノ内ヨリ支出ノ儀市會ノ議決ヲ經候ニ付至急御許可相成候様致度此段申請候也

明治四十三年五月十六日

鹿兒島市長 有川貞壽

鹿兒島縣知事阪本鈺之助殿

明治四十三年五月二十八日 市長ハ鹿兒島警察署長ヘ午砲附屬火藥庫再建築届出ヲ爲ス

明治四十三年七月四日 是ヨリ先キ六月十七日起工セル再建築中ノ午砲附屬火藥庫是日工事全ク竣ル此費金六拾壹圓參拾七錢壹厘同五日市長ハ鹿兒島警察署長ヘ同火藥庫竣成ノ届出ヲ爲ス



### 公園

城山ノ一脈蜿蜒トシテ東西ニ亘リ屹立ス其中央ノ山皴裂ケタル處ヨリ東北端ニ連リ鬱然トシテ蒼翠滴ルカ如キ全部ヲ総稱シテ市ノ公園地トス初メ翠微ノ一爽塏ヲ拓キ亭榭ヲ構ヘ僅ニ遊覽ノ地ニ供シ漸次ニ之ヲ擴張ス今ハ則チ山腹ヲ鑿チ垣途ヲ通シ勞セスシテ山巔ニ躋ルヲ得ベク只東北端ヨリ登ルモノ纔ニ墜道ヲ設クルノミ山ノ絶頂亦平路ヲ作り四方ニ通ス眼下ニ魔城ノ巷衢聖壁粉堞軒ヲ接シ錦江灣ヲ繞リ其渺茫タル一大灣ノ中矢ニ櫻島巍然トシテ天ニ聳ヘ宛然倒扇ノ浮フカ如シ波上常ニ白帆ノ搖曳汽船ノ往來絶ユルコト無ク灣中ニ沖小島等ノ島嶼アリテ水烟ノ間ニ隱約ス東ニ霧嶋ノ山嶽崛起シテ南ニ連亘シ高隈ノ山脈ニ接シ猶ホ波浪ノ起伏スルカ如ク南端ニ走り彼ノ薩摩富士ノ稱アル開聞岳ト相對シテ此一大灣ヲ包擁ス晴雨ニ依リ朝暮ノ變幻實ニ其景端倪スヘカラサルナリ況ンヤ四時ノ變遷ニ於テヲヤ此雄渾偉大ナル風光ニ接シテ彼ノ剩水殘山人工ヲ施シテ以テ成ル所ノ公園ニ第ヲ曳ハ如何ニ明媚ヲ極ムト雖モ其胸襟ヲ壯濶ナラシムルコト能ハサルノ憾アリ往時文政ノ元年頼山陽筑紫ヲ周遊シ遍ク豊肥筑ノ山水ヲ

奚囊ニ収メ而シテ我鹿兒島ニ來ルヤ慶灣ノ湛ヘタル中央ニ櫻島ノ聳ルヲ見テ乃チ絶叫シテ曰ク此景ノ勝絶實ニ九州ニ冠タリト頻ニ歎賞シテ措ザリキ宜ナル哉今則此天然ノ一大公園ヲ城山ヨリ脚下ニ展眸スルニ於テハ其壯快如何ヅヤ城山公園ハ何等施設ヲ要セズシテ可ナランカ

此公園ヲ記述スルニハ暫ク往時ニ遡テ其地ノ由來ヲ叙セサル可ラサルナリ城山ハ上古上山城ト稱シ觀應ノ頃上山某ノ居城ナリト傳フ後ニハ鶴丸城ト云フ其山ノ形狀舞鶴ニ似タルヲ以テナリ慶長年中年月不詳或ハ慶長十一年又ハ同十七年ト云島津氏十八代家久公當城ヲ築キテ内城ヨリ移ル内城ハ當城ノ北十餘町ニ在リ今其跡ヲ内ノ丸(上龍尾町)ト云フ家久公以來奕世島津氏ノ居城ニシテ薩隅日三州ヲ領シ兼琉球ヲ司配ス長ク九州ノ重鎮トシテ威武宇内ニ震ヘリ其居城ハ敢テ譙樓外廓ヲ設クルニ非ス纔ニ濠塹ヲ構ヘルモ溝渠ニ均シク乃チ所謂城ハ屋形造ナリ故ニ城門ノ大路ヲ今ニ屋形ノ馬場ト唱フ

明治二年島津氏ノ朝廷ニ封土ヲ奉還セララル、ヤ乃チ舊城廓地域ト接續セル城山上部ノ土地ハ舊城ト共ニ全部官有地トナリ明治四年熊本鎮臺鹿兒島分營ヲ舊城



址ニ置ル、ヤ此地全部陸軍所轄地ニ歸ス明治五年車駕西巡我鹿兒島ニ御行幸アラセラル、ヤ舊城ハ行在所ト爲リ後チ紀念碑ノ建設アリ明治十年丁丑ノ役ニハ城山全部兩軍ノ舊戰場トナリテ万骨ヲ埋ム北方ノ岩崎谷ニ南洲翁終焉之地及其洞窟アリテ共ニ石碑ヲ建設ス

舊城ノ西隣一帶ノ南面セル地域ハ舊二ノ丸ト稱シ島津久光公ノ邸ニシテ今ノ玉里邸公爵ノ所有ナリシガ十年兵亂ノ鎮定後ニ於テ當市ノ山田海三岩元基等舊二ノ丸邸地域全部ヲ買受ケ山中樟樹ノ如キハ殊ニ伐採シテ賣却セントスルヤ當時ノ鹿兒島縣令岩村通俊ノ聞ク所トナリ曰ク城山ヲシテ民有地ニ歸セシメ之ヲ放任スルニ於テハ當市ノ風致ヲ損スル而已ナラス歷史上著名ノ土地ヲ民有ニ屬セシムルハ實ニ遺憾ナリトシ乃チ縣費金三千圓ヲ投シテ現在ノ市公園地ノ部分(公園地及元國有林地)ヲ買收シ其山麓ニ一小亭ヲ設ケ舊藩時代ノ名ヲ襲用シテ浩然亭ト云フ而シテ後此買收地ハ官有林ニ編入サレ乃チ縣ヨリ農商務省所轄ニ轉シ鹿兒島山林局事務所ニ於テ主管スル事トナレリ

トシ城山ハ老樹繁茂シ眺望絶佳ナルヲ以テ是ヲ公園地トナスノ議ヲ起シ即チ山林局ニ交渉シ官林地反別四町六反一畝拾五歩ノ内壹町六畝貳拾四歩八合六勺ヲ明治十八年五月十九日双方官吏立會ノ上山林局ヨリ本縣ニ引渡ヲ受タリ依テ知事渡邊千秋ハ同六月公園設置ノ儀ヲ左ノ如ク出願シタリ

公園設置ノ儀ニ付上申

薩摩國鹿兒島郡山下町字城山官林地

反別四町六反一畝拾五歩ノ内

反別壹町六畝貳拾四歩八合六勺

右ハ縣下ニハ公園地ノ設置無之隨テ人民階樂ノ地ニ供スベキ場所柄更ニ無之處右ノ地所ハ舊島津家所有ノ處先年買上官林地ニ編入相成候此地タルヤ縣廳ノ面背ニアリテ山岳東西ニ聳ヘ南方鹿兒島灣チ一望シ陸軍省所轄地ニ連亘シ樹木繁茂シ數百年以降舊藩主ノ遊園地ニテ其麓下ニ一小亭ヲ建設シ名ヲ浩然亭ト稱シ櫻樹許多有之眺望自ラ備リ實ニ縣下ノ佳景ト云フベキ勝地ニ付豫テ遊園地ニ致度見込モ有之本縣所轄中櫻樹其他檜杉等數千本栽植致置タル場所ニ候間尙花木ヲ増殖シ一層風致ヲ添ヘ公園地ニ相定度候ニ付本縣へ御引渡ノ儀農商務卿ニ相伺候處本年五月十二日付ヲ以テ伺之趣聞届候條公園地設置ノ儀ハ其筋へ可申出旨御指令濟ニ候間公園設置御聞届相成度依テ繪圖面相添此段上申候也

追テ公園地ニ通スル道路ノ儀ハ取調中ニ付追テ可相伺候

明治十八年六月六日

内務卿山縣有朋殿

鹿兒島縣知事 渡邊 千秋



右明治十八年八月廿九日付ヲ以テ内務卿ノ許可ヲ得タリ故ニ縣ニ於テハ明治十九年四月岩元基外貳名所有ノ土地百貳拾六坪五合八勺ヲ買收シテ道路ヲ開鑿シタリ現今最モ西方ニアル所ノ出入口是ナリ

明治二十三年一月 鹿兒島縣知事山内堤雲ハ城山公園ヲ縣經營トシテハ地域狹隘ニシテ規模小ニ名實相適セス且ツ將來ノ維持上ニモ關係アルヲ以テ是ヲ現形ノ儘鹿兒島市ニ交付シ市公園トナスノ議ヲ建テ左ノ伺ヲ爲シタリ

乾第一一號

公園地下渡ノ儀伺

縣下鹿兒島市大字舊城山ノ内反別壹町六畝貳拾四歩八合六勺ハ元來舊藩主鳴津家傳來ノ遊觀地ニシテ位置高燥風景佳絕遊園ヲ開クニ適當ノ場所ニ付舊蹟保存ノ趣旨ヲ以テ明治十八年六月經伺之上公園地ト爲シ候儀ニ有之然ルニ今日ヨリ是ヲ見レハ一縣下ノ公園ニハ地域狹隘ニシテ名實相適セス且將來維持上ニモ差支候ニ付之ヲ鹿兒島市ニ移シ該市ノ公園トナスニ於テハ名實相應シ維持モ相立候ニ付該地所立木共惣テ無代價ヲ以テ該市ヘ下渡シ林木伐採ハ勿論園地荒蕪ニ歸セザル様監督方法相立夫々示達致度御允可ノ上ハ地種ハ民有地第一種ヘ編入可致依テ繪圖面相添此段相伺候也

明治二十三年一月十七日

内務大臣伯爵山縣有朋殿

鹿兒島縣知事 山内堤雲

右ニ對シ同三月内務大臣ヨリ左ノ指令アリ

内務省指令甲第八號

鹿兒島縣

本年一月十七日乾第一一號伺公園地下渡之件官有地第三種ノ儘該市ノ公園ニ充ツベシ

明治二十三年三月四日

内務大臣伯爵 山縣有朋

是ニ於テ縣知事ハ左ノ達ヲ以テ城山公園ヲ市ニ交付シタリ

達二第一三八號

鹿兒島市役所

鹿兒島市山下町字城山

一、反別壹町六畝貳拾四歩八合六勺

右ハ官有地第三種ノ儘該市ノ公園ニ充ツベシ

明治廿三年十二月十九日

鹿兒島縣知事 山内堤雲

城山公園ノ市所有トナルヤ園地開墾費ヲ市會ニ要求シテ從來ノ面目ヲ改メント欲シ比較的未タ公園地ノ体裁ヲ爲ザリシヲ以テ市ハ是ヨリ工事ニ着手シ荆棘ヲ拓キ草芥ヲ耨キ更ニ園路ヲ通シテ樹木ヲ増植シ取締所ヲ設テ園丁ヲ置キ清掃ヲ勉ム其結果翌明治廿四年六月ニ至リ稍々公園トシテ其体ヲ具備スルヲ得タリ故ヲ以テ茶亭ヲ設置セントシテ園内ノ土地ヲ使用センコトヲ出願スルモノ往々之アリ故ニ是歲七月市會ノ賛同ヲ得テ公園地使用料及鹿兒島市公園使用規則等ヲ定ムル左ノ如シ



公園地使用料

一、公園地一坪ニ付一ヶ月使用料壹錢以上拾錢以下トス

鹿兒島市公園使用規則

- 第一條 公園地ヲ使用セント欲スルモノハ使用ノ目的期限及家屋ノ構造等ヲ詳記シ市參事會ヘ願出許可ヲ受クベシ其使用ノ目的及家屋ノ構造ヲ變更セントスル時ハ豫メ認可ヲ請フモノトス
- 第二條 前條ノ出願アル時ハ市參事會ニ於テ實地ヲ踏査シ別ニ定ムル使用料ノ範圍ニ依リ其額ヲ定ムルモノトス
- 第三條 使用期限ハ其許可ヲ受ケタル月ヨリ五ヶ年以内トス滿期后尙繼續使用セントスルキハ更ニ出願スベシ
- 第四條 使用者ニ於テ使用權ヲ移轉セントスルキハ双方連署ヲ以テ市參事會ノ認可ヲ受クベシ  
但使用期限ハ前後通算スルモノトス
- 第五條 使用者ニ於テ不正ノ所爲アルトキ又市ニ於テ必要アル場合ハ使用期限中ト雖モ其使用ヲ取消ストアルベシ
- 第六條 第五條前段ニヨリ取消ヲ受ケタルキハ其取消ヲ命セラレタル日ヨリ三十日以内ニ後段ニヨリ取消ヲ受ケタルキハ其取消ヲ命セラレタル日ヨリ六十日以内ニ一切取拂ヒ元形ニ復シ其旨届出檢査ヲ受クベシ若シ怠ルキハ市參事會ニ於テ直ニ施行シ其費用ヲ辨償セシム
- 第七條 使用者ハ使用地内ヲ清潔ニシ在來ノ樹木等ヲ保護スルノ責アルモノトス
- 第八條 使用者又ハ有志者ニシテ公園地ヘ樹木ヲ寄附セント欲スルモノハ市參事會ヘ申出其指揮ヲ受クベシ

第九條 第一條末文及第四條第七條ニ違背シタルモノハ其使用ヲ取消ストアルベシ但本文ノ場合ハ第六條前項ノ例ニ據ル

鹿兒島市公園使用料細則

- 第一條 市參事會ノ許可ヲ受ケ公園地ヲ使用スルモノハ特ニ定ムル使用料ヲ納ムベシ
- 第二條 使用料ハ毎月五日以内ニ納ムベシ  
但五日後ニ返地シ又ハ全日以後ニ使用ノ許可ヲ受クルモ使用料ハ同月分ヲ納ムルモノトス
- 第三條 使用換ノ許可ヲ得タルキ其月ノ使用料ハ前使用人ヨリ徴收ス但本文ノ場合ニ於テ前使用人ニ使用料ノ滯納アルキハ後ノ使用人之ヲ辨納スベシ
- 第四條 使用料ヲ増額スル場合ハ三ヶ月前ニ之ヲ達スベシ
- 第五條 使用料ヲ定期内ニ納メサルキハ成規ニ依リ處分スルノ外特ニ日限ヲ定メ返地ヲ命スルヲアルベシ
- 第六條 返地ヲ命セラレタルキハ建物等ヲ取拂ヒ地所ヲ元形ニ復シ市參事會ノ檢査ヲ受クベシ若シ怠ルキハ市參事會ニ於テ直ニ施行シ其費用ヲ辨償セシム

是歲露國皇太子ニコラス殿下ノ來麿アリ市民ノ歡迎甚盛ナリ即紀念ノ爲メ石碑ヲ公園内ニ建立ス是ヲ園内建碑ノ嚆矢トス爾來紀念若クハ頌德ノ建碑ヲ出願スルモノハ審査ノ上市ハ之ヲ許セリ彼ノ英國大醫ウヰリズ頌德碑故ノ師範學校長黒田才藏頌德碑及英國皇族コンノト殿下來麿紀念碑等點々花樹ノ間ニ建立ス



ルニ至ル

市ニ於テハ猶毎年費ヲ投シテ是カ經營ニ意ヲ注キ公園地裝飾用トシテ花樹ヲ購入シ或ハ園燈ヲ建設スル等具体的園内ノ完成ヲ期シ併セテ維持ノ方法ヲモ講シ實ニ其施設ニ怠ラス明治廿六年七月園内第三號借地人山田海三ヨリ從來ノ通路甚迂回シテ遊覽者ノ不便甚ラス故ニ自費ヲ以テ自家ノ所有土地ヲ道敷ニ供シ新ニ道路ヲ開鑿センコトヲ請フ市ハ之ヲ許ス即現今東方ニアル所ノ出入口是ナリ此道敷地ハ其後分割賣買セラレテ荒田町森重固中町吉田幸兵衛兩人ノ所有トナリシガ明治三十九年十一月兩人ヨリ此道敷地ヲ公園地道路用トシテ寄附出願アリ市ハ相當手續ヲ經テ之ヲ採納ス是ニ於テ初テ市有ニ歸シ公道ト爲ル其土地左ノ如シ

山下町一五七番

一市街宅地四拾貳坪壹合八勺

此見積價格六百參拾貳圓七拾錢

山下町一五三番

一市街宅地貳拾四坪貳勺

此見積價格參百六拾圓參錢

森 重 固

吉田 幸兵衛

明治三十三年別格官幣社照國神社改築ノ舉アリ同社敷地ハ狹隘ヲ訴ヘ其造營ニ伴ナルヲ以テ公園地西端ノ一部ヲ分割シテ同社敷地ニ供用スル事トナリ同年五月廿一日ヲ以テ面積六百四坪五合九勺ヲ同社ヘ讓與引繼タリ(關係書類散逸シテ詳細スルニ由ナシ)元來市ノ公園地タルヤ山脚ノ一帶地域ニシテ其中間山腹ノ土地ハ農商務省之ヲ主管シ其上部山頂ノ區域ハ陸軍省ノ所轄ニ屬ス森々タル老木ハ多ク山腹以上ニ在リ其中ニハ漸次枯損ニ傾キ風雨ノ際樹木幹枝ノ折倒甚シク爲メニ土砂崩潰シ其危險實ニ言フベカラズ現ニ數名ノ壓死者ヲ出セリ又明治三十四年七月霖雨ノ如キハ園内ノ建家二棟ヲ壓倒埋沒シテ負傷者ヲ出シタルカ如キ慘狀ヲ極メタリ故ニ叙上ノ如ク市費ヲ投シテ公園ノ設備ヲ完全ナラシメント欲シ是カ擴張ヲ圖ル茲ニ年アリト雖モ如何セン官林ノ保護土砂ノ押止等其法未タ完全具備ト云フ能ハスシテ此等不慮ノ災害ヲ見ルコト違々之アルニ於テハ遂ニ廢園ノ悲運ニ陥ル虞アルヲ以テ茲ニ官林無償讓與ノ議ヲ起シ明治三十五年四月鹿兒島大林區署ヘ左ノ出願ヲ爲ス

土進第一四號

鹿兒島市史 公園



國有林讓與願

鹿兒島市山下町字城山  
一官林反別三町五反四畝廿步

右官林ハ從來豊城ノ歴史上及風致上ニ於テ大關係ヲ有スル場所柄ニテ舊藩時代ハ夫々保護ノ方法確立候處明治四年藩籍奉還後城山一圓ハ官林ニ編入セラレ即チ其上部ハ陸軍省中部ハ農商務省下部ハ明治廿三年本市ノ公園地トシテ讓與相成依テ本市ハ多額ノ資ヲ投シ公園相當ノ設備ヲ爲シ公衆ニ遊歩厚生ノ便利ヲ與ヘ尙時勢進歩ニ伴フ設備ノ見込有之候然ルニ右公園ニ連續スル官林ノ古木ハ漸次枯損ニ傾キ從テ風雨ノ際ハ樹木折倒土砂崩壊ノ爲メ數名ノ死傷アリ又同三十四年七月霖雨ノ節前同様ノ災害ノ爲メ園内ノ建家ニ軒ヲ壓倒埋設シ且負傷者アリ其慘狀實ニ見ルニ忍ヒス如此狀況ニテハ假令本市カ幾多ノ費額ヲ以テ辛苦經營完備セシメントスルモ其災害ノ根元タル官林保護ノ防備無之時ハ數年ヲ出ズシテ終ニ廢園スルノ外無之議ト實ニ遺憾ノ至ニ堪ヘス就テハ前陳ノ事實篤ト御調査ノ上右官林ハ公園地ニ關連スル必要ノ場所柄ニ付公園地トシテ本市ヘ無償御讓與相成候様致度然ル上ハ本市ニ於テ公園ノ區域ヲ擴張シ風致ヲ復舊改善スル等夫々相當ノ計畫相立永久安全ニ公園ヲ保持致度爰ニ市會ノ議決ヲ經別紙讓與地ニ關スル設備條件及現行ノ公園使用規則等相添ヘ此段相願候也

明治三十五年四月

鹿兒島市參事會 市長 上村 慶吉

鹿兒島大林區署長 永田正吉殿

讓與地ニ關スル設備條件

一現在ノ樹木ヲ保護スル方法ヲ設ケル事

- 一 倒木ノ跡ニハ相當ノ樹木ヲ植繼スル事
- 一 土砂崩壊地ニ相當ノ樹木ヲ栽植スル事
- 一 土砂扞止ノ方法ヲ立人家ノ危險ヲ豫防スル事
- 一 漸次遊園ノ道ヲ開キ公園ヲ擴張スル事
- 一 右ノ外公園ニ相當スル設備ヲ爲ス事

(公園使用規則前掲之故省署于茲)

右幸ニ當局ノ容ル、所トナリ越テ明治三十九年ニ於テ是カ許可ヲ得左ノ如ク市ニ讓與ヲ受ケタリ

務第二五〇號ノ一〇

鹿兒島市參事會 市長 上村 慶吉

明治三十五年四月土進第一四號鹿兒島市山下町字城山一一三番ノ三國有林三町五反四畝廿一步讓與願屆候條實地引渡方鹿兒島小林區署ヘ申出ツベシ

明治三十九年三月十五日

鹿兒島大林區署長 大林區署技師 永田正吉

是ニ於テ同年四月六日市ハ鹿兒島小林區署ヨリ前記土地ノ受領ヲ了シ更ニ條件ヲ附シタル左ノ請書ヲ提出ス

請書

薩摩國鹿兒島市山下町字城山國有林三一七番ノ三臺帳面積三町五反四畝廿一步  
一 實測面積三町五反四畝廿一步



右今般鹿兒島市公園敷地トシテ御讓與相成候ニ就テハ國有林野法第十六條及左記各項遵守致スベク候仍テ請書差出候也

明治三十九年三月

鹿兒島市參事會 市長 上村 慶吉

鹿兒島大林區署長

大林區署技師永田正吉殿

記

- 一、前記ノ讓與地ハ二十年間鹿兒島市公園ニ繼續使用スル事
- 二、前項ノ期間内公園ニ使用セサルカ又ハ公園ニ使用ノ必要止ミタルトキハ速ニ返還スル事
- 三、前記土地ニ生立スル樹木ハ營利上ニ使用スル事ナク保存スル事
- 但經營上必要アルキハ立木ヲ伐採スルハ此限ニアラス
- 四、第二項ニ依リ返還ヲ爲スルハ地上ニ存在スル物件(一私人ノ物件ヲ除ク)總テ現在ノ儘タル事
- 五、明治三十八年五月五日坤第三五號回答ノ事項ハ條件トシテ遵守スル事

猶前記五項ニ關スル條件ヲ明瞭ナラシメンカ爲ニ其往復書ヲ左ニ掲ク

務第二五六〇號ノ二

城山國有林讓與願ニ付テハ即今詮議中ニ有之候處差向キ左記ノ廉々當署長宛答申相成度此段及照會候也

明治三十六年四月廿七日

鹿兒島市役所御中

鹿兒島大林區署

- 一、現在公園ノ經濟ハ特別會計トシテ取扱相成候趣ノ處將來尙特別會計トシテ公園ヲ維持シ之カ設備ヲ完全ナラシムルモノナリヤ
- 二、市會ノ決スル處ハ國有林拂下出願議案ト題スルモノ、ミニテ公園ノ區域ヲ擴張シ風致ヲ復舊改善ストノ大体方針ヲ決シタル迄ニシテ之ニ對シ如何ノ施設計畫アリヤチ明ニスルヲ得ス從テ其經費ハ如何ニ幾何ヲ支出スルヤノ大綱スラ之ヲ知ルヘカラス願書ニ添付セル設備條件及工事設計書ナルモノハ市會ノ決シタルモノニアラスシテ從テ之カ繼續ノ支出方法ナシ如何ヤ
- 三、現在樹木ハ絶對ニ禁伐ノ方針ヲ採ルヲ要スルハ勿論ノ處之ニ對スル保育ノ手段方法ハ如何スヘキ見込ナルヤ
- 四、公園ト爲スニ付テノ設備トシテハ砂防工事ノ設計ハ尙ホ十分ナリトセス尤モ該設計書ハ初年壹ケ年ノ工事ナリトセバ繼續事業トシテ幾何ノ經費ヲ以テ如何設計セラルヘキヤ且ツ之カ經費ハ市會ノ承認アリヤ
- 五、傾斜最モ急ナルガ故ニ出願面積ノ九分以上ハ公園ト云ンヨリ寧ロ公園附屬地ナリ尤モ設計如何ニ依リテハ若干面積ヲ使用シ得ベシ是等ノ計畫如何其區界ヲ圖示セラレタシ
- 六、公園ニ對スル現在及將來ノ管理ハ何人カ如何ニ之ニ任スルヤ
- 七、照國神社境内編入願ノ地域モ公園設計ノ如何ニ依リテハ必要缺クヘカラサル區域トナルベク又強テ必要ナキ區域トモナルベシ其要否程度見込ハ如何
- 八、以上ノ外植樹及公園擴張ニ付テノ見込並ニ經費收支ノ概算
- 以上ハ市會ノ決スル處及見込ニ依テ答申アリタシ
- 農坤第三五號
- 一昨明治三十六年四月廿七日務第二五六〇號ノ二ヲ以テ城山國有林讓與願ノ儀ニ付



御問合ノ趣正ニ了承就テハ左ニ御回答ニ及候間可然御許容相成候様御取計相成度此段及御依頼候也

明治三十八年五月五日

鹿兒島市役所

鹿兒島大林區署 御中

- 一、公園ノ經濟ハ現在ハ素ヨリ將來ニ於テモ特別會計トシテ公園ヲ維持シ且之レカ設備ヲ完全ナラシムルモノナリ
- 二、市會ノ決スル處ハ文書上御來意ノ如ク大体ノ方針ヲ決シタルモノ、如クナルモ其實際施設計畫ハ説明ヲ以テ詳細ニ陳述シ市會モ承認シ居ルモノニシテ殊ニ參事會ニ於テハ自然御許容ノ上ハ地勢ノ許ス限リ公園ノ區域ヲ擴張シ風致ヲ改善スル等總テノ施設方法ヲ細カニ企畫スル見込ニ有之候而シテ市會決議案中ニ無償拂下トアルハ全ク無償讓與ノ誤記ニ付拂下ヲ讓與ニ御訂正御取計相成度候
- 三、現在ノ樹木ハ將來枯損ノ外ハ決シテ伐採スルモノニ非ラス殊ニ之ニ對シテハ看守人ヲ附シ充分ナル保育方法ヲ計畫スルモノナリ
- 四、砂防工事設計ノ如キハ其他ノ方法ト共ニ自然御許可ノ上市參事會ニ於テ更ニ市會ニ提議スル見込ニシテ之レハ初年ノミニ限ラス漸次施工スルノ見込ニ有之而シテ其經費ハ市制ノ定ムル處ニ基キ其年度毎ニ出來得ル限ノ範圍ニ於テ市會ノ決議ヲ求ムル見込ニシテ是等ノ事ハ當時市會ニ於テ説明上承認シタルモノニ有之候
- 五、出願ノ場所ハ大部分傾斜急ナルガ故ニ之レハ出來得ル限リ通路ヲ開キ或ハ平地ヲ開テ遊園者ニ快感ヲ與ヘシメ餘ハ枯損木藪等ヲ取拂ヒシ跡ニハ花木等ヲ栽植スルノ方法ヲ取ルノ見込ニ有之其餘ハ附屬地トシテ有益ノ樹木ヲ栽植シ風致ヲ裝フト同時ニ土砂ノ崩壞ヲ豫防スル計畫ニ有之候
- 六、之レカ管理ハ素ヨリ市參事會ノ任スル處ニ有之候

七、照國神社境内編入ノ地ハ如何ニ必要アルモ強テ之レヲ求メザルナリ  
 八、從來ノ樹木ハ益々之レヲ保存シ若シ枯損木等ノ生シタル場合ハ之レヲ取除キ相當ノ樹木植繼クノ見込ニシテ尤モ公園ノ經費ノ如キハ公園借地料ヲ以テ之レニ充テ若シ不足ヲ生スル場合モアラハ市費ニ訴フル事モアルベシ

市ガ公園敷地ニ供用シツ、アル處ノ土地ニ對シテ左ノ如ク變換ノ訓令アリ

訓第二〇四號

鹿兒島市役所

鹿兒島市山下町 百拾七番ノ二

一國有林反別八反六畝拾九步

前記ノ地所官有地第三種公園地ニ變換ス

右訓令ス

明治三十五年九月廿三日 鹿兒島縣知事 千頭清 臣

市ハ前記公園地タル處ノ縣有地ヲモ更ニ無償讓與ヲ受ケント欲シ明治三十八年十二月知事へ左ノ出願ヲ爲ス

農進第五三號

縣有地無償讓與願

鹿兒島市山下町 三一七番ノ二

一公園地反別八反六畝拾九步

右地所ノ儀ハ縣有地ニ屬スル土地ニシテ去ル明治廿三年十二月其儘公園敷地トシテ本市ニ貸與相成爾來幾多ノ費ヲ投シ經營ヲ重テ漸次今日ノ現狀ニ進メ且ツ之レヲ維

鹿兒島市史 公園



持致シ來候處社會ノ進運ハ益々公園擴張ヲ必要ナラシメ現在ノ公園地ニ接續スル國有林三町五反四畝廿一步モ本市公園敷地トシテ無償讓與ノ儀鹿兒島大林區署へ出願致シタル次第ニ有之候處現在ノ公園敷地モ同様本市ノ所有ニ歸セシメザレハ以テ其設備ノ目的相違シ兼候間篤ト事情御洞察ノ上右地所何卒本市へ無償讓與被成下度別紙圖面相添市會ノ決議ヲ經テ此段請願候也

明治三十八年十二月六日

鹿兒島參事會 市長 上村 慶吉

鹿兒島縣知事千頭清臣殿

此議亦幸ニ縣ノ容ル、所トナリテ左ノ指令アリ

指甲庶第一二七號

明治三十八年十二月六日農進第五三號請願同月同日收受縣有地無償讓與ノ件反別八反六畝貳拾步貳合七勺公園地用トシテ無償讓與ス但公園地トシテ使用ヲ廢止シタル事ハ是ヲ還付スル義ト心得ベシ

明治三十八年十二月廿六日

鹿兒島縣知事 千頭 清臣

是ニ於テ公園擴張ノ計畫ヲ施スヲ得ベク大ニ其地域ヲ擴ムルニ至リ乃チ明治三十八年ニ於テハ山麓一帶ノ土地八反六畝拾九步ヲ同三十九年ニ於テハ山腹傾斜ノ土地三町五反四畝廿一步ヲ市ハ孰モ無償讓與ヲ得テ之ニ相當スル其設備ヲ完全ナラシメント欲シ經營怠ラス曩ニ明治廿三年十二月市へ公園交付以來幾多ノ資ヲ投シテ之ヲ經營シタルカ亦公園ヨリ生スル収入如何ヲ示サンカ爲ニ左ニ其

収支ヲ掲ク

年 度	入	支 出
二 十 三 年	三三八、一〇三	一八一、三二〇
二 十 四 年	一六一、一九八	一二三、九七六
二 十 五 年	一三一、八三二	九〇、五四五
二 十 六 年	一一七、三六二	四三、二〇二
二 十 七 年	七三、七五四	四六、六一〇
二 十 八 年	五九、九三八	三六、三四〇
二 十 九 年	七三、六七七	四一、四二五
三 十 年	六一、九八〇	一〇三、七三九
三 十 一 年	六七、九二四	三七、六七五
三 十 二 年	五九、〇二四	三七、一二〇
三 十 三 年	四四、九六一	四六、五七五
三 十 四 年	一三九、三九二	七三、六三五
三 十 五 年	一六六、四八〇	一六、九一一
三 十 六 年	一四九、四五五	六七、八三七
三 十 七 年	一九七、一二一	二九、一三〇
三 十 八 年	二〇一、一八〇	一七四、五二〇
三 十 九 年	一一〇、四五五	一、一〇九、八五三
四 十 年		



四十四年	四十二年	四十一年	四十年
一〇、八六九、九九一	九、八八三、七〇四	九、〇六九、八〇八	一、三五一、一四三
四、〇三八、八五四	八、八一七、三三一	二、五九、二八四	四、三九、二六五

市ハ曩キニ無償讓與ヲ受ケタル前記ノ土地ヲ基本財産へ編入セント欲シ市會ノ議ヲ經テ縣參事會へ左ノ申請ヲ爲ス

農進第一一號

基本財産編入之儀許可申請

山下町三一七番ノ一

一、反別八反六畝貳拾步貳合七勺

從來公園地

山下町三一七番

一、反別參町五反四畝貳拾步

元國有林地

前記ノ土地公園敷地トシテ本市基本財産へ編入ノ儀本年二月五日當市會ニ於テ決議相成候條御認可相成度此段申請候也

明治四十年二月十二日

鹿兒島市參事會 市長 上村慶吉

鹿兒島縣參事會

鹿兒島縣知事千頭清臣殿

右ニ對シ是カ許可ヲ得左ノ指令アリ是ニ於テ初テ市有財産トナレリ

指令 庶甲第三二六號

鹿兒島市役所

明治四十年二月十二日農進第一一號申請同月同日收受公園敷地基本財産へ編入ノ件  
右市制第二百二十三條ニ依リ許可ス

明治四十年二月廿六日

鹿兒島縣參事會 鹿兒島縣知事 千頭清臣

是歲三月 山腹ノ元國有林地内ノ雜草ヲ驅リ荆棘ヲ拓キ而シテ縣立加治水苗圃ヨリ杉苗千八百本檜苗千八百本黒松苗千三百五十本及市役所内播種シタル樟苗八十本ヲ移植シ更ニ園内ニ櫻楓躑躅萩棗等ノ花卉ヲ栽植ス尙赤黒松種子壹斗ヲ購入シテ林地内ノ荒廢セル傾斜ノ土地へ播種シタリ是則土砂ヲ捍止シ風致ヲ保存スルノ目的ニ外ナラス

是月 元國有林地内ノ枯損木樟樹九株雜木貳本ヲ賣却シ其代金七百八拾圓ト及從前經費ノ殘餘ヲ併セ基本金トシテ蓄積スルノ必要ヲ認メ金壹千圓ヲ銀行預金トナシタリ是公園費基本金蓄積ノ嚆矢トス

同四月 照國神社宮司男爵島津久明ヨリ元國有林地内同社接續地八反三畝十八步五合ハ當市ヨリ先年讓與出願ノ當時同社ヨリモ同ク出願ニ付相互協議ノ結果



本市へ許可ノ上無償讓與スベク内約先ニ整ヒ居タリトノ理由ヲ以テ今後同社ニ於テ之ヲ管理スヘキニ依リ右讓與ノ議左ノ如ク市ニ照會アリ

照發第一五號

當社境内地ニ接續シタル舊城山官林地之内境内へ土砂崩落スルノミナラス樹木等轉倒シ社殿ニ危険ヲ及ホスノ恐有之ニ付夫々破壊セサル様築立且樹木等栽植シ勿論風致ノ上ニモ必要之場所ニ付境内へ編入ノ儀其筋へ出願候處其際御協議ノ次第モ有之取下ケ候依テ今般御下附濟ニ付テハ別紙圖面ノ通反別八反參畝拾八步五合當社境内地へ無代價讓與相成候様致度此段及御照會候也

明治四十年四月十二日

別格官幣社照國神社

宮司男爵

嶋津

久明

鹿兒島市長上村慶吉殿

市ハ之ヲ市會ニ諮リ縣參事會ノ許可ヲ得ントシテ左ノ申請ヲ爲ス

農進第四四號

基本財産處分ノ儀許可申請

鹿兒島市山下町三百十三番公園敷地ノ内

照國神社接續地

一、反別八反參畝拾八步五合

前記ノ土地當市山下町鎮咄ノ照國神社宮司嶋津久明男ヨリ同社々殿ノ保安維持並ニ風致保存上今后同社ニ於テ樹木栽植土砂扞止等諸般ノ設備相加ヘ度ニ依リ該境内地へ編入致度無償讓與ノ議出願ノ處本月六日市會ニテ無異儀決議候條御許可相成度此

段申請候也

明治四十年六月十一日

鹿兒島市參事會

市長

上村

慶吉

鹿兒島縣參事會 知事千頭清臣殿

是ニ對シ左ノ指令アリシヲ以テ市ハ別格官幣社照國神社へ無償讓與ヲ爲ス

指令庶甲第一五六五號

鹿兒島市役所

明治四十年六月十一日農進第四四號申請同月十二日收受公園敷地ノ内八反參畝拾八

步五合ヲ別格官幣社境内地へ無償讓與之件

右市制第二百二十三條ニ依リ許可ス

明治四十年六月廿六日

鹿兒島縣參事會

鹿兒島縣知事

千頭

清臣

然ルニ市ハ公園境界ヲ明瞭ナラシムルノ必要ヲ認メ曩キニ縣有地國有林讓與ヲ受ケシ以來其境界不明ナル點アリ故ニ境界標ヲ建設セント欲シ是歲六月陸軍技手陸軍省所轄地管理者及市書記照國神社職員隣地主實地ニ立會ノ上壹號ヨリ拾四號ニ至ル拾四個ノ境界標杭ヲ建設ス

抑モ城山一圓ハ舊藩時代ノ城趾ヲ擁シテ市民仰望ノ觀念實ニ深厚ナルヲ以テ是ヲ本市ノ日露戰捷紀念公園トシテ經營スルハ最モ適切ナル事業ニシテ殊ニ之ヲ完成ナラシムルハ目下ノ急務ナルヲ認メ大ニ擴張ノ必要ヲ感シ先年來無償讓與ヲ受タル農商務省所管ノ國有林參町五反四畝貳拾步ハ元來土地傾斜甚シクシテ



上部山林ノ陸軍省所轄地ヲ合併スルニ非ラサレハ其規模ヲ擴張シ設備ヲ完全ナラシムルコト能ハス故ニ市ハ第七高等學校造士館ニ交渉シ其敷地ニ接續シタル山林反別貳萬六千貳坪ノ内壹萬參百四拾六坪八九四ヲ除キ本市公園ニ接シクル壹萬五千六百五十五坪一〇六ヲ陸軍内務兩大臣ニ無償讓與ヲ請願セント欲シ之ヲ市會ニ諮リ明治四十年六月兩大臣ニ無代讓與請願ヲ爲シタリ然ルニ陸軍省ニ於テハ該土地ハ賣却豫定地ニ編入セラル、筈ニ付詮議可相成趣ヲ以テ願書却下サレタリ是ニ於テ市ハ更ニ相當代價ヲ以テ全部拂下ヲ請願セント欲シ且ツ今秋鶴駕西巡當地御行啓アラセラル、ニ付先般宮内省錦小路主事來麿ノ際本市眺望ノ勝地トシテ歴史ニ關係アル城山御登臨ノ儀稟申シ檢分ノ結果幸ニ許容ヲ得ヘキヲ以テ急遽道路ヲ修補シ御休憩所設備ノ必要ヲ認ムルト同時ニ猶一層速ニ上部ノ土地ヲ併合收得スルノ必要ニ迫レリ故ニ迅速ニ城山陸軍省所轄地全部ノ拂下ヲ爲シ而シテ本市ノ戰捷紀念公園ヲ經營センコトヲ市會ニ諮リ茲ニ再ヒ陸軍内務兩大臣ニ向テ左ノ請願ヲ爲ス

農進第五〇號

鹿兒島城山陸軍所轄地讓與願

鹿兒島市山下町字城山 百十七番ノ一ノ内

一、山林貳萬六千貳坪

右城山ハ本市ノ西北ニ蟠居シテ東南港灣ヲ控ヘ累代島津家ノ城郭内ニ候處王政維新ニ際シ各藩主封土ヲ奉還シ引續廢藩置縣ノ命アルニ方リ之ヲ三分シテ上部ハ貴省ノ御所轄トナリ中部ハ農商省ニ屬シ下部ノ一小部分ハ縣有ニ据付相成居候ニ付去ル明治二十三年以來本市ハ是ヲ公園ニ定メント決議シ草萊ヲ拓キ荒地ヲ鋤キ多少ノ經費ヲ投シテ今ヤ稍体裁ヲナシタルモ未ダ地域狹隘ノ爲メニ充分ノ設備ヲナスコト能ハズ功チ一貫ニ欠キ候段市民一同頗ル遺憾ニ堪ヘザル所以ニ御座候仍テ去ル明治三十五年四月農商務省ニ屬スル分ハ無償讓與ヲ出願致シ置候處客年三月幸ヒ御許容相成候得共同省ニ屬スル分ハ地勢多クハ傾斜ニシテ完全ノ設備ヲ致シ兼候條貴省ニ屬スル分モ此際何卒相當代價ヲ以テ御拂下被成下候ハバ本市將來ノ繁榮上偉大ノ關係モ有之儀ト考量致候仍テ一面ハ本市ニ於テモ先年縣費ヲ以テ港灣ヲ改修シ市費ヲ投シテ船舶給水ノ爲メ水道ヲ敷設シ昨年來市區改正並ニ下水道改更調査ニ從事シタル次第ニ有之又政府事業トシテハ電話架設セラレ肥薩鐵道ノ全通モ近キ將來ニアリ開港ノ件ハ目下出願中ナル等交通機關ヲ初メ近來貯木製材場煙草製造所及高等農林學校創設等諸般設備ノ爲メ漸次繁榮ヲ來スベキハ是亦自然ノ形勢ト將來ニ望チ屬スル次第ニ御座候而シテ今秋 皇太子殿下御見學ノ爲メ行啓ニ關シ先般錦小路主事來麿ノ際本市御眺望ノ勝地トシテ且ツ歴史上關係ヲ有スルヲ以テ城山御登臨申出テ幸ニ下檢分ヲ得候ニ付御通盤便利ノ爲ニ舊城址ヨリ西岩崎谷ニ至ルマテ新一線ノ道路ヲ開鑿致シ度候條特別ノ御詮議ヲ以テ至急願意御許容被成下度果シテ然ラハ一日露



戰役紀念ノ公園トナリ一ハ 皇太子殿下光臨ノ餘榮ヲ後世子孫ニ欽仰セシムルノ一助ニモ相成ル可キ義ト恐察仕候且ツ御許可ノ上萬端完全ノ設備ヲナシ風光佳麗ノ公園ト相成候ハバ他日外賓觀光ノ一端ニモ相成可申義胥議致候  
茲ニ市會ノ決議ヲ經テ別紙拂下地ニ關スル設備條件及現行ノ公園使用規則相添此段歎願致候也

明治四十年七月廿九日

鹿兒島市參事會

上村慶吉

陸軍大臣子爵寺內正毅殿

內務大臣

原敬殿

明治四十年十月廿六日

東宮殿下御行啓アラセラル市ハ是ヨリ先キ鹿兒島市眺

望ノ勝地タル城山公園山頂ノ西南端ニ御休憩所ヲ造營ス同月廿八日午前十時四十分照國神社西側ヨリ御登臨アラセラル此日伯爵樺山資紀海軍大將東郷平八郎同鮫島員規等以下扈從ス市長有川貞壽先導ヲ爲ス御登山後二時間餘御休息觀望アラセラル本市ヨリ茶菓ヲ献上ス午後一時四十分御下山ノ際樟苗壹株御手植アリ馬乘馬場ヲ經テ新照院越ノ一孤松ニ御手ヲ掛サセラレ西田方面御眺望アリ後是ヲ御手掛ノ松ト稱シテ市民今ニ之ヲ敬ス岩崎谷ヲ下リ南洲翁洞窟ニ御立寄り同終焉之地ヲ過キ御還啓アラセラレタリ  
曩キニ拂下ヲ請願シタル城山山林ハ其價格ニ於テ陸軍省ト市ト意見一致セス是

ヲ以テ本縣知事千頭清臣市ノ爲メニ頗ル努力ス乃チ十一月九日第六師團經理部長ニ諮開シテ縷々市ノ事情ヲ述ヘタリ

是歲十一月三十日 閑院宮載仁親王殿下ハ赤十字社鹿兒島支部總會臨場ノ爲メ來麿アラセラル十二月一日總會ニ御臺臨アラセラレ式終ルヤ伯爵樺山資紀男爵鮫島員規同小澤武雄陸軍中將大久保利貞以下市長等ヲ隨ヘ知事ノ先導ニテ城山ニ御登臨アリ頂上ノ休憩所ニ成ラセラレ鹿兒島市ノ區畫及ヒ十年丁丑役ノ戰況等聞召サレ後チ同所ニ松ノ御手植アリ歸路岩崎谷南洲翁洞窟ヲ訪ハセラレ同終焉之碑前ニ暫時御停車アリテ歸途ニ就セラレタリ

同十二月五日第六師團經理部長日疋信亮ヨリ本縣知事ニ向ヒ先キニ城山拂下ノ件來意ヲ諒シ猶ホ直接市長ヨリ巨細之ヲ聞テ事情ヲ審ニス即チ陸軍當局ヘ價格變更ヲ内申シタルヲ以テ應サニ其願意ヲ徹スルナルベシト照覆シ來ル是故ニ陸軍省ト市ト相互ノ意思疏通スルヲ得テ乃チ城山面積貳萬六千貳坪ハ代金五千貳百圓四拾錢ヲ以テ市ニ拂下ノ許可ヲ得ヘク明治四十一年三月本縣內務部長ヨリ左ノ照會アリ



乙二第一號

兼テ出願ニ係ル元陸軍省用地拂下許可可相成ニ付別紙賣買契約書二通及送付候條該契約書へ署名捺印ノ上貳通共至急提出相成度此段及照會候也

市ハ該契約書へ署名捺印シテ提出ス其全文左ノ如シ

賣買契約書

鹿兒島市山下町百拾七番合併壹ノロ

一元陸軍省用地貳万六千貳坪

此代金五千貳百圓四拾錢

右ノ土地公園ノ爲メ前記代金ヲ以テ賣買契約締結致候ニ付テハ該地上ニ於ケル立木ハ永久ニ保存シ伐採セサルハ勿論官有地賣渡ニ關スル諸規則及左記ノ條件ヲ承諾シ双方署名捺印ノ上各壹通ヲ領收シ置クモノナリ

明治四十一年四月四日

契約担任官吏

賣渡人 鹿兒島縣知事 阪本 彰之助  
買受人 鹿兒島市長 有川 貞壽

記

- 一 代金ハ納入告知書ノ期限内ニ納付スルモノトス
- 一 物件引渡ハ代金完納ノ後五日以内トス
- 一 物件引渡ヲ請求スベキハ鹿兒島縣廳
- 一 物件引渡場所ハ其所在地
- 一 物件引渡ヲ受クル際代金納付ノ証ヲ當該吏員ニ示スベシ
- 一 物件引渡以前ニ於テ天災若クハ不可抗力ノ原因ニ依リ目的ノ物件亡失毀損シタル

爲メ契約ヲ解除シ之カ爲メ買受人ニ於テ損害アル場合ト雖モ賣渡人ハ其責ニ任ヤス

是ヨリ先キ陸軍省ハ築城部本部員石栗工兵大佐及陸軍屬ヲ派遣シテ實地ノ踏査ヲ爲シ引渡ノ準備成ル抑モ實地受授ノ手續ハ陸軍省ヨリ之ヲ内務省ニ引渡シ同省ハ其所管ヲ本縣廳ニ移シ市ハ直接同廳ヨリ讓與ヲ受クル順序ニシテ明治四十一年六月實地受授ノ爲メ縣官市吏員立會ノ上境界調査ヲ遂ケ實地引渡ヲ了シ同八月六日所有權移轉ノ登記ヲ終ヘタリ是ニ於テ城山全部市有ニ屬シ公園ニ提供スルヲ得タリ

是歲十月十六日伏見宮貞愛親王殿下ハ武德會鹿兒島支部發會式臨場ノ爲メ來麿アラセラレ十七日御臺臨アリ十八日興業館ヨリ歸途男爵鮫島員規同伊瀨地好成以下本縣事務官市長代理助役等ヲ隨ヘ城山ニ御登臨アリ頂上ノ休憩所ニ成ラセシレ陸軍中將大久保利貞篠崎五郎市參事會員等奉迎ス地圖ニ就テ英艦砲擊戰況及ヒ十年戰役等御聞取遊ハサレ四方展望ノ後チ同所ニ松ノ御手植アリ歸路岩崎谷南洲翁洞窟ヲ訪ハセラレ同終焉之碑前ニ寸時車ヲ停メテ直チニ旅館田ノ浦島津公爵別邸へ還ラセラレタリ



從來城山々林ハ陸軍省所轄ノ時ヨリ今日ニ至ル迄自然ニ委シ老樹ハ森々トシテ空ヲ攀ヘ高幹ハ亭々トシテ天ニ聳ヘ深叢人ヲ没シ荆藪晝猶暗ク朶幹ハ多ク薛蘿ノ纏綿スル所トナリ林間容易ニ歩武ヲ進ムル能ハス故ニ此等ノ掃除ヲ爲サ、ル可カラス同十一月岩崎谷方面民有地境界調査ト同時ニ公園費金百圓ヲ支出シテ林間ノ一大掃除ヲ爲ス而シテ尙園路開鑿ノ計畫ヲ立テ市技師ヲシテ之カ測量ニ從事セシム

明治四十二年更ニ擴張地域境界ヲ分明ナラシメンガ爲ニ標石五十個ヲ製シ其境界ニ建設ス標石ハ五寸角ニシテ表面ニ「市公園界」ノ四字ヲ裏面ニ第何號ノ文字ヲ鑄刻ス元陸軍所轄地城山番人ヲ以テ城山公園地見縮人トス是歲十二月園路開鑿線路ニ當ル障害木及ヒ間伐ノ爲メ伐採ノ必要ヲ認メ之カ伐採樹木ヲ公賣ニ附ス豫シメ伐採ノ許可ヲ得テ杉百貳拾七檜拾九雜木拾四株ノ拂下代金四千百五拾壹圓樟木並ニ同根株トモ拾壹株ノ拂下代金參千六百五拾圓ニシテ此計金七千八百壹圓ヲ得タリ之ヲ四十二年度繰越金トシ内金參千圓ハ基本財産蓄積金ニ編入シ預金ヲ爲ス而シテ金四千圓ハ四十三年度ニ於テ園路新開費

ニ充用ス

同十二月十九日北白川宮輝久王殿下ハ練習艦旗艦阿蘇ニ搭乘アリテ來港アラセラル同二十日玉里公爵邸歸途陸軍中將大久保利貞同吉田清一及ヒ知事市長等ヲ隨ヘ城山ニ御登臨アリ頂上ノ休憩所ニ成ラセラレ市參事會員等奉迎ス英艦砲撃及ヒ十年役戰況等聞召サレ雨後ノ櫻島錦江灣ノ風光御觀賞ノ後同所ニ松ノ御手植アリ歸路御手懸松附近ニ登臨アリテ猶ホ丁丑役戰況御聞取アリ岩崎谷ノ南洲翁洞窟内ニ入ラセラレ同終焉之碑ヲ過キテ第七高等學校造士館ヘ向ハセラレタリ

曩ニ明治三十四年園丁ヲ廢シ以來之ヲ置カス是ニ於テ亦之ヲ置クノ必要ヲ認メ園丁壹人ヲ置ク過般來市技師ヲシテ從事セシメタル園路開鑿ノ實測成ルヲ以テ市ハ明治四十三年五月知事ニ左ノ申請ヲ爲シテ其許可ヲ得タリ

農進第六〇號

城山公園々道開鑿工事申請

一、本線園道幅貳間

延長四百七拾間

一、第一支線園道幅六尺

延長貳百六拾間六合

一、第二支線園道幅六尺

延長百八拾八間壹合



一、第三支線園道幅六尺  
 延長貳百拾八間壹合

一、第四支線園道幅六尺  
 延長百七拾九間八合

一、第五支線園道幅六尺  
 延長八拾壹間

本市城山公園ハ明治二十三年以來多少ノ費用ヲ投シテ体裁ニ改善ヲ施セシモ未タ園  
 体ヲナサス依テ右ノ六線路ヲ明治四十三年度ニ於テ開鑿セントス就テハ今般市會ノ  
 決議ヲ經別紙工事豫算書ノ通り費用ヲ投シ六ヶ月間内ニ於テ竣成致度候條至急御認  
 可相成度關係書類相添ヘ此段申請候也

明治四十三年五月三日  
 鹿兒島縣知事阪本鈔之助殿  
 鹿兒島市參事會 市長 有川 貞壽

今ヤ世ノ麴勢ニ鑑ミ本市ノ發展ヲ顧ミレハ獨リ現在ノ城山公園ノミヲ以テ満足  
 スルコト能ハス故ニ新設ノ必要ヲ認メ之レカ設備ヲ講セサル可ラス而シテ市内  
 田ノ浦方面ハ其最モ適當ナルヲ以テ茲ニ地ヲトシ市ハ其筋ヘ無償拂下ヲ爲サン  
 ト欲シ之ヲ市會ニ諮リテ左ノ請願ヲ爲ス

農進第六四號

- 官有地無償拂下御許可願
- 一、官有地反別參百參拾八坪
  - 一、官有地反別參千五百五拾坪
  - 一、官有地反別參千五十七坪

鹿兒島市清水町拾番地ノ二號

- 一、官有地反別壹千八百四拾六坪(墓地)
- 一、官有地反別貳千四百八拾九坪
- 一、官有地反別壹千五百五拾坪
- 一、官有地反別壹百六拾坪

右ハ明治四十年八月十二日付ヲ以テ御拂下ケ許可出願致置候土地ニシテ本市ノ東北  
 ニ位シ錦江灣ノ一角ニ聳ヘ舊藩ノ砲臺ナリシヲ廢藩置縣ノ際陸軍省所轄トナリ明治  
 四十二年六月二十九日內務省所管ニ移サレタルモノニ有之然ルニ本市ハ夙ニ世ノ發  
 展ニ伴フ設備トシテ公園ノ必要ヲ認メ先キニ陸軍省所屬ノ本市城山々林地ノ拂下ケ  
 御許可ヲ得テ既ニ之カ開拓中ノ處今ヤ本縣港灣ノ改修肥薩鐵道ノ貫通ハ長足ノ進歩  
 ナ促シ旅客ノ出入ハ頻繁ニシテ百貨ノ集散ハ大ニ輻輳ヲ極メ現下ノ趨勢ハ到底右一  
 ノ公園ノミヲ以テ満足ヲ與フルニ至ラス殊ニ西薩鐵道ノ敷設ニ付テハ益々他ニ適當  
 ノ地ヲトシ新設ノ必要ヲ認メ候處前書ノ地ハ一ハ我カ舊藩主島津家ノ祖先ノ居城々  
 リシ舊址ニシテ一ハ文久三年英艦擊退ニ最モ務メタル地ナレバ共ニ本市ニ於テハ顯  
 著ナル歴史ヲ有シ且ツ風光明媚山水ノ眺望ハ誠ニ公園トシテ他ニ得易カラサルノ個  
 所ニ有之候得ハ時勢ノ必要上又ハ歴史的古跡保存上本市トシテ是非保持仕度御座候  
 間特別ノ御詮議ヲ以テ無償御拂下ケ許可相成度別紙繪圖面並ニ設備條件相添市會ノ  
 決議ヲ經此段奉願候也

明治四十三年五月四日  
 鹿兒島市參事會 市長 有川 貞壽



内務大臣法學博士男爵平田東助殿

設備條件

- 一、拂下出願地中第十番地内ニアル墓石ハ適當ノ個所ヲ撰定シ之レヲ移葬シ中央ニ噴水池ヲ設ケ周圍ニ園藝植物ノ如キヲ植栽シ又ハ公衆ノ運動場ヲ設置スルコト
- 一、其他ノ個所ハ通路ヲ開拓シ場所ニ仍テハ地均ラシチナシ平野形等ヲ造リ樹木ヲ植栽シ公衆ノ散步又ハ休息ニ便シ且ツ觀望ニ備フ
- 一、前項各地共現在ノ樹木中適當ノモノハ其儘利用シテ將來ニ保存スルコト

(繪圖面省畧)

右ニ對シ明治四十三年八月十二日本縣内務部長ヨリ市長ヘ左ノ諮覆アリテ願書返付シ來レリ

甲二第二〇四三號

去ル五月四日農進第六四號ヲ以テ市内清水町地内別紙内務大臣宛官有地無償讓與願提出相成候處右ハ公園トシテ將來保存スヘキハ至極適切ノ措置ト被認候ニ付其意ヲ以テ知事ヨリ一應内務次官ヘ協議相成候處地盤ノ官ニ屬スルト否トニ依リ設備ニ何等ノ差違ヲ出サス國有ノ儘公園地ニ組換使用セシムルニ於テハ敢テ讓與セサルモ毫モ支障無之讓與ノ件ハ詮議難相成候様被存候旨回報ノ次第モ有之候間此際該願書返付致候條愈々公園設置御決定ノ曉ニ於テハ使用願トシテ出願相成可然ト存候尙使用願ニ關シテハ設備維持管理等ニ關スル書類添付相成度候

是歲七月十二日城山公園々路開鑿工事ニ着手シ初メ本線ヲ第一ニ起工ス而シテ

工事材料運搬上急速竣成ノ必要ヲ認ムルハ第壹支線是ナリ故ニ幹線ト同シク第一支線路ヲ第一工事トシテ施工ス次ハ第二第五兩支線路ニ着手ス而シテ第三第四兩支線路ヲ最終ニ着手シテ全部ノ竣成ヲ期ス如斯其施工ノ順序ヲ定メテ工事ノ進捗ヲ計ル

本線ハ即チ幹線ニシテ造士館裏門脇ノ山麓ヨリ躋リテ山頂一脈ヲ貫通スルノ線路是ナリ道幅貳間ニシテ延長四百七十間トス此線ノ登口ニ磴道ヲ設ク

第一支線ハ柳月亭ノ後方ヨリ造士館ノ西方ヲ經テ左折シ山腹ヲ開鑿シテ幹線ニ接續スル線路是ナリ道幅六尺ニシテ延長貳百六拾間六合トス

第二支線ハ幹線ト第一支線トノ接續点ヨリ分岐シテ柳月亭ノ上ニ出テ浩然亭ノ後ヨリ登ル小徑ノ上ニ接續右折シテ幹線ニ接續スル線路是ナリ道幅六尺ニシテ延長百八拾八間壹合トス

第三支線ハ幹線ノ中央ヨリ分岐シテ岩崎谷方面ノ杉林中ヲ貫通シテ馬乘馬場附近ノ舊道ニ接續スル線路是ナリ道幅六尺ニシテ延長貳百拾八間壹合トス

第四支線ハ第三支線ノ中央ヨリ分岐シテ岩崎谷方面ノ民有地ト公園地トノ境界



地点附近ヲ沿フテ貫通シ舊道ニ接續スル線路是ナリ道幅六尺ニシテ延長百七拾九間八合トス

第五支線ハ第一支線ノ中央ヨリ分岐シテ幹線ノ中央ニ接續スル線路是ナリ道幅六尺ニシテ延長八拾壹間トス

以上ノ園路開鑿ヲ施スニ方リテ其線路ニ當ル障害木ハ豫メ着手前ニ伐採シタリト雖モ工事進行中ニ於テ盤根ノ園路ニ迸出シテ頗ル危険ノ虞アルモノハ猶其許可ヲ得テ生木ヲ伐倒ス樟、檫、椋、栲、栲、等ニシテ其周圍ノ最小ナルハ三尺最大ナルハ拾三尺ノ大樹木ナリ此等伐採木ハ総テ公賣ニ附ス其拂下代金四百拾八圓ヲ得タリ

是歲十二月十五日全部竣工ス是日市參事會員等登臨シテ寶檢ス初メ起工ヨリ凡四閱月ニシテ城山公園ニ幹支縱橫坦々タル園路成ル此ノ線路新開費ニ金參千九百八拾八圓拾錢ヲ支出シタリ此開鑿中ニ發掘シ得テ最モ珍シク人目ヲ惹キタルモノハ砲彈彈片及貝類ノ化石ニシテ砲彈ハ十年丁丑ノ役官軍ノ四方ヨリ發射シタルモノナルヘク而シテ城山ノ山中ヨリ貝類ヲ發掘シ得タルハ珍奇ナリト云フ

此等ハ市ノ城山公園開鑿ノ紀念物トシテ永久ニ保存ス

是ニ於テ新開園路ニ花卉栽植ノ配置ヲ計ル第一支線ハ幹線接續点下方ニ於テ桃樹林ヲ作り尙花樹ヲ植ユ第二支線ハ線路ノ兩側ニ於テ櫻樹林ヲ作り尙楓樹ヲ植ユ此兩線路ハ城山ノ東南部ニ屬スルヲ以テ桃櫻ノ類ヲ最モ適當ナリトス第三支線ハ楓樹木ヲ作り其右方ノ谿間杉林ノ上方ニモ尙楓樹ヲ植ユ城山ノ北部ニ屬スルヲ以テ楓林ヲ最モ適當トス秋霜早ク血ニ染ムヲ以テナリ第四支線ハ第三支線トノ分岐点左側ニ於テ梅樹林ヲ作り尙他ノ花卉ヲ植ユ城山ノ東北部ニ屬スルヲ以テ梅林ヲ最モ適當トス新春早ク東風ニ香ヲ放ツヲ以テナリ蓋シ城山ハ數年ナラスシテ春秋ニ滿山紅綠相映シ萬綠叢中紅幾点ノ風趣ヲ發露シ各美ヲ爭ヒ妍ヲ競フヲ見ルヲ得ヘキハ固ヨリ言ヲ俟サルナリ而シテ其他登臨者休憩ノ爲メ曩ニ伐倒シタル古木巨幹ヲ丈内外ニ截斷シ其渾木ノ上面ヲ削リテ腰架ヲ製シ以テ之ヲ各園路ノ要所ニ配置シタル等具體的設備頗ル整フニ至ル其新園路ニ花樹林ヲ作り猶漸次ニ園内ノ各所ニ移植シタル樹木ノ種類ハ櫻、楓、桃、梅、紫陽花、躑躅、各百本其他山茶、萩、洞蘭等ニシテ彼ノ枯木及危險木ヲ伐採シタルヲ以テ將來ノ殖林計







市ハ之ヲ公園敷地ニ地種目組換ノ申請ヲ爲シテ其認可ヲ得タリ  
 是歲二月ヨリ三月ニ亘リ園内ノ樹木保護ノ爲メ園路兩側ニ鐵條網ヲ張り延長二  
 千間ニシテ其工費金九百圓ヲ要シタリ曩キニ買收シタル擴張地域ノ平地ヲ新開  
 シテ杉穂ヲ挿シ花卉ヲ植ヘ各所ニ腰架ヲ配置スル等ノ設備ヲ爲ス  
 市カ曩ニ買收シタル新擴張地域ノ平地ト犬牙交錯スル処ノ柴生地及畑地ハ亦園  
 内ニ編入シ地域擴張ノ必要アルヲ以テ是歲五月市會ノ協賛ヲ得テ地主山下淺太  
 郎ヨリ金參百三十二圓五拾錢ヲ以テ之ヲ買收シタリ其地目反別等左ノ如シ

字	地番	地目	反	別	地	價
山下町	二五〇番イのハ	柴生地		〇〇五五〇七歩		三〇〇〇
全	二四九番のハ			〇〇五二〇〇歩		四一〇〇
全	二四九番のハ			〇〇二二四歩		一一九〇
全	二五〇番のハ			〇〇二二四歩		一一九〇

市ハ之ヲ公園敷地ニ地種目組替ノ申請ヲ爲シテ其認可ヲ得タリ  
 是歲七月ニハ右買收地域ノ平地ヲ以テ鹿兒島新聞社主催ノ學齡兒童大運動會場  
 ニ充テタリ會ハ頗ル盛況ヲ呈ス曩ニ市カ買收ニ際シ最モ運動場ニ適當ナルヘク  
 之ヲ認メタリシカ果然此舉アルヲ觀ル

抑モ城山公園ハ熱帶地域ニ産スル珍奇ノ植物實ニ少ナシトセス林學家ノ來鹿シ  
 テ公園ニ筭ヲ曳クモノハ往々珍木ノ種類ヲ發見シテ其多キヲ歡ヒ而シテ皆之ヲ  
 保存スルノ必要ヲ説カザルハナシ是ニ於テ市ハ之ヲ保護スルニ於テ一他ト甄  
 別シ易カラシメンカ爲メニ此等珍奇ノ名木ニハ各其樹名ヲ記シタル木札ヲ付シ  
 且ツ一般登臨者ノ爲メニモ注意ヲ惹ケリ其種類左ノ如シ

- (一) ビランジュ(一名バクチノキ、ハタカノキ) 薔薇科
- (二) 日本南部ノ暖地及ヒ熱帶ニ産ス材ハ緻密堅硬ニシテ唐木細工ニ適ス 樟科
- (三) 日本南部ノ暖地ニ多シ材質稍硬ニシテ裂ケ易ク特種ノ用ナシ 樟科
- (四) カゴノキ(六駁) 日本南部ノ暖地ニ多シ材ハ稍硬ニシテ割レ難シ樹皮ヲ藥用トス 樟科
- (五) タブノキ(一名タマガス、イヌガス) 日本南部ノ暖地ニ多ク産ス材質稍硬シ室内ノ裝飾材又ハ器具材等ニ用井ラル 桑科
- (六) イヌビハ(天仙果) 日本南部ノ暖地ニ多シ材ハ緻密ナリ果實ハ「イチジク」ニ似テ小ナリ 省 沽油科
- (七) セウベンノキ(一名ヤマテキ) 薩摩大隅及琉球等ニ多シ材ハ堅クシテ輕ク且ツ割レ難キ良材ナリ器具ニ用ユベシ 省 沽油科
- (七) ゴンズイ(野烏樺) 日本中部ノ溫帶ヨリ琉球臺灣等ノ暖帶ニ産ス材ハ硬クシテ裂ケ難シ 省 沽油科



- (八) サンゴジュ(一名キサソゴ) 忍冬科  
日本南部暖帯各地ニ産ス果實ハ赤クシテ大サ五六寸ノ大ナル房ヲナシ其狀怡モ  
赤珊瑚ノ如シ
- (九) ハマクサギ(腐婢) 馬鞭草科  
暖帯ノ海岸及ヒ其附近ノ山地ニ産ス葉及ヒ樹皮ニ甚シキ惡臭アリ故ニ此名アリ
- (十) ニガキ(黄棟樹又ハ苦木) 苦木科  
日本全國ニ分布ス其煎汁ハ蟲ヲ殺スノ効アリ材ハ硬クシテ光澤アリ
- (十一) ナナミノキ(鐵爐散、細葉冬青) 冬青科  
日本南部暖地ニ産ス雌雄異株ニシテ材ハ稍硬ク且緻密ナリ
- (十二) クユノミヅキ(一名サハミヅキ) 山茶黃料  
日本中部ニ最も多ク産ス花ハ四五月頃開キ果實ハ八九月頃熟ス其色鮮紅ニシテ  
四五寸ノ房ヲナス
- (十三) クロキ(一名ヤマキ) 灰木科  
四國及ヒ九州ニ多シ材ハ稍々緻密ニシテ器具材トナル

附録

林學博士本多靜六ノ公園意見ハ本市カ公園計畫上漸次ニ之ヲ遂行スベク參事會  
ノ同意ヲ得タル者ナルヲ以テ左ニ附録トシテ之ヲ掲ク

明治四十三年八月二十日午後六時縣廳内郡市長會議室ニ於テ本多林學博  
士口述鹿兒島市公園意見

一 本日途上散見シタル師範學校下縣道ニ植付タル市街樹ノ濫伐ハ不法ノ甚シキ  
モノナルニヨリ直チニ停止シ將來深ク注意スルコト

但切込ノ必要アリトスレバ春秋ノ好時期ヲ選フノ尤モ緊要ニシテ目下炎暑  
ニ當リ伐採スルハ甚シキ害アリ折角植付タル樹木ヲシテ枯死セシムル憂ア  
リ

一 田ノ浦公園ハ主トシテ學生向雜踏ノ遊戯場トシテ海水浴場タルニ適スルノ装  
置ヲ爲スヲ以テ可ナリトス依テ墳墓ヲ取除キ縣道下側海岸迄トシ墳墓跡ハ運  
動場トシ臺場下空地ニ日覆ノ爲メアコウ、ガシマル、黒松梅檀等ノ樹木ヲ植付海  
水浴場ノ設備トシテ棧橋ヲ作り海面ニハ水泳者ノ能不能ヲ區別スル爲メ區域  
ヲ定メ亞鉛引ノ銅線ヲ二三重ニ廻ラシ遊泳者ノ流出セサル様浮揚器ヲ以テ水  
面下壹尺、三尺五尺、等ノ深サニ其線ヲ保タシムルコト

一 田ノ浦ノ縣道ノ上手高地ニ屬スル部分ハ當分現形ノ儘放置シテ時勢ノ必要ニ  
至ルヲ待ツコト

一 城山公園ハ主トシテ市ノ表玄關トシテ外客用及ヒ市内大人向運動保養ヲ目的



- トシ併セテ市ノ裝飾トスルコト
  - 一照國神社西側下水溝幅ヲ上下流殆ント同幅トシ能ク浚渫シ常ニ清潔ナル一定ノ水深ヲ保ツ様改築スルコト
  - 一右下水溝ト里道トノ間水溜ノアル廣場へ樹木又ハ水草(菖蒲燕子花)類ヲ植付クルコト
  - 一神殿周圍ノ池ハ清水ヲ深クシ魚類ヲ放養シ蚊ノ親タル「ポーフラ」ノ生息ヲ全滅シ併セテ觀覽人ノ手又ハ口ノ洗嗽ニ便ナラシメ池中ノ雜草ハ常ニ除去スルコト
  - 但池ノ外側周圍ハ參拜人ヲシテ通行シ得ル様設備ヲナスコト
  - 一神殿ノ後部ハ樹木ヲ密生セシメ神殿ノ前方ノ空地ニモ樟木一ツバ、黒松等ノ常綠樹ヲ植付クルコト
  - 一招魂社附近ノ水溜ハ調査ノ上所置スルコト
  - 一磯島津家買収地ハ日本風庭園トシテ現在ノ儘好箇ノ庭園師ニ掃除ヲ爲サシメ舊圖面ヲ搜索シ是レニ依リ手入ヲナスコト
- 但其下方ハ花園トナシ農事試驗場ヨリ各種ノ花卉ヲ栽培セシメ一方日本風

- 庭園ニ沿フテ胞衣埋地ノ邊ヨリ山林植物園ニ進ムコト
- 一買収地内へ一ヶ所茶店ヲ設ルコト(場所未定)
  - 一買収地ノ石坂路或ハ他ニ適當ナル通路ヲ設ケ花園ヨリ山林植物園ヲ通シテ公園ニ接續セシムルコト
  - 一島津家所有ノ胞衣埋地ヲ山林的植物園ニ利用シ漸次珍木ヲ植付グルコト
  - 譬へハアコウガシマル橄欖、レイシ、芭蕉各種竹類等ノ如キ熱帶地植物
  - 一標札ハ<sup>五寸</sup>樟<sup>ノス</sup>字<sup>ニ</sup>上圖ノ如クトタンニテ製シ和名並ニ洋名ヲ記入スルコト
  - 一植物園中樹木植付ハ多クノ入費ヲ要セサルモ草花ハ手入等ニ失費アルヲ以テ花園ノ分ハ可成農事試驗場ニ委託スルコト
  - 一柳月亭裏支線ハ尙ホ少シク研究スヘキモノトス
  - 一柳月亭先キ水溜ノ邊ヨリ造士館脇ヲ通行シ病院脇幹線道路ニ連續セシムルコト
  - 但道幅六尺乃至九尺
  - 一水溜附近上段ノ抜穴ハ觀覽シ得ヘキ裝置ヲナシ且ツ舊本丸ヨリ玉里邸ニ通スル洞窟明取リタルコトヲ記入シ置クコト



- 一 柳月亭線脇ニ手洗場所ヲ設ケ且水溜ヲ造リ道路ニ準シテ水流ヲ形造ル
- 一 東向第二廣場ハ周圍ニ櫻並ニ楓ヲ不規則ニ植付腰掛ヲ設クル
- 一 但櫻七本ニ楓三本位トシ腰掛ハ樹木ノ丸太ノ上部ヲ削リ下ニ臺ヲ置クモノタル
- 一 最高地点ニ三四尺ノ補道ヲ作り腰掛用丸木又ハ切株ニテ置ク
- 一 東宮殿下御休憩所脇高臺ハ存置シ北脇ヲ廣場ニ開拓スル
- 一 舊馬乗場ノ路傍ヲ取廣メ遊戯場ニナス候補地トシテ他日ノ研究ニ讓ル
- 一 大杉林ハ鐵條ヲ以テ約七尺ノ高サニ圍ヒ内ニ鹿ヲ飼養スル
- 一 奈良公園ヨリ貰ヒ受ル
- 一 第三空地ハ楓ヲ主トシ各種花木ヲ植付クル
- 一 第四空地ハ梅ヲ主トシ桃等ヲ植付クル
- 一 北ノ臺ヘ吾妻家ヲ設ケ腰掛用丸木ヲ設クル
- 一 南洲翁洞窟ヲ見透ス所ニ丸木腰掛ヲ設クル
- 一 分岐点ニハ総テ案内札ヲ掛木ヘ釘打ニスル

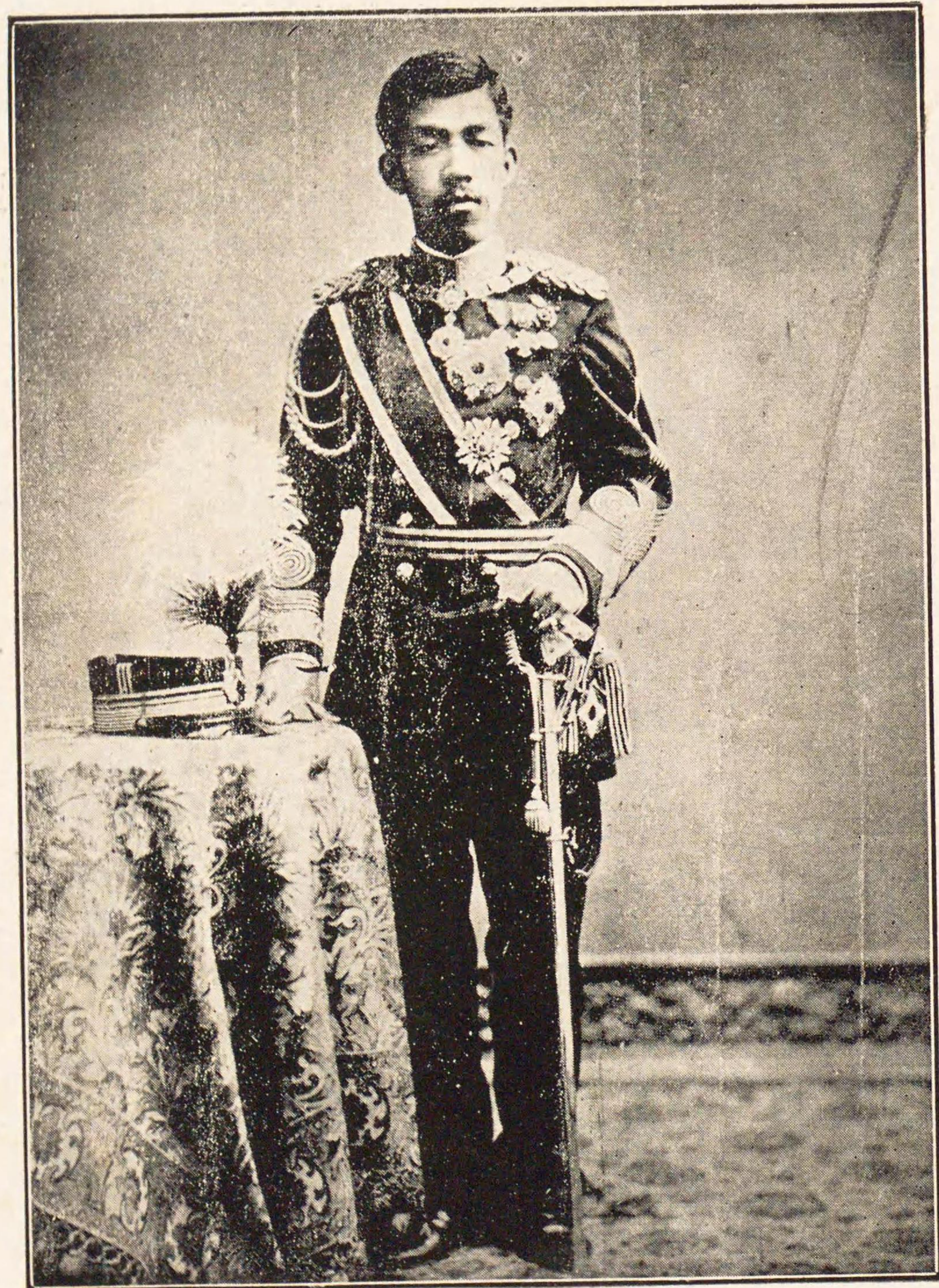
- 一 現在ノ樹木ハ大小ノ區別ナク悉皆保存スル
- 一 老木ノ先ノ枯枝ノ分丈ハ伐リ去ル
- 一 老木ノ疎ナル所ニハ樟特ニ禿地瘠地ニハ黒松ヲ植テ老林ノ後繼者ヲ養生シ置ク
- 一 老樹ノ間殊ニ歩道ト歩道トノ中間ニハ椿、山茶花、榊、金剛拳、青木、其他陰種ノ常綠潤葉樹ヲ植ヘ其前方ニハ蹄躑ドウタン、山吹、萩、杯ノ紅葉樹又ハ花卉ヲ植付ケ更ニ其前方歩道ノ兩側ニハ莖、石竹、其他適宜ノ草花ヲ播付置ク
- 一 公園表口屋形下通り及照國神社通りハ城山公園附屬トシテ行通樹ヲ植付クル
- 一 但樹種ハ文旦、橙等ノ柑橘類ニシテ周圍目通り八寸枝下七尺ノモノヲ三間置ニシテ三寸位根元ヲ低ク植付年二回上土ヲ耕スコト支柱ノ結付ニハ杉皮ヲ充ツル
- 一 櫻、楓等ノ移植ハ新芽前ニスル

但二間位ノ樹木



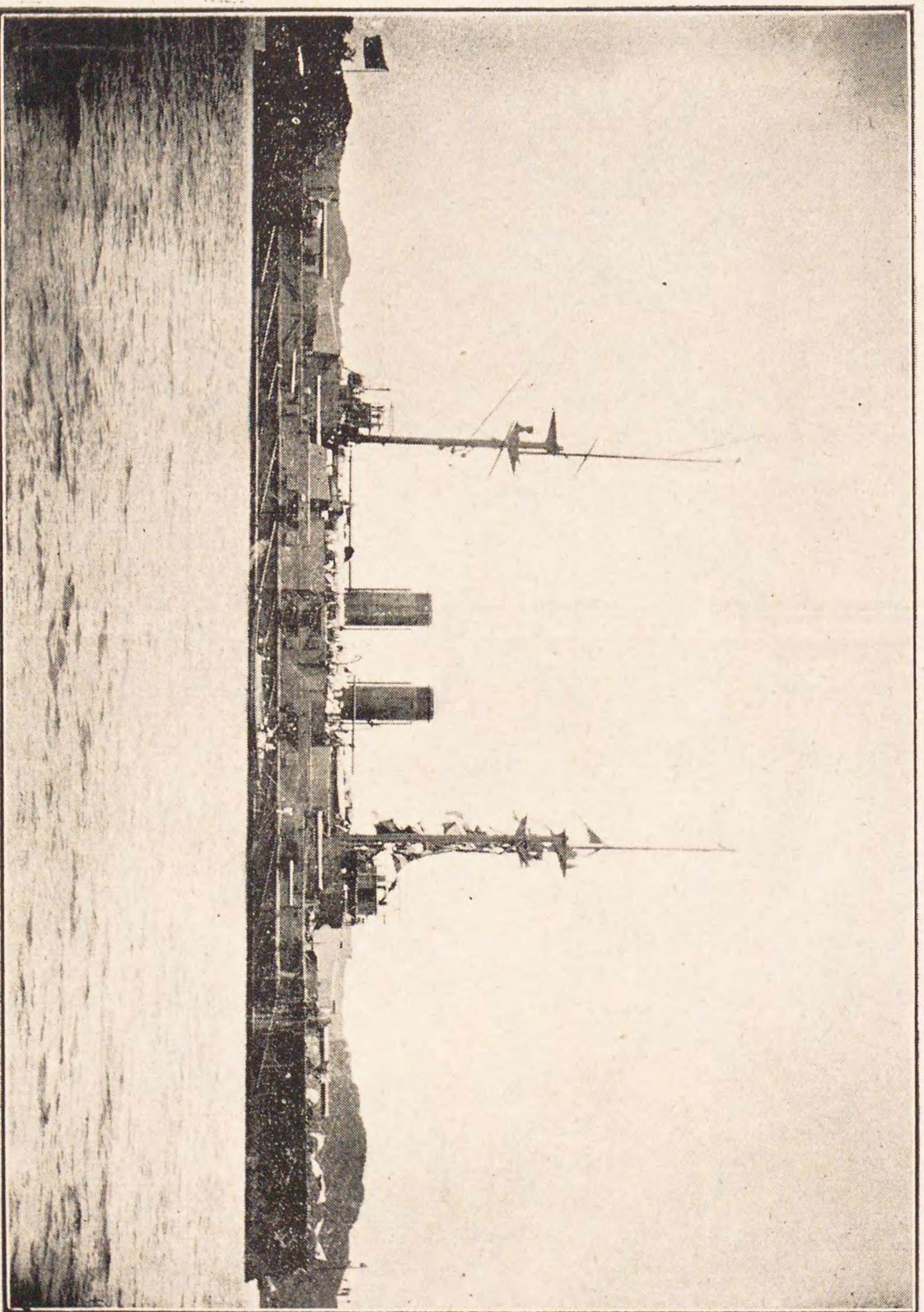
以上

右意見中ニ於テ城山公園ノ如キ自然ニ大樹木ヲ有シ實ニ閑雅幽邃ヲ主トセル區  
域ナルニモ係ハラズ櫻楓梅等稍通俗的樹木植付ノ配置ヲナシタルハ公衆遊歩用  
娛樂用トシテ餘リニ單調ニ失スルモノアルト世人ノ嗜好ハ十人十色ナルヲ以テ  
一面ニハ可成一般ノ公衆ニ適セシメ本園ノ殷盛ヲ計ルノ一助ニ供セントスル所  
以ナリ



皇太子殿下





御召艦香取

Faint, illegible text or markings at the top of the right page.



## 鶴駕奉迎

維時明治四十年十月二十六日 皇太子殿下我鹿兒島市ニ行啓アラセラルル吁何等ノ光榮ツ而シテ 殿下ノ駕ヲ我市ニ駐メラル、約四日當時本市ハ此光榮ヲ紀念シ奉ランガ爲メ之ガ行啓日記ヲ作レリ今茲ニ挿畫ト共ニ其全文ヲ移シテ以テ之ヲ本史ニ編入ス是レ同日記ノ記事其實況ヲ悉セルノミナラス當時常ニ 殿下ニ扈從セル樺山伯其他ニ就テ事實ノ正確ヲ期シタルモノナルヲ以テ今本史ヲ編ムニ當リ筆ヲ改メテ更ニ之ヲ記述スルトキハ或ハ却テ其詳ヲ缺キ又其真相ヲ誤マルノ虞ナシトセズ而シテ又同日記ハ素一小冊子ニ過ギザルヲ以テ之ヲ本史ニ編入スルハ即チ此光榮ヲ長ヘニ紀念シ奉ル上ニ於テ適當ノ處置タルベキヲ信ズレバナリ

### 行啓日記

緒言

明治四十年中夏ノ交本市ハ 皇太子殿下今秋ヲ以テ遙ニ鶴駕ヲ我鹿兒島市ニ枉

ゲサセ玉ハントスルノ報ニ接スルヤ歡天喜地無上ノ光榮ヲ感シ先ヅ市有志者市



會議員市參事會員市吏員ヲ以テ奉迎準備委員ヲ組織シ市長ヲ委員長トシ四掛ヲ置キ其第一掛ニ於テハ献上品一切ニ關スル件第二掛ニ於テハ殿下ノ御食品調達ニ關スル件及ビ御旅館ニ係ル供奉員ノ寢具供奉員ノ外宿手當ニ關スル件第三掛ニ於テハ道路修繕綠門建設及ビ城山御休憩所ニ關スル件第四掛ニ於テハ煙火製造及ビ打揚ゲ小學校生徒奉迎送並ニ提灯行列武者行列及ビ海岸要所「アーケ」燈臨時建設ニ關スル件ヲ分担シ爾來數旬孜々營々以テ今回ノ盛儀ニ萬一ノ遺漏ナカラシムコトヲ期シタリ既ニシテ十月廿六日恭シク御乘艦ヲ錦江埠頭ニ迎ヘ奉リシヨリ以來御駐輿約四日其間幸ニシテ著シキ失態ヲ見ズ此一大盛事ヲ完フスルコトヲ得タルハ我縣市民ガ歡喜措ク能ハザル所ナリ茲ニ 殿下行啓ノ光榮ヲ長ヘニ紀念シ奉ランガ爲メ行啓日記ヲ作ル

行啓第一日 (十月廿六日)

御 着 艦

本日ハ愈我縣民ガ數旬以前ヨリ滿腔ノ熱心ヲ以テ鶴首待チ奉リタル 皇太子殿下御着艦ノ當日ナルヲ以テ何レモ天候如何ヲ氣遣ハザルモノナカリシガ幸ニシ

テ曉來蕭々タリシ秋雨止ミ午前八時過ニ至テハ一天晴朗氣清ク風軟カニ滿街ノ士女東宮日和ヲ歡呼セザルハナク四圍ノ風物宛然畫趣ヲ帶ビ無情ノ山河モ亦タ鬢々トシテ偏ニ御着艦ヲ迎ヘ奉ルモノ、如シ既ニシテ午前九時頃轟然一發碧天ノ寂寞ヲ破リ御召艦見ユトノ信號煙火揚ル數萬ノ群衆馳セテ海濱ニ出テ沿岸一帶須臾ニシテ人ノ垣ヲ爲ス斯クテ刻一刻艦體次第ニ分明トナリ御召艦香取ハ旗艦鹿島ヲ先頭トシ供奉艦出雲以下第二第六第八第十三ノ水雷驅逐艦隊十四隻ヲ從ヘ威風堂々錦江灣ヲ壓シテ徐々進航シ來リ正ニ午前十時十五分ヲ以テ一齊投錨ヲナス此時煙火廿一發ヲ打揚グ是ヨリ先キ千頭知事有川市長樺山伯鯨島海軍大將伊瀨知陸軍中將等ハ滿船飾ヲナセル小蒸汽船甲崎丸ニ搭乘シ艦隊ヲ天保山沖ニ迎ヘ各艦ノ投錨ヲ待チテ御召艦ニ伺候シタルニ直チニ拜謁ヲ仰付ケラレ御機嫌麗ハシク特ニ樺山伯ニ對シ種々ノ御物語アラセラレタリ

和船ノ競漕ヲ臺覽ニ供ス

御着艦後間モナク西櫻島々民ハ和船十五隻ヲ舩シ袴腰方崎鼻ヲ起点トシ御召艦香取ヲ決勝点トシ神瀬ヲ一周シテ競漕シ臺覽ニ供シタルガ 殿下ニハ始終艦橋



ニ立タセラレ兩眼鏡ヲ以テ御賞覽遊バサレタリ

御代拜御差遣

午前十一時御代拜トシテ大迫侍從ヲ可愛山陵ニ有馬侍從ヲ吾平山陵ニ御差遣アラセラレタリ

御上陸

午後一時三十分御上陸御治定ノ御豫定ノ櫻島御一周ハ中止セラル時刻來ルヤ御召艦香取ノ橋頭高ク御上陸ノ信號旗翻ルヲ見ル既ニシテ殿下ニハ村木侍從武官長陪乘ニテ御召艦々載水雷艇ニ召サレ東郷海軍大將有馬第一艦隊司令長官井手香取艦長等坐乗ノ全水雷艇ヲ先頭ニ四隻ノ小汽艇ヲ供奉トシ第一棧橋ニ御着供奉員ヲ從ヘサセラレ英姿颯爽徐ニ玉歩ヲ棧橋上ニ移サレ御出迎申上ゲタル千頭知事樺山伯鯨海軍大將伊瀨知陸軍中將有川市長等ニ御會釋ヲ賜ヒ知事ノ先導ニテ用意ノ腕車ニ召サレ龜山警視御先驅ニテ御機嫌麗ハシク東宮武官長岩倉公爵東郷海軍大將樺山伯鯨海軍大將千頭知事有川市長等扈從豫定ノ御道筋ヲ磯島津邸御旅館ヘト靜ニ玉車ヲ進メラル有爵者各高等官貴衆兩院議員縣會市會

各議員市參事會員郡會議長村長各婦人會員在郷軍人團員赤十字社員各團體員各學校生徒其他一般拜觀人ハ御通路左右ニ整列シテ肅然奉迎シ奉ル殿下ハ始終玉手ヲ舉ゲテ之ヲ受ケサセラレ午後二時三十分扈從員ト共ニ御旅館ヘ入ラセ玉門内ニハ高木兼寬奈良原繁ノ兩男及ビ島津家一門ノ人々樺山伯夫人并ニ邸員一同御出迎申上ゲ直ニ御車寄ニ着御御座所ニ入ラセラレタリ

御機嫌伺

殿下磯御旅館ニ御着アラセラルミヤ樺山伯伊瀨知男在慶各陸海軍將校縣會議員一同并ニ各郡長村長等ハ御旅館ニ伺候シテ御機嫌ヲ伺ヒ奉リタリ

市ノ奉迎表捧呈

有川本市長ハ殿下御着館後市民ヲ代表シテ左ノ奉迎表ヲ捧呈シタリ

奉迎表

鹿兒島市長 臣貞壽 誠惶誠恐頓首頓首

伏テ惟ルニ我ガ

皇祖創業以還鸞輿西幸ヲ記スルモノ往古ニ於テハ之ヲ



景行帝紀ニ視ルノミ

今上龍興恢ニ

皇謨ヲ弘メ明治五年

翠華始メテ西巡ス爾來茲ニ三十有五年

殿下今又々本縣ニ蒞マレ蹕ヲ公爵島津忠重邸ニ駐メ玉フ 臣等 側カニ聞ク

殿下ノ此行ニ於ケルヤ外ハ隣國ニ臨デ其形勢ヲ審カニシ内ハ各縣ノ風教ヲ觀以

テ研鑽ニ資シ以テ

聰明ヲ啓キ玉フノ誠意ニ出ヅト伏テ以爲ク維レ洵ニ

聖代ノ双絶曠古未聞ノ盛事ナリ縣下百萬ノ生靈

盛德ヲ仰ガザルモノアランヤ況ンヤ

玉軫ヲ咫尺ノ間ニ迎ヘ

殿下英邁ノ威風ト

聰明幹蠱ノ盛德ヲ仰瞻スルコトヲ得 臣等 感激言フ攸ヲ知ラス唯恐ラクハ撲楸ノ小

禮御意ニ辜負スル有リテ邊陲ノ事物モ亦或ハ

臺覽ニ副ハザルコトアラシク然リト雖 江ノ晴波ト櫻洲鶴嶺ノ翠嵐トハ姿態

各其趣ヲ異ニシ形勝依然終古渝ルコトナシ

殿下徐ニ覽觀ヲ賜ハハ蓋又自ラ

臺感ニ觸ル、モノアラン今ヤ秋高氣澄風露正ニ滋シ伏テ

玉質ノ堅緻ト

御意ノ剛健トヲ祈ル 臣貞壽 叨リニ

威尊ヲ冒瀆シ恐懼己ム能ハス伏テ冀クハ

寬恕ヲ垂レ玉ハンコトヲ誠惶誠恐謹ミ白ス

明治四十年十月廿六日 鹿兒島市長 正五位勳四等 有川貞壽

演伎御臺覽

御着館後約一時三十分間御休憩ノ後演伎臺覽ノ旨仰出サレ午後三時三十分岩倉  
公爵村木武官長錦小路主事樺山伯東郷大將千頭知事等ヲ從ヘサセラレ望嶽樓  
(全樓ハ其構造支那古代ノ家屋ニ模擬シタル)ニ成ラセラレ老人ノ武士踊坐拍子  
及ビ加世田武士踊ヲ御覽アラセラル其間前後約一時間 殿下ニハ殊ニ裝束ノ珍



ラシキト演伎ノ奇ナルトヲ御賞覽アラセラレタルモノ、如ク時々御微笑ヲ漏シ玉ヒ老人連ノ坐拍子御上覽ノ際ニハ樺山伯ガ此踊ニ參加セシモノハ七拾歳以上ノ老人モ居リマスト言上シタルニ九拾歳百歳ノモノハナキヤト御下問アリ夫レハナキ旨ヲ言上シ續ヒテ左端ナルハ片岡海軍中將ノ實兄ナリト言上セシニ夫レハ似ザルニアラズヤト仰セ玉ヒ重テテ此踊ハ始終ヤツテ居ルノカトノ御下問アリ全伯ハ時々集ツテヤツテ居ル様子デゴザリマスト奉答シ伯ハ更ニ踊ノ老人中ニハ八十九歳ニナル染川伊右衛門ト申スモアリマス又九良賀野登ト申ス老人ハ英艦前ノ濱ノ戦争ニモ參加シ祇園洲砲臺ノ組頭今デスレバ司令官ノ職ニ在ツタ者デゴザリマスト言上シタルニア左様カト御領キ遊バサレ更ニ彼ノ歌ハ何ト云フ歌カト御下問遊バサレシモ全伯ハ十分ノ記憶ナキヲ以テ此歌モ加世田踊ノ歌モ大概ハ目出度イ歌ノ趣意デゴザリマスト奉答シタルニ將來永ク續クノカト御下問アラセラレ全伯ハ此御下問ニ對シ是ハ島津家中興ノ貴久ヲ補佐シテ賢明デアツタ忠良日新寺ノ廟ニ毎年六月廿三日祭典ヲ舉ゲ此踊ヲ致シマスカラ將來永ク繼續スルデゴザリマス又島津家ヨリ多少ノ補助モ致シマスト奉答シタリ

右陪觀ノ榮ヲ賜リタル人々ハ何レモ拜謁ノ資格アル者ノミニテ其中重モナル人々ハ各有爵者鮫島大將伊瀨知大久保吉田ノ三中將阪元野島ノ二少將貴衆兩院議員縣會議長有川市長其他文武高等官等ナリシ

賜 拜 謁

殿下ニハ長途ノ御旅行御疲勞ヲモ厭ハセラレズ前項ノ演伎御臺覽ノ事終リ午後四時五十分ヨリ御座所御次ノ廣間ニ於テ左記ノ人々ニ拜謁ヲ賜ハル何レモ無上ノ光榮ヲ荷ヒ全五時頃一同退出セリ

島津各男爵高木奈良原兩男大久保吉田兩中將阪元野島兩少將田中監督局長百々瀨裁判所長貴衆兩院議員縣會正副議長陸海軍現役將校全相當官現職高等文官全待遇者在郷陸海軍將校全相當官及ビ從六位勳六等以上其他行啓セラレザル縣市立各學校長等資格アル者約三百餘名

獻 上 品

今回ノ行啓ニ付テハ縣下ヨリ種々ノ献上品アリシガ本市ハ薩摩燒植木鉢ニ蘇鐵ヲ植付タルモノ二鉢及ビ孟宗竹二本ヲ献上シタルガ何レモ御嘉納ノ榮ヲ蒙リ殊



ニ蘇鐵ハ御旅館御寢所ノ廊下上ニ据へ置カセフレ恐多クモ日夕御愛玩遊バサレ  
タリトノ事ナリ本市ノ光榮大ナリト云フベシ

漁火篝火ヲ臺覽ニ供ス

本夜櫻島々民ハ聊カ 殿下ノ御旅情ヲ慰メ奉ランガ爲御旅館ノ前面ヨリ南一帯  
ニ無數ノ漁火ヲ点ス又西櫻島々民ハ全時ニ無數ノ篝火ヲ点シケレバ漁火篝火點  
々層々相聯綴シテ火光天ヲ焦シ一大壯觀ヲ極メタリ

磯邸ノ祥瑞

是日殿下ガ鹵簿整々磯邸前ノ奉迎綠門ニ入ラセラレントスルノ際全邸ノ用意ニ  
係ル煙火船ヨリ打揚ケタル奉迎ノ文字ヲ印セル旗翻々トシテ空中ニ飛揚シテ玉  
車前面ノ上方ニ舞ヒ來リ將ニ御車上ニ落下セントスルモノ、如クナレバ扈從セ  
ル樺山伯ハ車上ニ伸ビ上リ冷汗背ヲ沾ホサレタル由ナルガ旗ハ終ニ玉車ノ前面  
數歩ノ處ニテ開ケ奉迎ノ文字歷々ト現ハレテ地上ニ落下シタリ 殿下ニハ之レ  
ヲ御覽アラセラレテ微笑ヲ漏ラシ玉ヒ玉車ヲ該旗上ニ轆ラセツ、御通過アラセ  
ラレタリ衆以テ磯邸ノ祥瑞トナス

行啓第二日 (十月廿七日)

本日ハ縣廳ニ御成御豫定ノ時刻午前十時ヲ報スルヤ 殿下ニハ御車寄ニテ御乘  
車先驅供奉規定ノ如ク門内西北奉拜ニ伺候シタル縣會議員市參事會員市會議員  
市助役收入役鹿兒島郡會議員其他ノ郡會議長副議長町村長等敬禮ヲ表シ奉ルヲ  
觀ソナハセラレテ御舉手御會釋ヲ賜ヒ列序整々御出門沿道ノ拜觀人學校生徒等  
ガ熱誠敬意ヲ表シ奉ルニ對シ始終御會釋ヲ賜ハリ本縣廳ヘト玉車ヲ進メラル

縣廳御成

午前十時三十分本縣廳ニ臨御先ツ廳門内ニ整列奉迎セル高等官以下判任官等ニ  
舉手御答禮アラセラレ玄關階段前ニテ御手ヅカラ前掛ヲ取り玉ヒ靜ニ御下車全  
處ニ奉迎シタル千頭知事ノ御先導ニテ右手ノ階段ヨリ御昇リアラセラレ献上品  
陳列所ナル知事官房御通御座所ニ入ラセラル御座所ニハ台覽ニ供シ奉ランガ爲  
種々ノ花卉ヲ陳列ス殊ニ臺灣産扶桑花鈴咲ヲ御賞讚アラセラレ親カラ御手ヲ觸  
レサセ玉ヒテ種々ノ御下問アリタリ知事ハ左ノ上表ニ鹿兒島縣治概要全統計書  
全統計表各壹冊鹿兒島縣管内全圖鹿兒島市街圖各壹冊鹿兒島縣舊蹟名勝圖壹冊



全寫真帖壹冊受褒賞者調壹冊普通教育効績者寫真帖榮ノ尾温泉寫真九葉全説明書壹冊刻煙草壹箱紀念繪葉書五十組ヲ添へ捧呈シ奥田縣會議長モ左ノ奉迎表ヲ上ル

縣治概要 外 數點ヲ上進スル表

臣 清 臣 白 斯

聖代曆ヲ累ヌルコト玆ニ四十

惠澤四海ニ遍クシテ率土仁ヲ仰ギ

神猷八紘ヲ蓋ウテ萬邦誠ヲ効ス 臣 清 臣 誠歡誠惶頓首頓首伏シテ惟レバ

皇太子殿下龍鳳ノ姿孝友ノ懿神協ヒ人同ス夙ニ位ヲ

春宮ニ正シ給ヒ問安應務ノ暇屢

玉趾ヲ遠方ニ移シテ億兆ノ望ニ副ヒ或ハ台慮ヲ風土ニ留メテ問學ノ材ニ資シ給

フ深仁宏慮已ニ聰已ニ叡海内弘濟ノ至德ヲ仰キ黎庶望霓ノ功情ヲ含ム今玆十

月乃チ恩旨ヲ降シ西南諸縣玆ニ

鶴駕ヲ迎フ本縣僻シテ一方ニ在リ海隔テ山阻ツ乃チ亦與リテ

鸞旌ノ餘光ヲ拜スルコトヲ得老幼途ニ慶シ歡聲巷ニ湧ク 臣 清 臣 誠歡誠惶頓首頓

首 臣 聞ク田夫曝ヲ獻シ野人芹ヲ捧グ聖主斥ケズト 臣 清 臣 叨リニ乏シキヲ知縣

ノ職ニ承ケ治化無狀以テ

台慮ニ副フ能ハス邊陲野俗以テ

清覽ニ供スルモノナキヲ憾ム乃チ敢テ薄陋ヲ忘レ縣治概要 外 數點ヲ左右ニ上進

ス區々ノ微衷幸ニ覽觀ヲ賜ハルコトヲ得ハ 小 臣 獨生成ノ恩ヲ荷フノミナラス

闔縣ノ民當ニ雨露ノ澤ヲ蒙ルベシ 臣 清 臣 懼欣悚懼ノ至リニ任ヘス頓首頓首謹

テ白ス

明治四十年十月廿七日 鹿兒島縣知事從四位勳二等 千頭清 臣

奉 迎 表

鹿兒島縣會議長 臣 榮之進 縣下ノ蒸民ヲ代表シ誠惶誠恐度テ玉軫ヲ奉迎スルノ

微衷ヲ摠フ 臣 等 草莽ニ在リテ仄ニ聞ク

殿下天資滂哲德器三聖ニ象リ重華帝ニ協ヘリト今ヤ

英丰ヲ仰瞻シテ愈聞ク攸ニ負カサルヲ知ル伏テ惟フニ維新ノ



皇謨ニ基キ

皇威ヲ八紘ニ輝カシ文化ヲ宇内ニ布キ玉フハ維レ洵ニ

陛下宵旰ノ致ス攸然リ而メ能ク其

聖意ヲ紹述シ國運ヲシテ益隆盛ナラシメ鴻業ヲ恢弘シ玉フハ維レ

洵ニ臣等カ異日

陛下ト仰ク攸ノ

殿下ニ在リ

殿下豈固ヨリ須臾モ之ヲ忘レ錫フコアラシヤ抑モ

殿下ノ此行ニ於ケルヤ伏テ

台意ノ在ル攸ヲ忖度スルニ躬親ラ内外ノ風教ヲ觀テ四目ヲ明ニシ四聰ヲ達シ錫

フノ盛意ニ外ナラス竊カニ惟フ

殿下乾々疆メテ息ミ玉フコナクンハ

祖宗ノ神靈常ニ

殿下ノ傍ニ在リテ

殿下ノ聖德ヲ翊ケ玉ハント 臣等曠古罕觀ノ盛儀ヲ拜シテ无疆ノ光榮ヲ感シ一意

奉公ノ誠ヲ竭シテ國恩ノ涓埃ニ酬ンコトヲ期ス今ヤ金商已ニ深シ伏テ

玉質ノ健剛ヲ祈ル 臣榮之進 誠惶誠恐謹ミテ白ス

明治四十年十月廿七日

鹿兒島縣會議長 奥田榮之進

殿下快ク御受納アリシ後直チニ各事務官以下各高等官島司郡市長縣會議長副議  
長ニ單獨拜謁ヲ賜ハリ次テ御寫眞ノ御下賜アリ又知事ニ對シ縣治上ニ付種々ノ  
御下問アリ知事一々奉答ヲ爲ス臆テ午前十一時廿分ノ頃御退出立關前マデ玉步  
ヲ運バセ玉ヒ立處ヨリ御乗車一同ノ奉送ヲ受ケサセラレ第七高等學校造士館へ  
向ハセラル

第七高等學校造士館御成

國道ヲ北ニ師範學校ト女子高等小學校トノ間御通過第七高等學校ニ臨御橋外ニ  
生徒一同門外ニ岩崎館長鮫島大將吉田中將阪元少將門内ニ職員一同ノ奉迎ヲ受  
ケサセラレ立關前ニ御着御館長ノ先導ニテ直チニ便殿ニ入御御休憩アラセラレ  
全校ヨリ捧呈セル造士館沿革概略壹冊及ビ校ノ寫眞帖御受納畢テ全校教授一同



及ビ獨逸語女教師「ビユットナー」嬢ニ拜謁ヲ賜ヒ次テ館長ノ先導ニテ供奉員ヲ從ヘサセラレ實驗室ニテ、シンギング、フレイム（歌フ電氣）ヲ暗室ニテ、クルツクス管（エツキス光線ヲ含ム）三個及ビ「ガイスレル」管三個ノ實驗ヲ台覽アリ館長詳細ニ御説明申上ゲシニシンギングフレイムハ始メテ見タリ、エツキス光線ハ二度目ナリト仰セラレ生徒ノ體格學業ノ成績等ニ就キ御下問アリ後西方ノ運動場ニテ全校全生徒ノ中隊教練台覽此時一段御機嫌麗ハシク村木武官長ヲ顧ミサセ玉ヒ何事カ御物語アリ斯クテ過クル明治五年ニ於ケル 陛下行幸ノ交行在所タリシ御跡御覽アラセラレ種々ノ御下問アリ再ビ便殿ニ入御御晝餐ノ後御寫眞ヲ全館ニ下シ賜ハリ袴地壹反ヲ館長ニ酒肴料若干ヲ職員一同ニ御下賜アラセラレ午後一時還御ニ際シ玄關ノ左側ニ御手ヅテラ月桂樹御栽アラセラレツグク、歛ノ形ヲ觀ソナハセラレ面白キ形ナリト微笑ヲ漏ラシ玉ヒヌスクテ御手植ノ事終レバ職員一同ノ奉送ヲ受ケサセラレ還御アラセラレタリ

物産陳列所御成

造士館ヲ出デ玉ヒ館ノ馬場ヲ西へ南泉院通馬場本門ヨリ物産陳列場ニ着御アラ

セラル時ニ午後一時ヲ過グルコト廿分門外左右ニ整列セル全場員ノ奉迎ヲ受ケサセラレ本館入口ニテ御下車場長前野技師ノ先導ニテ便殿ニ入ラセラレ少時御休憩階上陳列ノ薩摩燒大島紬授産場緋等臺覽夫レヨリ階下ニ降りサセ玉ヒ美術品陳列ノ中ヲ玉步緩カニ運バセ玉ヒ前野場長ノ説明ヲ聞カセラレ種々ノ御下問アリ（此處ニテ種々ノ御買上品アリ）夫ヨリ第二號館ニ入ラセラレ幾多ノ陳列品ニ就キ最モ細密ニ御注意ヲ拂ハセラレ二尺廻許ノ孟宗竹ニ御目ヲ留メサセラレ縣下ニ多ク産スルヤ將來ノ繁殖ハ如何ナド御下問アリ場長ハ竹ハ縣下ニ最モ能ク繁殖シ是等ノ作品等モ獎勵シ居レル旨ヲ奉答シタルニ左様カト領カセ玉ヒ本館ニテモ御買上品アリ夫レヨリ第三號館ノ前ヲ御徒歩ニテ開成館ニ入御樓上ノ陳列所ニ島津家及ビ縣下ノ舊家富豪等ヨリ蒐集陳列シタル書畫古器物武器武器具ノ中豊臣秀吉ガ新納忠元ニ贈リタル道服壹着并ニ扇子大慈公ノ書畫重豪公島津氏廿五代今ヨリ約百五十年前ノ横文字薩摩琵琶其他古代ノ陶器等ニ就テハ何レモ御下問アリ就中第廿三號ノ薩摩琵琶ハ過クル明治十六年當市ノ人ニテ琵琶ノ名手田中國厚ト云ヘルガ東京ニ於テ天聽ノ榮ヲ賜ハリタル時用ヒシモノナル旨附



記シアリタレバ 殿下ニハ坐ロニ 御父陛下ノ御舊事ヲ憶バセ王ヒケン傍ラニ 添ヘアル御製ノ文字ニ御目ヲ留メサセラレ御手ヅカラ包紙ヲ披カセ玉ヲ四の緒 のことの調べも秋の夜の月の光りにすみまさりつゝトアリ 殿下ニハ水莖ノ痕 ニシバシ御目ヲ留メサセラレ末尾ニ小文字ヲ以テ孫七郎書トアリシカバ杉ガ手 ダナト微笑マセ玉ヒ斯クテ午後二時過全場御出門御旅館磯邸へ還御アラセラレ タリ

本市献上薩摩燒植木鉢栽植蘇鐵ノ年數御取調

本市ガ献上シテ恐多クモ日夕御愛翫ノ榮ヲ蒙リタル二鉢ノ蘇鐵ニ付本日午前東 宮職ヨリ其經過年數ヲ當市役所ニ照會アリ市役所ハ直チニ植木師中島利助ニ全 蘇鐵ノ年數鑑定ヲ命シタルニ正ニ二百年以上ヲ經過シタルモノナリト鑑定シタ ルニ依リ其旨東宮職ニ回答シタリ斯ル御取調アルヨリ察スレバ献上ノ蘇鐵ハ痛 ク御意ニ召サレタルモノナルベシ

艦隊へ物品寄贈

本市ハ本日午前吏員一名ヲ派シ目下碇泊中ノ供奉艦隊へ麥酒及ビ卷煙草ヲ寄贈

シタリ

一老媪至大ノ榮譽

殿下ガ御生誕前ヨリ中山邸ニ奉仕シタル本市生ノ町田品子ナルモノアリ本人ハ 殿下ガ御誕生後中山邸ニテ御養育申上ケ御年十八歳マデ侍ギ御幼時ハ御乳ヲモ 參ラセ殊ニ 殿下ノ御氣ニ召シタル老媪ナルガ今回 殿下當市行啓ニ付中山家 ヨリ特ニ全女ノ許へ 殿下ガ今斯ク御成長遊バサレタル御英姿ヲ拜シ奉リテハ 如何トノ注意アリシ爲一昨日來其手續中ナリシガ本日 殿下還啓ノ際全女ガ途 中ニ奉迎ナシ居タルニ 殿下ニハ敏クモ御目ヲ付ケラレ内舍人ヲ召サレ品ハ此 處ニ居ルカト仰セラレ御機嫌最モ麗ハシカリシトゾ草莽ノ一老媪ニシテ斯ル面 目ヲ施シタルサヘアルニ 殿下ニハ又特別ノ思召ヲ以テ本日全女へ金一封ヲ下 シ賜ハル全女ハ 殿下御仁慈ノ程ニ感泣シタリ

栗野踊臺覽

午後二時三十分御還啓約三十分間御休憩三時ヨリ村木武官長岩倉公爵東郷大將 錦小路主事樺山伯千頭知事等ヲ從ヘサセラレ望嶽樓へ御成栗野踊臺覽アラセラ



ル踊手一隊二百餘名ハ單縦列ヲ作りテ跪坐シ手引木瀬某ハ義弘公高麗御渡海御  
 首途ノ規ヲ朗誦シ終リテ演伎ニ入り一同若衆ノ待夜ノ油火ハノ研欲踊歌ヲ謠  
 ヒツツ踊リ最後ニ我ハヤヤ備前ノ鑄刀思ヒマハセバ研欲ヤ研欲ト謠フト全時ニ  
 秋水ヲ抜キ連レ刀ヲ磨ク形容ヲ爲ス其光景宛然白刃ノ林ノ如ク明晃々トシテ秋  
 陽ニ映シ壯觀ヲ極ム 殿下ニハ始終精細ニ臺覽アラセラレ極メテ御満足ニ渡ラ  
 セラレ樺山伯ニ種々ノ御下問アリ全伯謹ミテ由來ヲ言上シタルニ、コハ寔ニ珍ラ  
 シキモノナルニ依リ撮影セヨトノ御誕アリ三時三十分演了ス陪觀ノ榮ヲ得タル  
 供奉諸員ニ於テモ此踊ノ嚴肅ニシテ秩序アリシニハ感ゼシモノ、如シ

紀念樹御手植

殿下ニハ前記栗野踊御上覽後島津家ノ願ヲ容レサセラレ畏クモ二株ノ稚松ヲ望  
 嶽樓ノ東南面ニ御手植アリタリ 殿下御座所ノ紀念ハ千秋萬歲望嶽樓前ニ亭々  
 綠翠ヲ湛フベク磯邸ノ名譽モ亦千代八千代ト一段ノ榮ヲ添フベシ

後園ノ御閑歩

殿下ニハ前記御手植終ツテ望嶽樓左方ニ陳列セル島津家往古ノ戰利砲二門ヲ親

シク臺覽アラセラレ全大砲ノ由來等御下問アリ珍彦男ヨリ詳細ニ説明申上ケ後  
 本市在郷軍人團ノ献上ニ係ル走馬燈臺覽アラセラレ次テ後園ニ玉歩ヲ移サレ老  
 樹鬱蒼溪流潺湲タル幽邃ノ境ニ御閑歩數間ノ高所ヨリ落下スル小瀑布ノ名ナド  
 御下問アリ低徊顧望頻リニ風光ヲ賞セサセ玉ヒ此磯一帶ノ山ハ往時ニ於テハ約  
 五里ノ間總テ獵場タリシ事等種々ノ雜話ヲ聞召サレ頗ル御満足ノ様恐察セラレ  
 タリ

提灯行列

殿下ノ御旅情ヲ慰メ奉ランガ爲メ當市立商業學校及ビ各高等尋常小學三年生以  
 上生徒職員總數約三千三百名提灯行列ヲ行フ午後六時豫定ノ集合点地ナル造士  
 館前ノ大道路ニ勢揃ヲナシ全十分郷田田中等ノ掛委員及ビ兩新聞記者等參加シ  
 先頭ナル高等小學校生徒ノ喇叭隊行進曲ヲ吹奏シ各高等小學校各尋常小學校商  
 業學校之ニ次ギ全部ノ中央ニ奏樂隊唳々樂ヲ奏シ全生徒ハ一齊ニ全行列唱歌皇  
 子來玉ヲ鹿兒島ニテ高唱シテ徐々行進シ病院角ヨリ岩崎谷通リヲ新橋ニ出デ國  
 道ヲ停車場ノ邊ニ到レル頃殿部隊漸ク集合基点ヲ動キ初メタリ途上ノ觀者堵ノ



如シ漸次行進シテ風景樓ノ附近ニ至ルヤ海風俄ニ荒ミ來リテ燈火ヲ掠メ去リ幾多子弟ノ小サキ胸ヲ痛マシメシガ琉球人松ノ邊ヨリ風風ギ三千兒童ガ赤キ眞心コメシ無數ノ紅燈ハ一時ニ明光ヲ放チ行列唱歌ヲ高唱シツ、練リ行ク光景宛然百花繚乱ノ概アリ折カラ打揚グル煙火ハ空際ニ或ハ青ク或ハ赤ク可憐ノ唇ヨリ漏レ來ル唱歌ノ聲ハ磯ノ濱邊ニ打寄スル海波ノ音ニ和シテ眞ニ壯絶ヲ極メヌ斯クシテ此ノ一大行列ハ蠅蜒長蛇ノ如ク先頭部隊ハ既ニ綠門附近ニ達ス偶マ一縣吏員馳セ來リテ曰フ只今殿下提灯行列ノ歌ヲ召サルト嗚呼三千兒童ノ赤誠殿下ノ臺慮ニ副ヒシカ既ニシテ先頭部隊ハ望嶽樓前ニ當ル街道ニ整列シ一齊ニ皇太子殿下ノ萬歳ヲ合唱セントスルノ刹那恐レ多クモ殿下ニハ御座所ヨリ急ニ庭園ニ下リ更ニ石垣縁ニ御身ヲ現ハシ玉ヒ滿腔ノ誠心誠意ヲコメテ絶叫スル萬歳ノ聲ヲ咫尺ノ間ニ聞召シ微笑ヲ浮バサセラル夫レヨリ一行ハ全行列ヲ一部隊三百人宛ニ分チ順序正シク萬歳ヲ三唱シテ歸途ニ就キ海岸埋立地ニ集合シ錦江灣ヲ壓シテ碇泊セル十餘隻ノ供奉艦ニ向テ帝國海軍萬歳ヲ三唱シ午後九時三十分退散セリ

因ニ本夕提灯行列ニ唱ヘ忝クモ 殿下ノ御覽ヲ蒙リタル奉迎歌(日本海軍ノ歌ノ譜)ハ左ノ如シ

- (一) 皇子來玉ひぬ鹿兒島に 天津日嗣の御位を  
承け継ぎまささん日の御子の 我が鹿兒島よ來玉ひぬ
- (二) いつか知らさん日の本乃 國見しますと西東  
車に船にはるくくと 我が鹿兒島に來玉ひぬ
- (三) 錦江灣に風なきて 静けき波に朝日子の  
影をやどせる其景色 水も皇子をや迎ふらん
- (四) 櫻島山霧はれて みるぎし果てし益荒雄の  
ゑめるがごとき其ながめ 山も皇子をや迎ふらん
- (五) 磯山かけのをちこちに 秋を彩どる山紅葉  
面はゆげなるろの姿 鄙の手振や耻しき  
節くれ立ちし梢にも
- (六) 城山松の年を経て 風に千代をや奏づらん  
翠の色はいやまして



(七) 皇子の命よ見ろなとせ

薩山隅水草も木も

皇子のみ光仰ぎつゝ

迎へまつれるろの様を

(八) 仰げ諸人、日の御子を

萬世一系たぐひなき

み世を知らさん日の御子ぞ

仰げ諸人、日の御子を

行啓第三日 (十月廿八日)

本日ハ當市ガ赤誠ヲコメテ諸般ノ設備ヲ施シタル鶴嶺山上ニ御登臨ノ當日ナルヲ以テ市當局者ヲ始メ一般市民皆天候ヲ氣遣ヒシガ天明クレバ煙霧四山ヲ罩メ秋雨蕭々タリ然ルニ御出門時刻前後雨止ミ雲漸ク霧レ唯ダ櫻洲ノ半腹ニ織雲ノ横ハルヲ見ルノミ既ニシテ午前九時 殿下ニハ例ノ如ク御車寄ヨリ車ニ召サレ門内ニ整列セル各團體代表者有功章者六十餘名ノ奉拜ヲ受ケサセラレ御機嫌麗ハシク御出門アラセラレ沿道ノ奉迎奉拜者ガ熱心ニ捧グル最敬禮ヲ受ケサセラレツ、御豫定ノ御順路國道筋ヲ岩崎通へ右折シ縣立第一中學校へト玉車ヲ進メサセラル

第一中學校御成

午前九時廿五分着駕職員生徒及ビ先着ノ鮫島大將伊瀬知大久保吉田ノ各中將阪元野島ノ兩少將等ノ奉迎ヲ受ケサセラレ御下車アリ岡校長ノ先導ニテ御座所ニ入御少時御休憩ノ後岡校長山本安藤竹下ノ四教諭ニ拜謁ヲ賜ヒ終テ教授案學校狀況書ヲ捧呈シタルニ一々御熟覽アリ更ニ便殿ヲ出御校長ノ先導ニテ國語數學英語科ノ教室ヲ御順覽授業ノ模様ヲ仔細ニ御注視アラセラレタリ再ビ御座所ニ入御村木武官長ノ手ヲ經テ兩殿下ノ御眞影ヲ下シ賜ヒ午前九時五十分全校ヲ出御師範學校ニ向ヒ玉車ヲ進メラル

師範學校御成

殿下ニハ御豫定ノ如ク午前十時師範學校ニ成ラセラル千頭知事泥谷校長職員生徒ノ奉迎ヲ受ケサセラレ直ニ便殿ニ入御少時御休憩此時校長ハ謹ミテ學事狀況書ヲ捧呈ス 殿下ニハ校長及ビ木下有永飯牟禮ノ各教授ニ拜謁ヲ賜ヒ女子三年博物教授(生理ノ呼吸作用)及ビ男子四年生ノ數學教授(代數)ヲ臺覽アリ次テ教育品陳列所ニ入御特ニ綴リ物ニ御注目是レハ皆成績ノヨイノダロー子トノ御下問アラセラレ尙全校職員教生ノ手製ニ係ル模型圖ヲ御覽殊ニ私立鹿兒島盲啞學校



第五年生久保ツ子(十七年十一月)ノ作ナル押繪ニ御注目夫レヨリ中等教育部ノ陳列所ニ入御初メニ私立鶴嶺女學校職員製作ノ薩英砲戰ノ圖畫ヲ御覽アラセラレ次ニ師範學校本科三年生有村豊二ノ習字ヲ觀ソナハセラレ忝クモ是ハ此校ノ生徒ガ書イタノカト御下問アリ夫レヨリ全校運動會ノ畫ヲ暫時御覽次テ師範校博物館用ノ標本ナル身長五尺三寸体圍一尺五寸ノ鰻揖宿郡池田池ニテ獲タルモノヲ御覽知事之ヲ知テ居ルカ……………東郷ノ知テ居ルカト仰セラレケレバ東郷大將ハ此札デ分リマスト奉答シタルニイヤ實物ヲ見タカト仰セラレタリ次ニ高等女學校鶴嶺女學校生徒等ノ裁縫品御覽アリ是ハ皆女子ノ造ツタモノカト御下問アラセラレ又々女子興業學校縣下地方各實業學校生徒ノ成蹟陳列場へ臨御一覽夫レヨリ再ビ便殿ニ入御少時御休憩ノ後御乘車城山へ向ハセラレタレバ一全門内ニ恭シク奉送シタリ時正ニ午前十時三十分

附記 殿下ニハ便殿入口ニ備付ケアリシ長サ二尺周圍四尺位ナル冬瓜ニ一入御注目遊バサレ且ツ大島農學校出品ノ同校生ヲ囓ミ殺シタル海ハブニ就キ種々ノ御下問アラセラレ又泥谷校長ニ向ヒ當校ノ生徒ハドウアルカト御下問遊

バサレ柔順デ教育ガ仕易フゴザリマスト奉答セシニ學問ハ?ト御訊子アラセラレタレバ私ハ此頃參リマシテ能クハ解リマセスケレドモ數學ガ劣ツテイルト云フ評判デゴザリマスト奉答シタル處ソノダロー子ト仰セ玉ヒヌ又此時知事ハ數學ノ劣ツテイルノハ本校ニ限ツタコトデゴザイマセヌ縣下ヲ通シテ皆ソシナコトデゴザリマスト言上シタリ

城山御登臨

歷代ノ藩主ガ居ヲ山下ニ構ヘ百二都城ノ雄封ヲ提ゲテ三州史上ニ光彩ヲ遺セル處老楠古松蒼鬱又亭々鹿城六萬市民ガ滿腔ノ熱誠ヲコメテ樹ヲ斫リ土ヲ闢キ以テ我皇儲殿下ノ臺臨ヲ渴仰シ奉リタル城山御登臨ノ日ハ來リヌ仰ガバ櫻嶽亦曉來ノ密雲ヲ排シテ雨後ノ景致得モ云ハレズ俯シテ錦江ヲ望メバ洋々又洋々滿街ノ旭旗ハ平日ニ倍シテ一段ノ光ヲ放テルモノ、如ク風物清新瑞氣靈變氣象總テ春ニ似タリ連日奉迎事務ニ鞅掌シタル本市市長助役ヲ始メ市名譽職員市役所員聯合衛生組合員等豫定ノ時刻ニ城山上リ口綠門ノ左右ニ整列シテ恭シク臺臨ヲ待チ奉レバ時正ニ午前十時四十分輕輦トシテ玉車ノ軋リ漸ク近ク 殿下ニハ扈



從例ノ如ク文武各員ヲ從ヘサセラレ徐々緑門ニ入り玉フ上リ詰曲リ角ニテ御下車有川市長ノ御先導ニテ樺山伯鯨島東郷ノ二大將大久保伊瀨知吉田ノ三中將村木侍從武官長阪元少將其他ノ供奉員ヲ從ヘサセラレテ登山遊バサル白沙淨ラカニ掃除サレテ一片ノ落葉ヲモ止メズ第一急阪ノ處ニ到レバ供奉ノ面々後レ勝ナルヨリ先頭ニ立タセラレタル殿下ハ徽章ヲ含マセラレ一仝ヲ瞰下シ恐レ多クモ待タセ玉フ有様ニテ屈曲ノ處ニ暫シ御休息アラセラレ市街ヲ御眺メ遊バサレス只見ル照國神社前ノ廣場ニハ溢ル、計リノ群衆一齊ニ殿下ノ御壯姿ヲ仰ギ奉リツ、アリ御機嫌最ト麗ハシク左右ヲ顧ミ御笑ヲ漏サレツ、アリシガ第二急阪ノ上リ口ニ際シテハ供奉員ニ向ヒ足ノ弱キモノハ後ヨリ來テモイヨ……市長行進々々ト仰セ玉ヒ佩劍ヲ左手ニズン、進ミ玉フ見ルカラニ御勇壯ノ態ニテ御健脚ノ程恐レ入り奉ル計リナリ程ナク絶頂ニ達シテ便殿ニ入り設ケノ椅子ニ倚ラセ玉ヒ手巾ニテ御汗ヲ拭ハセラレツ、聽テ双眼鏡ヲ取ラセ玉ヒ近クハ錦江灣一帶ノ風光市街ノ全景唐湊武田上村ノ諸田圃ヨリ遠クハ薩南ニ連亘セル翠巒又タハ脚下ナル錦江灣ノ艤艫ヨリ淡煙斜ニ横ハリ小雨後ノ風光一段ノ趣致ヲ加

フル狀景仔細ニ御賞翫アラセラレ暫時御休憩ノ後樺山海軍大將伊瀨知陸軍中將大久保陸軍中將村木侍從武官長ヲ御前ニ召シ玉ヒ大久保陸軍中將ハ最敬禮ノ上起立シテ當歩兵四十五聯隊附將校ノ作製ニ係ル明治拾年役二回ノ攻撃地圖ヲ御前ノ机上ニ捧呈シテ城山攻撃戰ノ御披講ヲ申上ケ五月ノ戰況談ヨリ九月廿三日城山總攻撃ノ説明ニ移リ彼我對陣ノ狀ヨリ高島旅團當時少將高島鞆之助及ビ新選旅團ノ攻撃狀況山下町ノ米倉今ノ煙草製造所激戰ノ實況磯林大尉韓國ニテ暴殺セラレタル磯林眞三旗斫ノ逸事ナドヲモ言上ニ及バレ斯クテ大久保中將ノ進講終レバ樺山大將ニハ大久保中將ノ進講ヲ敷衍シテ且ツ私學校(今ノ病院)ノ石垣ニハ今尙當時ノ彈痕歷々ト残り居候ト言上セラレ又伊瀨知中將ニハ熊本ニテ彼我對陣ノ時ハ偵察ノ情報ニ依テ敵軍ノ實況ヲ審カニ致シ候ヒシモ薩摩ノ地ニ入りテ以來ハ容易ニ敵狀ヲ探リ得ズ土地ノ人々ニ金帛ヲ與ヘテモ敵軍ノ實況ヲ告クルモノナク敵狀ハ全ク不分明トナリ候ヒシト言上セラレ又タ拾年戰役ハ重モニ銃槍突擊ノ戰ニコレアリ候ト申上ケラレタルガ殿下ニハ御氣色麗ハシク三將軍ノ進講中ハ時々御机ノ地圖ニ御目ヲ留メサセ玉ヒタリキ時ニ正午ヲ過グル二十



分御晝餐ヲ召サセラレタリ御晝餐後東郷海軍大將千頭知事ヲ便殿内ニ召サセ玉ヒ英艦ノ鹿兒島灣攻撃戰ノ有様ヲ御尋アリ大將ニハ當時ノ鹿兒島英吉利戰爭圖ニ依リ陸上ノ砲壘位置等ニ就テ遂一當年ノ戰況ヲ言上ニ及バレタリ 殿下ニハ御氣色麗ハシク聞召サレシガ大將ノ進講終リ既ニ御豫定時間ヲ經過シタレバ村木侍從武官長ヨリ御還啓ヲ言上セルニ 殿下ニハ「今少シ待テ一時ニ立ツ」トノ御沙汰アリシバシ四邊ノ風光ヲ愛デ玉ヒ其時刻ニナリタレハ有川市長ヨリ願ヒ奉リシ樟樹ノ御手植ヲ許サセ玉ヒ市長ノ先導ニテ玉步ヲ豫定地ニ移サセラレ市長畏ミ奉リテ樟ヲ地ニ立テタレハ 殿下ニハ御手ヅカラ鍬ヲ取ラセ玉ヒテ根元ニ土ヲ覆ヒ手桶ノ水ヲ汲ミテ周圍ヘ灌ガセラレ玉フ此ニテ紀念樹ハ千秋萬歲見事ニ植付ケラレタリ斯クテ御登臨遊ハサレテヨリ二時間ヲ經過シ午後一時四十分ニハ御徒歩ニテ各供奉員ヲ從ヘサセラレ新開道ヲ岩崎谷ヘト向ハセラレ約一町半餘リ進ミ玉ヒシ時大久保中將ハ「彼處ニ見ヘ候上ノ原ノ測候所ノ地ハ拾年ノ役官軍此ニ砲壘ヲ築キテ今ノ大山元帥ノ指揮ニテ城山ヲ標的トシテ猛射シタル戰場ニ候」ト説明申上ゲラレタリ 殿下ニハ「ハシ御佇立ノ後再ビ玉步ヲ進メラレ

新開道ノ下リ坂ノ片脇ニ市ヨリ備ヘタル拾年役ノ大砲ノ彈片ニ御目ヲ留メサセラレ村木侍從武官長ニ向ヒ「紀念ノ爲持歸レ」トノ御下命アリ更ニ新照院口ノ小高キ壇上ニ御登リアリ大久保中將ノ戰況説明ニ依テ岩崎谷一帶ノ地理ヲ親シク御覽アラセラレ夫レヨリ距離三町ニ餘レル山中ノ新開道ヲ少シモ御疲勞ノ御模様ナク下リ玉ヒテ西郷南洲翁ノ棲居シタル洞窟ニ御立寄りアラセラレタリ御猶豫モアラセラレズ洞前ニテ大久保中將ノ説明ヲ聞召シメサレタル後恐多クモ直ニ洞内ニ入り玉ヒ親シク御覽アラセラレ當時ヲ御追想アラセラレシモノ、如ク拜シ奉リシニハ隨從諸員一全無限ノ感ニ打タレタリ南洲翁ニシテ靈アラバ地下ニ感泣スベシ更ニ洞中紀念碑御覽アリ某氏ヨリ全碑ハ大久保中將ノ筆蹟トリト言上セシニ 殿下ニハ中將ヲ顧ミテ御微笑ヲ湛ヘラレ數分ノ後還啓ヲ仰セ出サレ舊岩崎谷ノ搦手門ノ處マデ御徒歩遊バサレ茲ニテ御車ヲ召サレ南洲翁終焉碑數步前ニテ車行ヲ緩メ又大久保中將ノ説明ヲ聞召シ碑面ヲミツナハセ玉ヒタリ此時某氏ヨリ全終焉碑ハ數步位置ヲ誤リシ説明ヲ申上ゲ夫レヨリ玉車ヲ進メラレ岩崎谷入口ニ整列セル本朝御登山口ニ奉迎シタル諸員ノ奉送ヲ受ケサセラレ御



機嫌殊ノ外麗ハシク御還啓アラセラレタリ

御使御派遣

黒水侍從武官ハ臺命ヲ帶ビ東宮武官附岩田海軍屬ヲ隨ヘ肝付本縣學務課長ノ先導ニテ午前九時廿分第二中學校ニ臨マル生徒一同ハ門前ニ職員ハ門内ニ奉迎シ坂牧校長ノ案内ニテ豫テ設備セル全校階上ナル設ケノ席ニ就カレ「委シク視テ來ヨ」トノ臺命アリシ旨ヲ告ゲラレ夫レヨリ授業ノ模様ヲ悉皆參觀セラレ後校庭ニテ五年生ノ體操運動ヲ觀覽ニ供シ再ビ設ケノ席ニテ成績表等一覽アリ次ニ生徒取締向其他喇叭吹奏ノ事全校教授方針等ヲ問ハレ終リニ臨ミ創業日猶ホ淺キニ拘ハラス整理宜キ旨ノ挨拶アリ全十時三十分退出夫レヨリ全侍從武官ハ車ヲ武ノ橋ノ授産社ヘ進メラレ十時四十分着車門前ニ一樣ノ服裝シテ整列奉迎セル工女ノ敬禮ヲ受ケラレ次テ全社員及ビ先着ノ山本本市助役等庭前ニ出迎、先ヅ事務室ニ入ラレ池田社長ニ臺命ノ趣ヲ傳ヘラレ創立及ビ現状ヨリ職員姓名職工男女ノ數就業時間賃販路等ニ付詳細ノ下問アリ之ニ對シ社長ヨリ一々奉答シ最近收支計算表及ビ定款ヲ呈シ黒水武官ハ第一工場ヨリ機械紡織工場其他寄宿舎

殘ル隈ナク巡察セラレ了ツテ新築ノ應接室ニ入ラレ茶菓ヲ呈シ尙種々ノ談話アリ殊ニ寄宿舎等ノ構造ニ就テ頗ル稱賛セラレ一切ノ事委細言上スベシト告ゲテ退出セラレ社員其他前ノ如ク整列奉送シタリ夫レヨリ全侍從武官ハ車ヲ市立商業學校ニ進メラレ午前十一時肝付縣學務課長先導ニテ隨員一名及ビ山本本市助役隨從臨校セラル生徒一全ハ門前兩側ニ整列シテ迎ヘ田中市視學小宅校長代理職員一全ハ玄關ニ奉迎シ着車アルヤ小宅校長代理ノ先導ニテ設ノ扣所ニ案内ス全侍從武官ハ「本日ハ當校ヲ視察セヨト」ノ臺命アリシト傳ヘラレ小宅校長代理謹ミテ「吾々職員生徒一同ノ光榮ニシテ御深厚ナル思召ニ感激ス」ト奉答シ夫レヨリ全校學事統計表ヲ觀覽ニ供シタルニ種々ノ下問アリ小宅校長代理一々説明シ尙保險部ノ實習販賣部ノ現況ヲ述べ次テ全校長代理ノ案内ニテ商品陳列所實踐所ノ巡覽アリ次ニ櫻井教諭ノ英語會話田代教諭ノ英文簿記藤原教諭ノ商業美術等ノ實地教授ヲ親ク觀覽アリ後數組ノ擊劍ヲ供覽シ再ビ扣所ニ於テ衛生狀態精神教育等ニ關シ詳細陳述セシニ全侍從武官ハ「見聞ノ詳細ヲ上奏スヘシ職員生徒ヘモ宜シク」トノ挨拶ヲ遺サレ正午十二時退出セラル奉送ノ儀奉迎ノ際ト全シ



短艇競漕ヲ台覽ニ供ス

本縣廳ニハ兼テ御旅情ヲ慰メ奉ランガ爲メ端艇競漕會ノ企アリ愈本日ヲ以テ第一中學校第二中學校加治木中學校師範學校ノ四縣立學校ニ第七高等學校造士館及ビ市立商業學校之ニ參加シ岩崎造士館長ヲ會長トシ白濱海軍少佐(實右)ヲ審判長トシ六校合同ノ端艇競漕會ヲ磯天神社畔ノ海上ニ行フ陸上ニハ白沙雪ヲ欺ク海濱ニ十餘ノ天幕ヲ張り縱横ニ交叉セル萬國旗ハ高ク翠風ニ翻リ海上ニハ無數ノ端艇小舸水面ヲ蔽ハン計リナリ懸テ豫定ノ時刻午後一時三十分競漕ヲ開始シタルガ午後二時ノ頃 殿下ニハ鹵簿肅々磯街道ヲ御歸館アラセラル陸上ノ各校職員生徒ハ天神下ヨリ風景樓附近ニ至ル道路ニ順次整列シテ恭シク奉迎ス 殿下ハ例ノ如ク舉手ノ御答禮ヲ賜ヒ車上徐ニ海陸設備ノ模様ヲ臺覽アラセラレツ、御旅館ニ入ラセ玉ヒヌ夫レヨリ競漕ハ回数ノ進ムニ從ヒ勇壯ヲ極メ六校ノ健兒ガ今日ヲ晴レト力漕勝ヲ爭フ光景目覺シク陸上ヨリ起ル應援ノ聲山海ニ響キ渡リケレバ殿下ニハ時々海上ヲ御注視御興ヲ催サセ玉ヘリ會場ニハ別ニ自轉車隊ヲ設ケ一勝負毎ニ御旅館ニ馳セ附ケ侍臣ヲ經テ一々其結果ヲ台聞ニ達シタル

ガ回数總テ八回炊烟斜ニ對岸ノ漁村ニ起リ暮鴉天神社頭ニ喧シキ午後五時過端艇競漕會ハ茲ニ無事結了ヲ告ゲ會員一全 殿下ノ萬歲ヲ三唱シテ解散シタリ

武術及ビ武者行列臺覽

城山ヨリ御歸館アラセラレタル後午後三時ヨリ東郷大將岩倉公爵村木武官長以下文武官ヲ隨ヘサセラレ邸前望嶽樓ニテ武術ト武者行列臺覽アリ先ヅ第一ニ薩州武道ノ祖トモ云フベキ東郷家示現流夫レヨリ藥丸家示現流天真流更ニ擊劍仕合畢ツテ武者行列臺覽東郷家示現流加藤家天真流ハ舊藩主ノ御流儀ト申シテ下方限ハ概テ示現流ニテ上方限ハ概テ天真流ナリ上下方限ト申スハ舊藩主居城ノ東北ヲ上方限トシテ西南ヲ以テ下方限ト申ス旨及擊劍ノ主義等ノ概略樺山伯ヨリ奏上セシニ種々ノ御質問アラセラレ武者行列ニ就テモ全様御質問アラセラレ何レモ 殿下ノ御意ニ副フ殊ニ武者行列ハ宮内省御用ノ寫真師ニ撮影ノ御下命アリタリ

琵琶歌天吹等ヲ臺聞ニ達ス

本夕午後七時ヨリ御座所御次ノ間ニテ琵琶演奏ヲ臺聞ニ達ス兒玉利純ノ吉野落



チ「肝付兼寛ノ彈奏貴島亥三ノ歌」武徳殿肝付ノ彈奏中村源右衛門ノ彈唱ニテ 殿  
下ニハ興ニ入ラセ玉ヒ奈良原ヤラヌカト御沙汰アリタレバ全男ハ面目ヲ施シ自  
作ノ琵琶歌（沖繩縣ノ狀況ヲ作歌セルモノ）ヲ獨唱シ更ニ小敦盛一段ヲ半途マデ獨  
唱セリ次ニ野村某天吹柴笛ヲ吹奏シ 殿下ニハ御機嫌麗ハシク聞召サレ例ノ如  
ク種々ノ御質問アリ後酒肴料若干御下賜アリタリ

行啓第四日（十月廿九日）

弓術棒踊ノ台覽

午前九時 殿下ニハ村木武官長東郷大將其他數名ノ供奉員ヲ隨ヘテ望嶽樓へ成  
ラセラレ弓術及ビ棒踊御上覽アリシガ棒踊ハ殊ニ御意ニ召サレ陪觀ノ樺山伯ニ  
對シ種々ノ御質問アリ全伯ヨリ棒踊ハ勇壯活潑デゴザリマシヨウト申上ケシニ  
「ソレハ薩摩人デアルカラト御沙汰アリ又此踊ヲ東京ニ出シテ吳レヌカト仰セア  
リ」夫レハ行カヌトモアリマスマイ此以前ハ棒踊一組程東京ニ於テ演技致シタ  
モアリ故西郷侯邸ニ 陛下行幸ノ際ハ全邸ニ於テ天覽アリシトモゴザイマンタ  
夫レハ知事ニ申シテ置キマシヨウト言上サレタリ

前記台覽終レバ 殿下ニハ例ノ如ク御車寄ニテ御乗車午前十時御出門本日ハ御  
乘艦ノ日ナレバ島津家一門ノ人々及ビ邸員等正門内ニ整列奉送シ龜山警視ノ先  
驅其他供奉例ノ如ク鹵簿肅々御乘艦當日ノ事トテ沿道ノ拜送者前日來ニ比シ一  
層多キヲ加ヘ密比堵ヲナス 殿下ニハ此等奉拜者ノ敬禮ニ對シ御會釋アラセラ  
レツ、千石街ヲ國道筋ニ折レ伊敷練兵場ナル中學部六校小學部（市内及ビ）十二  
校ノ聯合運動會場へ臺臨是日細雨ノ霏々タルニモ拘ハラズ 殿下ハ車上ニテ幌  
ヲモ覆ヒ玉ハズ僅ニ外套ノミヲ召サレ沿道ノ敬禮ヲ受ケサセラル衆皆御仁慈ノ  
深キニ感泣ス

聯合運動會臺覽

聯合運動會場ナル伊敷練兵場ニテハ五千九百餘ノ男女小學生徒ト壹千四百餘ノ  
中學部男女生徒ガ各職員統率ノ下ニ既定ノ配列ニ就キ肅然水ヲ打チタルガ如ク  
鶴駕ノ到ルヲ待チ奉レハ午前十一時ノ頃前驅後列儀容堂々練兵場へ成ラセラル  
氣ヲ付ケノ號令ニテ一全恭シク奉迎シ續ヒテ「君ガ代」ノ唱歌七千三百有餘ノ生徒  
ニ依テ合唱セラレ夫レヨリ兵式體操旗體操ヲ臺覽ニ供シ奉ル規律ノ整然タル動



作ノ活潑ナル頗ル壯觀ヲ極ム此間 殿下ニハ絶ヘズ武官長知事等ニ向ハセラレ  
テ御物語アラセラレ御機嫌ノ麗ハシキヲ拜シ奉ル應テ運動終リヲ告ゲ馬匹上覽  
所へ向ハセラル

馬匹御臺覽

前記ノ運動會終レバ便殿御出御白沙ヲ敷ヒテ清ク掃除セラレタル一條ノ道路上  
ニ玉歩ヲ移サレ縣下各郡市ヨリ出セル馬匹繫留所へ成ラセラル鶴岡縣技師及ビ  
神田縣産馬聯合會幹事ハ場ノ入口ニテ奉迎シ場ノ左側遙カナル處ニハ郡市産馬  
當局者及ビ畜主等靜肅ニ扣ヘタリ 殿下ニハ右方一番目ノ馬ヨリ順次御点檢特  
ニ御目ニ止マリシ馬匹ニ對シテハ馬首近クマデ進マセラレ鬣ノ上ヨリ蹄ノ先マ  
デ精細ニ御点檢アラセラレ其間馬ノ種類何回雜種等ニ就キ御下問アリ鶴岡技師  
詳細ニ奉答ヲナセリ特ニ揖宿郡指宿村秋元熊一所有ナル當才仔馬サラブレット  
四回雜種栗毛流星後二白隼號ニ一入玉眼ヲ注ガセラレ愛ラシキ馬デアルト御歎  
賞ヲ下シ玉ヒタリ應テ午前十一時四十分場ノ入口ヨリ御車ニ召サレ練兵場内ノ  
假道ヲ玉里邸へ入御アラセラレタリ

玉里邸御成

島津忠濟公別邸ニハ親戚島津珍彦男ヲ始メ樺山伯鯨島海軍大將阪元野嶋兩陸軍  
少將兒玉海軍少將奈良原男爵其他家令全邸員等門内ニ奉迎ス 殿下ハ中門ヲ御  
通過假御車寄ニ御下車アリ平岡家令ノ奉迎ニテ御機嫌最ト麗ハシク豫テ御座所  
ト定メアリシ故久光公ノ居室ニ成ラセラレシガ去ル廿六日御入麿以來朝夕海上  
ノ風光ノミヲ賞シ玉ヒシトナレハ綠翠滴ラントスル四顧ノ山々遠キハ南方ニ翠  
巒雲ヲ拂ツテ立テル烏帽子嶽近キハ鶴尾山々勢ノ窮マル處宇治瀨神社一帶ノ小  
丘陵サテハ前方一面ニ展開セル新道練兵場ノ景致微雨中一段ノ雅趣ヲ添ヘタル  
ナド磯御旅館ヨリ打眺メタル景色トハ自ツカラ趣ヲ異ニスル所アレハ 殿下ニ  
ハ風景ガ良イトテ賞シ玉ヒツ、御晝餐ヲ召サセラレ後奈良原男ノ捧呈シタル沖  
繩縣治一斑ヲ受ケサセラレ夫レヨリ御發車ニ際シテ全邸ノ願ヲ容レ玉ヒテ中門  
内ニ稚松二株ヲ御手植遊バサレ奈良原男ニ向ハセラレ奈良原モ一暫ク居ルカト  
ノ仰セアリ男ハ畏ミテ四五日滞在ノ積デゴザリマスト御答へ申上タルニ更ニ隨  
分大切ニセヨトノ難有御言葉ヲ下シ玉ヒシカバ男ハ此優渥ナル恩旨ニ感泣シ措



ク所ヲ知ラザリシ續テ御出門アラセラレ高等女學校へ向ハセラル御途中降雨トナリタルモ後間モナク歇ム

高等女學校御成

午後一時五分島津邸ヲ出御アラセラレ先驅扈從例ノ如ク玉車徐々トシテ一時廿五分高等女學校へ臺臨アラセラル門外ニテハ生徒一全ノ最敬禮ヲ門内ニテハ職員ノ奉迎ヲ受ケサセラレ玄關口ニテ外套ノ卸ヲ御手ヅカラ外シ玉ヒテ御下車アラセラルレハ澁谷校長ハ鞠躬如トシテ玉車ニ近ツキ御先導申上ケ 殿下ハ供奉員一全ヲ隨ヘサセラレ便殿ニ入御アリ其間君ガ代ノ奏樂嚙トシテ起ル 殿下ハ少時御休憩ノ後千頭知事ヲ經テ捧呈セル全校學事狀況書ヲ受納アラセラレ更ニ全校半面圖次第書教案拜謁者氏名等ヲ臺覽アラセラレ夫レヨリ校長及ビ屋代教頭ニ拜謁ヲ賜ヒ校長ノ先導ニテ便殿ヲ出御アリ理科及ビ修身教授御覽ノ上再ビ便殿ニ入御アラセラレ姑クシテ四年級全生徒ノ啞鈴體操遊戲鈴割御臺覽アリテ御機嫌斜ナラズ校長ニ向ハセラレ彼レハ何ト云フ遊戲カトノ御下問アリ續テダンス不如歸ノ演伎御覽非常ニ御意ニ叶ヒ全様ノ御下問アリ廳テ兩殿下ノ御寫

眞ヲ下賜アラセラレ御少憩ノ後校長ノ先導ニテ校庭ニ玉歩ヲ移サレ校門ノ正面ナル築山ニ松ヲ御手植アラセラレタリ既ニシテ還御仰セ出サル此時細雨降りシキリケレバ内舍人ヨリ御召ノ外套ヲ奉リタルニモ一外套ハ入ラヌヨト仰セラレ御機嫌麗ハシク職員生徒ノ奉送ニ對シ舉手答禮ヲ賜ヒ海岸へ向ハセラル

御 出 發

殿下ニハ高等女學校ヲ出御遊バサレ先驅扈從前ノ如ク車聲輾轉海岸ナル第一棧橋入口ニ御着御下車アラセラル是ヨリ先キ有馬第一艦隊司令長官各參謀各驅逐隊司令官各艦長等此處ニテ鶴駕ヲ待チ奉リケルガ御着御アルヤ一全奉迎敬虔ノ意ヲ表シ奉レバ 殿下ハ御會釋アラセラレツ、御歩ミ緩カニ艦載水雷艇ニ御乗込マセ玉フ村木武官長東郷大將陪乘ス既ニシテ全處ニ奉送セル樺山伯鯨島大將大久保吉田伊瀨知ノ各中將千頭知事其他ノ各文武官ニ御會釋ヲ賜ハリ一隻ノ艦載水雷艇七隻ノランテ供奉ノ下ニ御召艇ハ波ヲ蹴テ港外へト進ミヌ數萬ノ臣民ハ御着艦當時ノ如ク海岸一帶ニ堵ヲ築キ名殘惜シゲニ遠ク此邊土ニ鶴駕ヲ枉ゲサセラレ百廿餘萬縣市民ニ無上ノ惠澤ヲ垂レサセ玉ヒシ聰明英武ナル我皇儲殿



下ヲ沖合遙ニ見送り奉リタリ

櫻島御渡航

御召艇ハ對島艦ト驅逐艦白雲トノ間ヲ縫フテ進航シ艦ヲ殿下ハ櫻島ニ御上陸アラセラレ四邊ノ風光ヲ御賞覽遊バサレ午後五時御召艦香取ニ御歸艦アラセラレタリ

市及ビ市長以下へ御下賜品

殿下ニハ本縣行啓中市ノ奉迎送ノ勞ヲ思召サレ金五百圓ヲ本市へ御下賜アラセラレ全時ニ有川市長へ仙臺平袴地一反白斜子一反助役以下行啓事務關係ノ吏員一全へ金五拾圓ヲ下賜アラセラレタリ

島津邸及ビ樺山伯等へ御下賜品

前項御下賜品ノ外 殿下ニハ又公爵島津忠重邸へ銀製花瓶一對紅白縮緬各一匹公爵島津忠濟邸へ銀製卷蓑入(金ノ御紋章入)一個紅白縮緬各一匹樺山伯島津珍彦男へ各銀製卷蓑入(金ノ御紋章入)一個白縮緬一匹伊瀬知中將大久保中將千頭知事三宅事務官橋本事務官鮫島事務官補へ夫々御下賜品アリ外ニ兩島津邸家令及ビ

邸員一同へモ夫々御下賜品アラセラレタリ

御召艦上御陪食ヲ賜フ

殿下ニハ御歸艦後樺山伯島津珍彦男鮫島大將伊瀬知中將千頭知事ヲ御召艦ニ招ガセラレ岩倉公爵東郷大將有馬司令長官其外司令官各艦長侍從武官等ト共ニ午後七時御陪食ヲ賜ハリ極メテ御機嫌麗ハシク御談笑遊バサレ尙本縣ノ事情御下問アリ當市ノ風光ヲ御賞讚遊バサレ伊瀬知中將亦氣候ノ穩和ナルトヨリ遊獵ニ適スル事トモ言上ニ及ビシニ 殿下ハ薩摩方言ニテソウアツカト御戲言遊バサレ後他日再ビ薩摩ニクルカラトノ難有御言葉ヲ漏ラシ玉ヒ更ニ何ツ時分ガ良イカトノ御下問アリタレバ樺山伯難有畏ミテ冬ガ宜シクゴザイマスト奉答シ尙御旅館タリシ島津邸ノ泉水ニ金魚三尾ヲ放テ置イタカラトノ御仰アリタリ此事ハ何人モ知ル者ナク此仰ニテ一全驚キ樺山伯ヨリ左様デゴザリマシタカ夫レハ島津邸ノ光榮デゴザリマス充分ノ注意ヲ加ヘマシテ再ビ行啓ノ折マデニハ繁殖セシメマスト言上シ其他種々ノ御物語アラセラル斯克テ一全御暇ヲ乞ヒ退出セリ因ニ右金魚ハ長崎ニテ御買上アラセラレタル目高ノ奇種ナリト云フ



御發艦當日 (十月三十日)

御發艦

殿下ニハ御豫定ノ如ク愈本日午前六時ヲ以テ御發艦アラセラル御召艦香取ハ旗艦鹿島ヲ先頭ニ出雲磐手常盤淺間之ニ次ギ對馬之ニ殿シ第二第八第六第十三ノ四驅逐艦隊ハ殿艦對馬ノ後方ニ尾シ列序整々威容堂々眞ニ絶大ノ偉觀タリ仰ケハ一痕ノ殘月ハ餘光ヲ帶ビテ高ク中天ニ懸リ櫻峰ノ絶巔淡ク曙光ヲ漏ラシ錦灣ニ沿ヘル薩隅ノ翠黛モ亦山容ヲ正シテ今日ノ名殘ヲ惜ミ奉ルモノニ似タリ沿岸ニハ各學校生徒ヲ始メ幾多ノ士民蟻集シテ堵ヲナシ御召艦香取ノ進航ヲ始ムルヤ聲ヲ限リニ皇太子殿下ノ萬歲ヲ絶叫シテ恭シク奉送ノ意ヲ表シ奉リ艦影煙波縹緲ノ裏ニ没シ去ルモ奉送ノ群集容易ニ散セザリキ

海上ノ奉送

千頭知事以下縣高等官岩元柚木ノ両代議士與田縣會議長鮫島全副議長各縣會議員有川市長山本市助役折田農銀頭取宮里商業會議所會頭義岡日高與鄉田藤安河野ノ各市參事會員中山甲斐田ノ兩郡長等ハ東宮殿下奉送ノ爲午前五時棧橋ヨ

リ小蒸汽船龍丸に搭乘シ櫻島附近沖合ニ進航シ茲ニ御召艦香取ノ御通過ヲ待受ケ居タルガ艦ヲ御召艦ガ旗艦鹿島ノ御先導ニテ進航シ來リタレハ知事以下搭乘員ハ一仝舷側ニ整列シテ御召艦へ最敬禮ヲナシ尙ホ殿下ノ萬歲ヲ連唱奉送シタリ

祝電ノ奉送一大祝宴開催

有川市長ノ發起ニテ殿下無事御發艦ノ跡祝トシテ本夕一大祝宴ヲ南廓九州第一樓上ニ開ク通知ヲ受ケタル者壹名ノ缺席者ナク會スル者喜色アラザルハナシ樺山伯ノ發議ニテ油津港頭御假泊ノ殿下ニ左ノ祝電ヲ奉送シ仝伯ノ音頭ニテ天皇陛下皇太子殿下ノ萬歲ヲ三唱シ終テ宴ニ移ル歡聲堂ニ湧キ夜十時頃散ス當市有志者本夕一大宴會ヲ開キ今朝ノ御發艦ヲ祝シ併セテ御安着ヲ祝シ奉ル



外交

一 露國皇太子ニコラス親王殿下ノ御來遊

維時明治二十四年五月六日露國皇太子ニコラス親王殿下遠ク鶴駕ヲ我鹿城ノ地ニ枉ケサセラルル眇タル西海ノ一小市而カモ殿下未ダ我帝都ヲ訪ハセラレサルノ前ニ於テ此空前ノ光譽ヲ荷フ本市ノ榮ヤ大ナリト云フ可シ以下當時ノ事蹟ヲ掲グ

明治二十四年三月十四日 鹿兒島縣知事山内堤雲本市長ニ左ノ訓達ヲ發ス

達官第一九六號

來ル五月露國皇太子御來鹿ニ付別紙寫ノ通宮内大臣ヨリ被相達候間爲心得此段相達候也

明治二十四年三月十四日

鹿兒島市長上村行微殿

鹿兒島縣知事 山内堤雲

別紙

宮内省 外事課 往第二九號

露國皇太子ニコラス親王殿下同國ジヨ一シ親王殿下及悉臘國ジヨ一シ親王殿下御一行來ル五月一日ヲ期シ長崎御來着伊萬里有田邊御遊覽ノ後同五六日頃海路其縣下鹿

兒島へ御渡航可相成答ニ付委細ノ事ハ三宅外事課長ヨリ照會ニ及尙御遊覽前派出致候接伴員へ打合諸事不都合無之様可取計此段相達候也

明治二十四年三月九日

鹿兒島縣知事山内堤雲殿

宮内大臣子爵 土方久元

明治廿四年四月七日 鹿兒島縣知事山内堤雲ハ管下郡市町村長ニ對シ露國皇太子殿下來鹿ノ際ニ於ケル一般注意事項ヲ左ノ如ク告諭セリ

注意概要

- 一、御道筋ハ勿論御見通ノ場所ニ於テハ干物ヲ爲シ又ハ汚穢ノ物品等ヲ出ス可カラサル事
- 一、御道筋路傍ニ於テハ菓子店等ヲ張出シ其他障礙物等ヲ出シ置ク可カラサル事
- 一、御道筋ノ際ハ御道筋ニ牛馬車ヲ引入可カラサル事
- 一、御道筋住居ノ者ニ在テハ屋内見苦シカラサル様注意スル事
- 一、御道筋ノ際道路ヲ横切ル可カラサル事
- 一、御道筋ノ際御道筋ニ沿フタル高所又ハ樹木等ニ登ルベカラサル事
- 一、拜觀人ハ頼冠鉢巻等見苦シキ容体ヲ爲スベカラサル事
- 一、拜觀人ハ屋内ヨリ坐拜スルハ差支ヘスト雖モ屋内又ハ二階ヨリ拜スベカラサル事
- 一、拜觀人ハ御道筋ノ際晴雨ニ拘ハラズ傘ヲサシ又ハ冠帽スヘカラサル事
- 一、拜觀人ハ路上ニ在テハ立禮ノ事
- 一、御休泊所近傍ニ於テ猥リニ並歌高聲等ヲ爲ス可カラザル事
- 一、御隨行員物品購入又ハ乗車等ノ節不當ノ金錢ヲ貪ル可カラサル事

鹿兒島市史

外交

一 露國皇太子ニコラス親王殿下ノ御來遊



明治二十四年四月 露國皇太子殿下御接待順序並ニ御送迎及供奉心得左ノ如ク  
其筋ニ於テ定メラル

露國皇太子殿下御接待順序

- 第一 御着艦ノ上本艦ヨリ御上リノ際ヲ見計ヒ石燈籠通リ波止場又ハ船中ニ於テ御着艦ヲ祝スル爲メ烟火貳拾壹發ヲ打揚クル事
- 第二 御乘艦投錨スレハ知事ハ直ニ御乘艦ニ到リ御着港ヲ祝シ島津公爵其他ハ御上陸場ニ奉迎ノ事
- 第三 御上陸ハ石燈籠通リ波止場内棧橋ヨリ綠門御通行ノ事  
棧橋ハ波止場内ニ上荷船ヲ以テ仮設シ御上陸場ニハ鳥居形ノ綠門ヲ設ケ兩國ノ國旗ヲ交叉シ且露國文字ヲ以テ歡迎ヲ記シ又日露希三國ノ旗章ヲ記シタル提燈ヲ吊ス事(左日本右露國)
- 第四 御上陸ノ上ハ直ニ人力車ニ奉乘シ縣廳知事官房ニ御誘引御小休ノ事  
此時茶菓並烟草ヲ供シ露國皇太子希臘親王兩殿下ハ甕海魚譜煙草圖書ヲ献ス
- 第五 右畢テ授産場御覽ノ事  
全所ニ於テ織物並煙草製造方御覽此時製品献上
- 第六 右畢テ名山小學校ニ於テ御畫食ノ事  
此御道筋ハ縣廳通リ  
全所ニ於テ左ノ通御覽ニ供ス

盆栽 蘇鐵、蘭、萬年青ノ類

活花

陶器 竹細工

生徒ノ造花

擊劍及棒踊

古器物

盆裁

劍類

陶器

生徒ノ造花

第七 右畢テ田ノ浦陶器所原料御通覽夫レヨリ工場ニ入り製造中ノ品御覽次ニ竈御覽元へ戻リ成品御覽ノ上直ニ磯へ

第八 右畢テ島津邸へ御案内ノ事

第九 島津邸ニ於テ御饗應畢テ全邸ノ海岸ヨリ(假設棧橋)御歸艦ノ事

但知事ハ御艦迄奉送御暇乞島津公爵其他ハ波止場ニテ御暇乞

第十 御發艦ノ節ハ其進行ニ際シ御着艦ノ節打揚ケタル場所ニ於テ御發艦ヲ祝スル爲メ烟火拾數本ヲ打揚クル事

御送迎及供奉心得

- 第一 皇太子殿下ニ對スル敬禮ハ天皇陛下ニ對スル敬禮ト全シク最敬禮ノ事
- 第二 官吏及學校教員生徒ハ御送迎ヲ爲スヘキ事  
高等中學校及尋常師範學校生徒(男子)ハ銃砲ヲ携帶整列捧銃ノ事(喇叭)
- 第三 御奉迎場所ハ石燈籠通ヨリ廣馬場朝日通リノ事  
奉迎者ハ豫メ其官職姓名ヲ記シタル名刺ヲ縣廳へ差出シ取纏ノ上御先着接伴員へ送り御畫飯ノ節上奏ノ事
- 第四 官吏ハ勿論其他御送迎ニ列スル者ハ「プロックコート」又ハ「羽織(黒ノ紋付)袴(山高帽(黒色)着用)ノ事  
但警官ハ正裝ノ事
- 第五 途上御通行ノ節ハ警部長人力車ニテ御先導ノ事
- 第六 皇太子ヲ始メ總テ人力車ノ事
- 第七 知事ハ御列ニ連ナラズ縣廳其他へ先着御案内ノ事

明治二十四年四月八日 本市助役以下市參事會員市會議員及市吏員十八名ヲ以



テ露國皇太子奉迎ニ關スル市部委員ヲ組織シ以テ縣委員ト協力奉迎事務ニ當ル  
明治二十四年四月二十五日 鹿兒島縣知事山内堤雲ハ露國皇太子殿下御來遊ニ  
際シ其ノ禮遇取締向等ニ關シ左ノ訓令ヲ發シ以テ万一ノ遺漏ナカラシム事ヲ期シ  
タリ

達官第四〇九號

鹿兒島市役所

露國皇太子殿下御一行來ル五月五日長崎港御發艦全六日當地へ御巡着可相成ニ付禮  
遇取締向等別番寫ノ通訓令相成候條此段心得ベシ

明治二十四年四月廿五日

鹿兒島縣知事 山内堤雲

別帶

訓第三五一號

露國皇太子殿下御一行本月末長崎港へ來着夫ヨリ海路鹿兒島へ御巡行ノ上同所ヨリ  
軍艦ニテ瀬戸内海ヲ經神戶へ御上陸夫ヨリ陸路東京へ被爲越更ニ青森へ被爲赴六月  
一二日頃同所ヨリ御乘艦御歸航ノ筈ニテ附隨ノ露國軍艦(凡八九艘)ハ長崎ヨリ鹿兒島  
其他同殿下御巡覽ノ各地へ巡航ニ付我が海軍省ヨリモ護衛艦派遣ノ筈ナルニ依リ今  
回ハ右露艦未開港場寄艦ノ証狀ヲ交付セス尤モ右露艦ノ内臨時殿下御一行ヨリ分派  
相成單獨ニ未開港場へ寄艦スルモノモ可有之右ノ場合ニ於テハ我が護衛艦司令官へ  
打合ノ上寄艦証交付スヘキ筈ナレ共其艦名及地名等ハ豫定シ難キ旨其筋ヨリ照會有  
之候ニ付殿下御巡行ノ沿道ニ於テハ禮遇取締向等不都合無之様可致ハ勿論露艦寄港

ノ場所ニ於テハ士官等上陸ノ節ハ相當ノ幫助ヲ與ヘ候様致サルヘシ  
右訓令ス

明治二十四年四月十七日

内務大臣 伯爵 西郷從道

鹿兒島縣知事山内堤雲殿

明治二十四年四月三十日 露國皇太子殿下御來遊ニ付本市參事會ハ市内一般有  
志者ニ對シ左ノ協議書ヲ發シ以テ其贊同ヲ求メタリ

來ル五月初旬露國皇太子殿下御來遊ノ豫定ニ有之然ルニ從來外國皇族ノ御來朝多シ  
ト雖モ公然皇太子ノ資格ニテ本國軍艦ニ召サレ將官ヲ率ヒテ御來遊ノ儀ハ曾テ無之  
今回ヲ其嚆矢トス就テハ我が日本國民タルモノ宜シク之ヲ奉迎シ其御來遊ヲ慰メ奉  
リ市民ノ禮讓ヲ盡スヘキハ外交上缺クベカラサル義務タルハ當然ノ義ニ付本縣廳ニ  
於テハ警官縣屬拾數名ノ接待員ヲ設ケ送迎等ノ準備ニ鞅掌セラレ殊ニ本市民モ同心  
協力スヘキ旨縣知事ヨリ特命アリタリ依テ當市ニ於テハ市吏員參事會員及ビ市會議  
員五名ヲ接待員ニ薦選シ共ニ其準備ヲ整ヘ即チ別紙參考書ノ各項ハ本市民有志者ノ負  
担トシ奉供ノ筈ニ候條各位其意ヲ体シ御協賛相成候様致度而シテ皇太子殿下當港御  
發艦ノ後有志親睦會ヲ催スニ付會費並ニ諸費トシテ各金壹圓以上御差出相成度此段  
及御協議候也

但御上陸ノ場所ハ石燈籠通海岸ニシテ御道筋ハ廣馬場ヲ經テ縣廳へ御立寄名山小  
學校ニ於テ御中食其際捧踊其他古器物等ヲ御覽ニ供スルニ付有志者ハ同所指定ノ  
場所へ參集ノ豫定ニ有之候ニ付尙詳細ハ確定ノ上御案内ニ及フヘク候

明治二十四年四月三十日

鹿兒島市參事會

鹿兒島市史

外交

一 露國皇太子ニコラス親王殿下ノ御來遊



追テ御賛成ノ方へ徽章壹個交付シ胸部ノ右方へ附着シ普通拜觀人ト識別スル筈ニ付同意ノ向キハ乍御手数數左白へ氏名御記入御捺印相成度尤モ會費金ハ後日右徽章ト交換受領可致候

別紙

- 一、海岸綠門 壹ヶ所 設置
- 一、國旗 大小四旒 新調
- 一、球燈 大十七個小百五十個
- 一、名山校門用 松竹
- 一、煙火 三十九發

其外棒踊等種々

右ハ市内有志者ノ負担

明治二十四年五月二日 露國皇太子奉迎事務委員事務所ヲ名山小學校内ニ設ク

是日又全上ノ件ニ付上村鹿兒島市長ニ左ノ通知アリタリ

露國皇太子殿下御一行ノ人員並ニ電報寫及御通知候処尙別紙寫ノ通來電候ニ付爲御心得此段及御通知候也

明治二十四年五月二日

鹿兒島市長上村慶吉殿

鹿兒島縣露國皇太子接待委員

別紙寫

四月三十日在長崎山内式部官ヨリ電報  
午饗並島津邸晚饗ハ御客ノ人員ハ皇太子始隨員等合セテ十四名ニ減セリ此外ニ三名増員スルモ計ラレス此分ハ別席ニ設クルモ差支ナシ尤モ威仁親王殿下始メ接待掛ノ人員ニ變更ナシ

明治二十四年五月三日 本市參事會ハ露國皇太子殿下奉迎ノ件ニ關シ市内有志

者ニ對シ左ノ通知ヲ發ス

本月六日露國皇太子殿下御着鹿相成候ニ付テハ石燈籠通指定ノ場所ニ於テ御奉迎相成度別紙參考書相添更ニ及御通知候也

鹿兒島市參事會

宛

別紙參考書

- 一、御着艦 六日午前第七時三十分
- 一、御上陸 全日午前八時三十分頃
- 一、有志者ハ御上陸前石燈籠通リ各自指定(札)ノ場所へ參集奉迎ノ事
- 一、有志者ハ「フロツクコート」又ハ羽織袴着用豫テ配付ノ徽章ヲ左胸部へ附着スヘキ事
- 一、殿下御通過ノ後ハ直ニ名山尋常小學校へ參集ノ事
- 但扣所ハ左右ノ教席
- 一、同日午後第六時祝宴開設ノ事
- 但細事ハ入場券ニテ御承知アレ

是日鹿兒島縣露國皇太子殿下接待委員ヨリ同殿下一行ノ人員ニ關シ本市長へ左



ノ如ク通知シ來レリ

露國皇太子殿下以下御來麿ノ人員別番寫ノ通在長崎山内式部官ヨリ電報有之候條爲御心得此段及御通知候也

明治二十四年五月二日

鹿兒島市長上村慶吉殿

鹿兒島縣露國皇太子接待委員

別紙

四月二十八日在長崎山内式部官ヨリ電報  
露希兩國皇族ト隨員八名水帥提督一人艦長士官六人公使及箱員三人領事一人合セテ二十一人外ニ我が親王殿下並ニ別當ト接待掛勅任三人奏任五人ナリ

明治二十四年五月六日

過月來本市民カ其着麿ヲ鶴首翹望シタル露國皇太子ニコラス親王殿下ノ御一行豫定ノ如ク來着セラル是日朝來烟霧四山ヲ罩メ天候定

マラサリシモ幸ニシテ雨到ラズ風靜ニシテ錦江灣上波亦穩ナリ只タ見ル石燈籠通ヨリ海岸一帶ハ総テ歡迎ノ縣市民ヲ以テ人ノ山ヲ築キ衆皆手ヲ額ニシテ御召艦ノ到ルヲ待チツ、アリ既ニシテ午前七時御召艦バミアツトアツバア「號」ウラ「號」ミルモノマ「號」アドミラルナヒーモ「號」ノ三艦ハ我軍艦八重山先導ノ下ニ徐々進行シ來リ將ニ港内ニ入ラントスルヤ我武藏高雄八重山三艦ノ橋頭高ク日

露兩國旗ノ翻ルヲ見ル我艦ハ茲ニ直ニ二十一發ノ祝砲ヲ發シ御召艦以下露艦之ニ應シテ何レモ二十一發ノ答禮砲ヲ放ツ彼我ノ砲聲般々山嶽爲ニ震フ八時三十分露艦ノ投錨ヲ了ハルヤ海岸ノ舊臺場ニテハ豫テ準備セル烟花二十一發ヲ打揚ゲテ殿下御一行ノ御安着ヲ祝シ山内本縣知事ハ直ニ御召艦ニ到リ御機嫌ヲ奉伺セリ是ヨリ先キ拜觀人ハ船ヲ舥シテ波止場外ニ出テ附近ノ海面ハ殆ンド拜觀船ヲ以テ滿タサル棧橋ハ上荷船ヲ以テ之ヲ仮設シ御上陸地点ニハ鳥居形ノ大綠門ヲ設ケ以テ日露兩國旗ヲ交叉シ又日露希三國ノ旗章ヲ記シタル提灯ヲ吊シテ裝飾ヲ爲シタリ既ニシテ午前九時二十五分露國皇太子ニコラス親王殿下ノ御一行短艇ニ召サセラレ棧橋へ着御アラセラル、ヤ公爵島津忠義公及接待員等出デ、奉迎ス殿下ニハ腕車ニ召サセラレ警部長先驅ニテ希臘シヨ「親王有栖川威仁親王其他隨從諸員及ビ我が接待員等」從へ石燈籠通ヨリ廣馬場ニ出デ朝日通ヨリ左折縣廳へ向ハセラル沿道ニハ島津家公男爵諸氏縣高等官市長助役市參事會員市會議員縣市接待委員縣判任官以下市吏員造士館師範學校及公私立學校職員生徒其他一般拜觀人等整列奉迎ス殿下縣廳ニ入ラセラル、ヤ先ヅ知事官房ニ於



テ茶菓ヲ奉饗シ次テ山内知事ハ皇太子及希臘親王兩殿下ニ鹿海魚譜烟草圖書ヲ献上シ又櫻島大根夜光貝蘇鐵等ヲ臺覽ニ供ス本市長上村慶吉本市助役本田省三本市參事會員染川權輔山本盛房柏彌彦藤安仲之助青木靜左衛門與常次郎廳内ニ於テ拜謁ノ光榮ヲ荷フ是レヨリ先キ在市露教信徒一定ノ地点ニ於テ殿下ヲ奉迎セシメテ本縣廳ニ出願シ縣廳ハ其奉迎ノ場所ヲ廳門ノ右側ニ指定シ總代三名ヲ限リ拜謁被仰付旨ヲ示スト全時ニ奉迎終ラバ拜謁ノ爲メ總代三名直ニ昇廳スキ旨ヲ命シタリ殿下ノ御一行縣廳門前ニ到ラセラル、ヤ該信徒一全恭シク之ヲ奉迎シ後該教主祭三名ハ拜謁ノ光榮ニ浴シ皇太子及希臘親王ニハ十字架ニ接吻セラレタリト云フ既ニシテ殿下ニハ縣廳ヲ出御腕車ニ召サセラレ縣廳通ヨリ山下町ナル授産場ニ成ラセラル同場役員一同門前ニ奉迎ス殿下ニハ直ニ各工場御巡覽畢テ豫テ設ケノ席ニ御小憩アリ此時授産場ハ殿下ニ煙草織物押繪ヲ献上ス殿下ニハ紙卷煙草數箱ヲ御買上アラセラレ同場ノ卷煙草製造ニ熟練ナル旨御物語アリ斯クテ殿下ニハ同場出御名山小學校へ臨御御晝食ヲ召サセラレタリ此處ハ即チ本市有志者ノ歡迎場ニシテ玉座ヲ講堂ニ設ケ正面ノ入口ニ日露希三國ノ

國旗ヲ掲ケ通路ニ當ル廊下左右兩側ニ活花ヲ飾リ玉座ノ四隅ニ古畫名幅ヲ掛ケ金屏風ヲ以テ室内ヲ裝飾シ又新古陶磁器漆器及竹器其他珍什奇物ヲ陳列シテ臺覽ニ供シタリ又校庭ニ於テ擊劍棒踊等ノ催アリ露艦乗込ノ寫真師種々ノ撮影ヲ爲ス殿下ニハ零時前同校出御順路ヲ田ノ浦へ同所陶器製造所御一覽種々御買上物等アリ次テ磯島津邸へ臨御アラセラル島津公爵長崎式部官等正門内ニ奉迎ス殿下ニハ豫テ外庭丘上ニ設ケラレタル棧敷ニ成ラセラル先ツ東郷重持ノ腰矢並ニ數矢ヲ臺覽ニ供シ尋テ二百名ノ甲冑武者島津家令息秀丸君(六歲)ニ引率セラレテ出場シ古式ノ武士踊ヲ演ス殿下ハ此時秀丸君カ二百ノ甲冑武士ヲ統率セラレタル光景ニハ御感轉タ深カリシモノ、如シ次テ華倉ナル乘馬場ニテ略式ノ犬追物演セラレタリ主人忠義公ヲ始メ島津久明男東郷重持安藤八郎左衛門等射手タリ中ニ就キ忠義公及東郷ノ技最モ輕妙觀者覺へズ讚嘆ノ聲ヲ放テリ同乘馬場ニテハ殿下武士踊ノ起原沿革等ニ就キ詳細ナル御下問アリ又演者ノ格式位置等ニ就テモ亦御下問アラセラレタリ掛員ニ於テハ古來土族即チ武士ノ盡ス可キ職務及ビ百二都城ノ配置法等ニ就キ詳ニ其沿革ヲ説キ百二都城ニ配置セラレタル士



族即チ武士ハ平素ハ犁鋤ヲ執テ農耕ノ業ニ從ヒ一朝有事ノ日ニ際シテハ蹶然戈ヲ執テ起ツ等ノ事ニ及フヤ御感最モ深カリシモノ、如ク其制ハ大ニ我露國ノコサツク兵ノ制ニ類スト嘆賞アラセラレタリ又忠義公ガ自ラ馬ニ跨テ犬追物ノ技ヲ演セラレタルニハ御感又更ニ一層加リシモノ、如クナリキ畢テ同家傳來ノ武器類ノ臺覽アリ何レモ古色蒼然種々ノ來歴ヲ有シ坊間容易ニ見ルコト能ハサル物ノ、ミ

臺覽終テ殿下ニハ同邸ノ饗宴ニ臨マセラル席上先ツ薩摩琵琶並ニ琴ノ彈奏ヲ臺聞ニ入タルガ中ニ就キ琴ニハ殿下特ニ御喜悅ノ色アリ其技ノ巧妙ナルト靜肅ナル事ヲ歎賞アラセラル扈從ノ魯國公使亦東京鹿鳴館等ニ於テ日本ノ諸遊技ヲ見タリ然レモ斯ル微妙閑雅ナル曲ヲ聞クハ實ニ今回ヲ以テ嚆矢トスト云ヘリ須臾ニシテ日本料理ノ饗ニ移ル主人忠義公起チテ殿下並ニ親王等ノ杯ヲ受ケ其席ニ復席スルヤ殿下ニハ直ニ自ラ其席ヲ下リ忠義公ニ對シテ日本式ノ酬杯ヲ行ハセラル偶々同邸令嬢出デ、挨拶アリ殿下ニハ献酬ヲ促カレ後握手ノ禮ヲ行ハセラレ續テ曩キニ琴ヲ彈シタル婦人ヲモ御召シアリ同シク御献酬ヲ仰付ケラレ慰

勲懇到御談笑ノ外餘念ナク殊ニ忠義公父子常ニ左右ニ侍シ以テ款待ニ心ヲ盡セシノ一事ハ殿下特ニ衷心ノ喜ニ堪ヘサセラレサルモノ、如ク拜セラレタリ宴終リ將ニ全邸ヲ出御アラセラレントスルニ臨ミ殿下ニハ日本第一流ノ貴族第一流ノ勤王家第一ノ舊家タル島津家ヨリ此ノ如ク優渥懇篤ナル待遇ヲ受ケタルハ獨リ余ノミナラス日本 皇帝陛下ニ此旨言上ニ及ハハ 陛下ニモ亦定メテ御満足ナラントノ旨ヲ述ベサセラレ希臘親王以下ヲ從ヘサセラレ同邸前ノ海岸ヨリ端艇ニ御搭乘御召艦ニ御歸艦アラセラレタリ斯クテ午後六時四十分錦江灣上暮色蒼然トシテ到ルノ頃御召艦以下二艦ハ我護衛艦タル高雄外二艦ト共ニ拔錨煙波縹渺ノ裡ニ其雄姿ヲ沒セリ陸上ニ於テハ豫定ノ煙花ヲ揚ケ以テ万里遠來ノ貴賓露國皇太子殿下ノ御一行ヲ奉送シタリ是日島津邸ニ於テハ露國皇太子及希臘親王兩殿下ニ薩摩燒花瓶ノ献上アリタリ

明治二十四年五月十二日 去ル六日遠ク本市へ鶴駕ヲ扞ケサセラレ我百二十餘萬縣市民カ滿腔ノ誠意ヲ捧ケテ奉迎送シタル露國皇太子殿下ニハ當地御發艦後御東上ノ途次昨十一日大津ニ於テ狂漢津田三藏ノ爲メニ負傷セラル上下震駭殆



ト措ク處ヲ知ラズ乃チ鹿兒島縣知事山内堤雲ハ左ノ内訓ヲ發シ以テ語流説ノ防  
止ニ努ムル處アリタリ

内訓第一二號

露國皇太子殿下昨十一日滋賀行啓ノ際御負傷被爲遊候趣別紙ノ通其筋ヨリ電報有之  
警愕ノ至候右ハ不容易事件ニ付浮説等流行セシメザル様篤ク注意致サルヘシ  
明治二十四年五月十二日  
鹿兒島市長上村慶吉殿  
鹿兒島縣知事 山内堤雲

別紙

山内鹿兒島縣知事宛

小松原警保局長

五月十一日午後六時五十分

露國皇太子殿下本日午後二時過滋賀縣御出立ノ途中大津町ニ於テ路傍配置ノ巡查一  
名拔劍皇太子殿下ノ御横額ヘ斬付タリ狂人ハ其儘縛ニ就キタリ御創ハ横三寸餘御精  
神ハ髓ニテ供奉員ニテ取致ズ縋帶シ縣廳ハ御歸リアラセラレ目下御療治中犯人ノ巡  
査ハ本縣森山警察署詰津田三藏ト云フ全ク精神狂ヒ此擧ニ及ヒタリト恐レ入り居レ  
リ御先導警部該巡查ヘ一刀斬付ケ縛シタリト旨電報アリタリ右ハ國際上露國ニ對  
シテハ勿論國家ノ爲メニ甚ダ慨歎スベキ所爲ニシテ朝野共ニ痛心スヘキ所ナリ  
明治廿四年五月十一日午後八時三十分  
露國皇太子殿下ノ創ハ淺シ三時五十分ノ汽車ニテ京都ニ赴カセラル  
本縣警部長ヘ 五月十一日午後九時十五分發  
京都警部長

露國皇太子ハ本日滋賀縣ヘ御遊覽ノ際全縣巡查津田三藏ナルモノ皇太子ヘ負傷セシ  
メタリシカ創ハ輕ク三時過汽車ニテ御歸京御容体御異狀ナシ右ニ付 天皇陛下ニハ  
明日當地ヘ行幸正午十二時御着輦ノ旨仰出サレタリ又巡查ハ直ニ就縛

是日島津忠義公ニハ昨十一日露國皇太子殿下御遭難ノ報ニ接シ御見舞ノ爲メ急  
遽京都ニ赴ク本市長上村慶吉モ亦殿下御機嫌奉伺ノ爲メ京都ヘ向ケ出發シタリ  
明治二十五年 昨明治二十四年露國皇太子ニコラス親王殿下本市ヘ御來遊當時  
ノ事蹟ハ叙上ノ如シ越ヘテ二十五年本市ハ地ヲ鶴嶺山麓城山公園ニトシ以テ當  
時ノ紀念碑ヲ建ツ題シテ露國皇太子ニコラス殿下來慶紀念碑ト云フ其碑ニ曰ク

露國皇太子ニコラス殿下本邦ニ御來遊ノ報アルヤ朝廷爲メニ御接待掛ヲ置キ軍艦八  
重山武藏高雄ノ三號以テ海上ノ護衛ニ充テラル御接待掛ハ軍艦ニ乗込殿下御一行ノ  
長崎港ニ着セラル、ニ先チ該地ニ到テ奉迎ス殿下已ニ長崎ニ着セラル、ヤ日ナラス  
シテ艦ヲ本縣ニ移サル抑モ外國貴賓ノ本縣ニ來遊セラル、事會テ之ナキニ非ラサル  
モ其皇太子ノ貴キト且ツ其接壤ノ國タルヲ以テ本市官民大ニ歡迎ノ意ヲ表セント欲  
シ山内本縣知事ハ豫メ屬官十四人警部三人ニ委員ヲ命シ接待ノ事務ヲ分掌セシメ書  
記官肝付兼弘ヲ以テ委員長トナシ市モ亦助役本田省三ヲ以テ委員長トシ市參事會員  
六名市會議員三名書記八名ヲ舉ケテ委員トナシ庶務ヲ分掌セシム市民頗ル此擧ヲ贊  
シ費ヲ出シテ歡迎ノ準備ニ資ス明治二十四年五月六日午前七時我軍艦八重山號ハ有  
栖川宮威仁親王殿下以下ヲ載セニコラス皇太子殿下ノ乘艦アゾラ號ヲ導キ人港ス此



時我軍艦ハ二十一發ノ祝砲ヲ發ス「アソソ」號モ亦答砲ヲ發シ徐ニ入港ス市民モ亦煙火數十本ヲ打揚ケ祝意ヲ表シ錦江爲メニ煙霧ニ鎖サレ砲聲山岳ヲ憾ス八時三十分諸艦悉ク投錨シ位置定マル在港本邦商船ハ悉ク十分ノ裝飾ヲナシ亦以テ祝意ヲ表ス此日天稍曇ルアルモ幸ニシテ雨ヲ見ズ海面風死シテ鏡ノ如ク人民ノ盛儀ヲ拜觀セント欲スルモノ老幼悉ク小舟ニ乘リ「アソソ」號ヲ圍繞スルモノ數百艘警吏其制止ニ苦ム其群衆想フベシ市民ハ豫メ御上陸ノ便ヲ計リ端舟數十艘ヲ連綴シ板ヲ架シ席ヲ布キ棧橋ヲ仮設シ且埠頭ニ大綠門ヲ樹テ上ニ日露兩國ノ大國旗ヲ交叉シテ以テ歡迎ノ意ヲ表ス綠門ノ高サ二丈八尺幅一丈九尺柱ノ大サ廻八尺左右ニ日露希三國ノ國旗ヲ記シタル赤色ノ球燈數百個ヲ吊シ綠門ノ上端ニ露國字ヲ以テ歡迎ノ文ヲ記シタル提灯十七個ヲ吊シ又市内ハ家毎ニ旭旗ヲ檐端ニ掲ケ御安着ヲ奉祝ス殿下ノ御一行ハ同午前九時二十五分御上陸山内本縣知事ヲ始メ島津公爵在廳諸高等官縣會議長市長役助市參事會員其他諸官吏紳士紳商官立公立學校生徒等各相當ノ禮裝ヲ着シ道路ノ兩側ニ整列奉迎ス午前九時三十分殿下ノ御一行縣廳ニ臨マラセラル、ヤ特ニ御接待掛三宮式部次長ノ紹介ニヨリ市長上村慶吉助役本田省三市參事會員染川權輔、山本盛房、柏彌彦、藤安仲之助、青木靜左衛門、奥常次郎等ニ謁ヲ賜フ蓋シ市民歡迎ノ厚意ヲ嘉納シ給フニヨルナリ畢テ本縣共同授産會社ノ授産場ヘ行啓セラル市民ハ豫テ歡迎場ニ設ケタル名山小學校ノ正門ニ松竹ノ飾ヲナシ日露兩國ノ國旗ヲ交叉シテ關ノ入口ニハ小綠門ヲ設ケ廊下ノ左右ニハ簾ヲ垂レ生花四十三種ヲ駢列ス堂ノ四壁ニハ古今名工ノ畫幅ヲ掛ケ甲冑漆器陶器刀劍彫刻品骨董品數百種ヲ机上ニ陳列シ各金屏風ヲ以テ分界シ殿下御一行御需用ノ便ニ供セリ殿下ノ御一行ハ午前十一時全校ニ行啓縣知事並ニ市長助役市參事會員等支關前ニ奉迎市長御先導ニテ着座於是源平試合ノ擊劍及棒踊ヲ演シ殿下ノ高覽ニ供奉シ尋キテ午餐ヲ饗ス午後一時島津公爵ノ第二行啓種々ノ饗應

アリ市長助役市參事會員モ隨行同第正面ノ海岸ニ於テ殿下一行ノ發艦ヲ奉送ス時ニ午後六時四十分ナリシ而シテ市民ハ海岸大綠門ノ紅燈ニ点火シ更ニ煙火ヲ打揚ケ遙ニ奉送シ洋々タル音樂ノ響ト共ニ各艦煙ヲ殘シテ遠ク京畿ニ向ヘリ顧フニ各國交際ノ親疎ハ相互國民ノ幸福ニ關スル大ナルヤ皆人ノ悉知スル所今我市若キ貴賓ニシテ且ツ隣邦異日ノ帝王ヲ待ツニ禮ヲ以テセシハ深ク國民ノ記スヘキ所トス故ニ碑ニ刻シテ永ク後代ニ遺スト云

二 露國太平洋艦隊所屬軍艦ノ來港

明治二十七年一月三十一日 露國太平洋艦隊ノ一艦タル露國軍艦「クルーサー」號入港ス是日當市有志者全艦隊司令長官海軍中將テイルトフ氏艦長大佐エルチャ一テフ以下士官一同ヲ江南九州第一樓上ニ招待シテ一席ノ饗宴ヲ張ル蓋シ本夕ノ饗宴タル往年同國皇太子ニコラス親王ノ來遊ニ因メルナリ豫定ノ時刻午後五時會スル者主客合テ五十有五名席定マルヤ發起人總代一場ノ挨拶ヲナシ當日ノ主賓タル中將テイルトフ氏左ノ答辭ヲ述ヘタリ(通譯口譯)

自分及士官一同ヨリ申上マス斯ル盛大ナル宴會ヲ開カレ且御懇切ナル御詞ヲ拜聽シタル御禮ヲ申上ケマス分テ喜ンテ御報知致ス事ハ曾テ皇太子殿下鹿兒島ニ御出ノ事ヲ紀念セラレ亦將來紀念ノ爲メ公園地ニ紀念碑迄モ取建テ且露西亞人ノ爲メ盛ナル宴會ヲ開キ懇切ナル厚情ヲ表サレシ事ヲ皇太子殿下へ本日電報ヲ以テ申上ケマシタ



更ニ日本 皇帝皇后兩陛下及皇族殿下並ニ日本ノ萬歲ヲ祈リ而シテ此盃ヲ取ル事ヲ許サレタル御厚意ナ一同ニ代リ深ク陳謝致シマス

終テ亦野田市立病院長獨逸語ヲ以テ挨拶ヲ爲シ次テ宴ニ移リ宴中來賓中ノ一人携ヘ來リシ寫真機ヲ以テ三タビ雜妓ノ舞ヲ撮影シタリ地ハ是レ露國皇太子殿下會遊ノ所會ノ主人ハ亦是レ當年滿腔ノ赤誠ヲ捧ゲテ殿下ヲ歡迎セシノ人而シテ其席ニ列スルノ來賓ハ魔城ニ玉趾ヲ印セラレシニコラス親王殿下ノ國民ニシテ太平洋同國艦隊司令長官以下ノ士官タリ盛歡殆ント盡クル所ヲ知ラズ宴ハ午後十一時ニ至リテ撤セラレタリ

明治二十七年二月一日 來港中ノ露艦「クルーサー」號長崎ニ向テ去ル同艦ハ本港碇泊中鶴嶺山下ナル同國皇太子ニコラス殿下來遊紀念碑ヲ撮影シテ本國へ送付シタリト云フ

明治二十七年二月三日 客月三十一日太平洋露國艦隊司令長官一行ノ招待會本市有志者ニ由リテ開催セラル、ヤ同司令長官本國ナル皇太子ニコラス親王殿下ニ電報セシ旨ハ同司令長官ガ該招待會席上ニ於テ語レル處ナリ然ルニ殿下ニハ

該電報ニ接セラル、ヤ當市民ノ厚意ヲ多トシ電報ヲ以テ左記ノ御沙汰アリタル旨司令長官海軍中將テイルトフ氏ヨリ加納本縣知事へ通報アリタリ其通報全文左ノ如シ

第四十七號

鹿兒島千八百九十四年一月卅一日

皇太子殿下が來露ニ相成シ事ヲ鹿兒島住民ハ記臆致居候由テ殿下へ奏上致候處殿下ヨリ左ノ御電報ヲ拜受致候儀ヲ御報知申上候

鹿兒島住民ガ余ガ事ヲ記臆致居ル厚意ニ對シ余ガ厚キ謝詞ヲ彼等へ被申述度頼入候

右御報知申上候謹言

太平洋露國艦隊司令長官 海軍中將 ティルトフ

鹿兒島縣知事加納子爵閣下

明治二十七年二月五日 當市民ニ對シ露國皇太子ニコラス殿下ヨリ優渥ナル御沙汰アリシハ叙上ノ如シ之ニ對シ當時ノ發起人十一名ヨリ左ノ禮狀ヲ中將テイルトフ氏へ寄送シ以テ殿下へ奏上アラシメテ頼入候儀

拜啓然者去月三十一日貴官及艦長其他諸君御招待申上候處其旨貴官ヨリ皇太子殿下へ御奏上相成殿下ヨリ我々共へ厚キ御沙汰被爲在候由貴報ノ寫本縣知事加納子爵ヨリ領收厚キ思召ノ趣實以テ難有謹テ拜聽仕候右御禮貴官ヨリ宜敷御奏上被下度一同ニ代リ御依頼申上候頼首



明治二十七年二月五日

- |      |      |      |
|------|------|------|
| 志方之勝 | 上村慶吉 | 鮫島相政 |
| 青木成一 | 染川權輔 | 關田紗作 |
| 町田實一 | 野村政明 | 山岡國吉 |
| 村上純  | 染川濟  |      |
- 太平洋露國艦隊司令長官海軍中將テイルトフ殿

### 三 改正條約實施祝賀會

明治三十二年八月四日 本市有志者改正條約實施祝賀會ヲ興業館内ニ開ク抑モ條約改正ノ事業タルヤ維新以來深ク

聖慮ヲ煩ハセラレタル所ニシテ又國民ノ久シク翹望セシ所タリ明治四年特命全權大使ヲ歐米締盟國ニ派遣シ其改訂ニ關スル商議ノ端緒ヲ開カシメラレテヨリ茲ニ二十有餘年其間各國ト幾多ノ交渉ヲ累テ協商ヲ盡シ遂ニ明治二十七年ヲ以テ大不列顛國ト始メテ改正條約ヲ締結シ爾餘ノ各國之ニ續キ悉ク改訂ヲ終ヘンヤ一部ハ客月十七日ヨリ他ノ一部ハ正ニ本日ヨリ之ヲ實施セラル乃チ本市有志者ハ是日ヲトシテ改正條約實施祝賀會ヲ興業館内ニ開ク本市長上村慶吉本市會議長染川權輔等發起人タリ在鹿中ノ外人ヲ招キ待ツニ來賓ノ禮ヲ以テス會スル

者在鹿代議士縣會及市會議員市參事會員各官衙員陸海軍將校其他各會社員紳士紳商等各階級ノ人ヲ網羅シ其數無慮四百餘名偶々當港碇泊中ノ豐橋艦長今井兼昌等數名ノ士官モ亦來リ會ス午後四時半式ヲ開キ市長上村慶吉左ノ式辭ヲ朗讀ス

我が條約改正ノ事タルヤ維新以來上下ノ等シク翹望スル處ニシテ屢當路者ニ由リテ企畫セラレ而モ屢失敗ニ歸シ其間幾度カ國論ノ沸騰ヲ來シ幾度カ朝野ノ紛爭ヲ醸シタル國家ノ大問題タリシガ今ヤ時局一轉シテ締盟十有五箇國ノ舊條約皆改訂セラレ則チ本年本月本日ヲ以テ悉ク實施セラル、ニ會ス是レ或ハ時運ノ然ラシムル歟ナラントハ雖モ上ニ無量ノ聖德アリ以テ列國ノ和視ヲ敦フシ下ニ熱誠ナル國民ノ聲アリ以テ當路者ノ心ヲ強フシ茲ニ此大業ノ成功ヲ視ルニ至リシモノ實ニ帝國ノ光譽トシテ祝セサルベカラズ

是ニ於テカ我カ鹿兒島市民相謀リテ本日此ノ祝賀會ヲ開キ内外ノ間親疎ノ別ナク一場ノ下ニ會シ互ニ談笑快話シテ共ニ俱ニ此國家ノ一大慶事ヲ祝セント欲スルナリ帝國ハ今ヤ舊觀ヲ脱シ宇内外國ト均等ノ地位ニ立テリ列國ノ人亦我ヲ見ル舊時ノ如クナラズ彼我ノ交際モ是ヨリ益々親密ナランコトハ更ニ疑チ容レザル歟ナリ而シテ我々臣民ハ深ク 聖旨ノ在ル所ヲ奉シ近時ノ詔敕ニ曰ヘル如ク億兆心ヲ一ニシテ善ク遠人ニ交リ國民ノ品位ヲ保チ帝國ノ光輝ヲ發揚センコトヲ期スベキナリ乃チ之ヲ以テ開會ノ辭ト爲スト云爾

明治三十二年八月四日

鹿兒島市長 上村慶吉

次テ來賓惣代トシテ白耳義人ラーゲー氏極メテ流暢ナル日本語ヲ以テ先ヅ本會



ニ招待セラレシ謝辞ヲ述へ而テ日本ガ樽俎ノ間此大事業タル條約改正ヲ遂行シタル名譽ヲ稱揚シ過グル日清戰爭ニ於テ臺灣或ハ遼東半島ヲ得タル勝利ヨリモ一層誇ルヘキ事ト爲シ進デ鹿兒島ト外交トノ歴史的關係ヲ陳ベ今ヲ去ル三百五十餘年前ニ葡萄牙人ノフランシスザヅビエスト稱スル宣教師ガ始メテ鹿兒島ニ渡來シ土地ノ人情風俗或ハ島津家ノ政策等種々本國ニ通報シタル事實等ヲ少時已ニ之ヲ書籍ニ依リ知リ得テ日本ヲ慕ヒ居タル事銃砲ノ當國種子島ニ渡リ爾後漸次日本全國ニ廣マリシ事等正確ノ事歴ヲ明截ナル辯舌ヲ以テ引用敷演シ終リテ日本ガ此條約改正ノ目的ヲ達シタルハ一ニ 皇帝陛下ノ御稜威ト政府國民ノ熱心ナル盡力ニ依ルモノニテ今後此偉大ナル光譽ト國威ト共ニ曇リナキ空ニ光リ輝カンコトヲ祈ルト述ベ尙將來ハ政治上學問上道德上總テノ点ニ於テ親密ノ交際ヲ希望スト結ビ次ニ志方之勝祝歌ヲ朗詠シ式ヲ閉デ後餘興及宴ニ移リ坂元少將ノ發聲ニ依リ帝國萬歲締盟國萬歲ヲ合唱シ以テ外客ト卓ヲ全フシ共ニ祝盃ヲ舉ゲ和氣霽然タリ盛歡盡キズ暮色蒼然照國社頭ニ迫ルノ頃一同宴ヲ撤シタリ是日我皇國ノ一大慶事ヲ祝スル本會ノ開カル、ヤ時恰モ三伏鏢金ノ候ニモ拘ラ

ズ滿街ノ士女開會ニ先チ會場ノ周圍ニ蟻集シテ般賑ヲ極メ市内ハ各戸國旗ヲ掲ゲ煙花ハ絶ヘズ轟然トシテ偉觀ヲ添タリ

#### 四 日英同盟祝賀會

明治三十五年二月二十三日 是日鹿城有志者ニ依リテ日英同盟祝賀會開カル興業館構内ヲ會場ニ充ツ先是發起人タル市長上村慶吉等市内ニ檄シテ曰ク

今回發表相成候日英同盟條約ハ東洋ニ於ケル帝國ノ地位ヲ鞏固ニシ東洋永遠ノ平和ヲ保持シ帝國ノ勢威ヲ世界ニ發揚スヘキ空前ノ盛事ニ屬シ國民ノ舉テ歡迎スル所ニ有之依テ茲ニ祝意ヲ表スル爲一大祝賀會ヲ催シ度候間同感ノ士ハ左記御承知ノ上奮ツテ御來會被下度候也

明治三十五年二月十七日

發記人 上村慶吉 外有志者

- 一、開會ハ二月二十三日(日曜日)午後二時トス
- 一、申込ハ來ル二十二日正午十二時迄トス
- 一、會費ハ金壹圓會券引換ノコト
- 一、申込所ハ市役所並ニ商業會議所トス
- 一、會場ハ山下町興業館構内トス

是日天氣晴朗春光煦々旭旗全市ニ翩々タリ開會定刻前會員既ニ陸續トシテ參集シ構内ノ樹陰各所ニ團欒シテ定刻ノ至ルヲ待ツモノアリ只夕見ル場ノ入口ニ交



又セラレタル日英兩國ノ大國旗春風ニ翻ヘリ中央長竿亭々「日英同盟祝賀會」ト記セシ旗ハ墨痕淋漓トシテ猛獅ノ躍レルモノノ如ク無數ノ球燈無數ノ小旗ハ旭日ニ薰スル小櫻花ノ繚亂タルニ似タリ場中正面一高地上卓子ヲ備ヘ馥郁タル巨朶ノ白梅ニ松竹ヲ配シ以テ日英兩國ノ盟約長ヘニ變ラサルヲ示セル大花瓶ヲ置ケルノ所即チ當日ノ式場タリ既ニシテ定刻ニ至レバ一同式場ニ集リ先ツ君カ代及英國々歌ノ奏樂アリ後市長上村慶吉進デ開會ノ辞ヲ述ベ次ニ千頭本縣知事大要左ノ如キ一場ノ祝詞演說ヲ爲ス

古來名譽ノ孤立ヲ守リ以テ彼ノクリミヤ戰爭ノ際一時他邦ト同盟聯合シタル事アルノ外總テ前例ナキ英國カ今回遠ク我國ト相提携シテ極東ノ平和ヲ維持セントスルニ至リシヲ見テハ我ナガラ日本ノ進歩ニ驚カサルヲ得ス今ヨリ十五六年前迄ハ日本ノ事狀世界ニ知ラレズシテ支那ノ屬國若クハ大洋中ノ一小島嶼ナルガ如ク誤解サレシモノ今ヤ世界ノ強國タル大英國ト同盟ノ義ヲ結ブニ至ル豈ニ一大白ヲ浮ヘテ祝賀セサルベケンヤ而シテ之ト全時ニ我日本國民ノ責任一層其重ヲ加ヘ來レルヲ以テ互ニ奮勵以テ此同盟ヲ空フセザルヲ期スベキナリ云々

而シテ終リニ臨ミ造士館教員マードックガ岩崎全館長心得ニ寄セタル書翰ノ大要ヲ意譯シ以テ彼レ英國人ガ如何ニ此會ニ同情ヲ寄セ喜悅ノ意ヲ表シ居ルカラ報告セリ尋テ樺山伯爵演壇ニ起チ日英同盟ノ遠因近因ニ就テ說キ此協約成立ヲ

祝シタル後我日本國民タルモノハ將來一大覺悟ヲ爲シ實力ヲ養成シテ五年十年乃至百年モ此盟約ヲ繼續セシムル事ニ努力セサルベカラズ世能ク口ヲ開ケハ即チ富國強兵ト言フ而カモ今日ハ富國ヲ以テ第一ノ要務トシ極メテ熱心ニ極メテ眞摯ニ勉メサルベカラストノ意ヲ反覆縷述シ次ニ當時來麿中ナル英國ノ人バラルド自國語ヲ以テ一片ノ祝辞ヲ述べ今回此ノ山紫水明ノ麿城來遊中偶然我が最モ親愛ナル日本帝國ト我が國トノ同盟成レル事ヲ耳ニシ胸中眞ニ無限ノ喜ヒニ堪ヘズ而シテ今紳士諸君ガ該同盟ノ成立ヲ祝セラル、此會ニ列スルノ光榮ヲ得タルハ感謝管ナラスト言ヒ有川仁之介之ヲ通譯シ尋テ平田縣會議長ノ祝詞演說其他祝文及ヒ祝歌ノ朗讀アリ終テ樺山伯ノ發聲ニテ大日本 天皇陛下萬歲ヲ三唱シ續ヒテ大英國天皇陛下萬歲ヲ三唱シ鶴嶺爲メニ震フ式終リ宴ニ移リ歡聲場ニ湧キ薄暮散會ス是日會衆三百有餘名次ニ造士館教員マードックガ岩崎館長心得ニ寄セタル書翰ノ譯文ヲ掲グ

余ハ殊ニ悲ムニ暨ノ爲メ今二十三日ニ於テ催サルベキ英日同盟條約ノ祝賀會ニ列席シ得サル事ヲ之レ此ノ光譽アル式典ニ臨ムハ余ノ自由ト云フヨリ寧ロ余ノ義務タリ余ハ率直ニ云ハン此同盟條約ヲヨリ多ク祝スルモノハ日本帝國及ビ日本帝國國民ヨリ



モ英國及ヒ英國國民ニ在リトス开ハ世ニ日本國ボト極東ノ事局ニ通シテ優勢ノ地歩ヲ占ムルモノハナケレバナリ即チ桂内閣乃至サリスベリ内閣ノ外交上ニ於ケル一大成功トシテ英國國民ハ滿空ノ祝意ヲ表スルモノト知ラスヤ

回顧スレバ我英帝國ハ四十年前クルミヤ戰爭以來未タ曾テ何レノ強國トモ同盟條約ヲ締結シタル事ハアラサリキ此ノクリミヤ戰爭ヤ恰モ米國水師提督ベルリ一渡來シツ出島ニ於テ少數外人ノ外何レノ國人ニモ二百十四年間鎖サレツ、アリシ日本ノ門戸ヲ開クノ時ナリシカ今ヤ此日本國ハ建國コノカタ未會有ノ攻守同盟條約ヲ我英帝國ト結ブニ至ル古今時勢ノ變遷亦驚クベキニアラズヤ嗚呼西ノ島帝國ト東ノ島帝國ノ間ニ成立シタル此破天荒ノ同盟條約ニ對シテ誰カ欣躍セサルモノアラシヤ余ハ甕城ニ在留セル小數英人ノ一員トシテ此ノ名譽アル賀會ニ列シ十二分ノ祝意ヲ述ベン答ナリシニ疾病ハ余ヲシテ恨ミテ吞マシムルニ至レリ貴臺乞フ此微意ヲ知事公閣下並ニ市長閣下ニ傳ヘヨ

### 五 英國艦隊ノ來港

明治三十八年十月二十二日 英國支那艦隊ノ一部水雷母艦「ヘクラ」號外五艘ノ水雷驅逐艦隊入港ス先是全艦隊入港ノ報本市ニ傳ハルヤ市有志者ハ日英全盟協約成立後始メテ全盟國ノ艦隊ヲ當港ニ迎フルコトナルヲ以テ該艦隊歡迎會開催ニ關シ種々凝議スル處アリ七十餘名ノ委員ヲ選定シテ之ヲ接待設備餘興會計ノ四掛ニ分テ歡迎ノ準備ニ努メ又會員ノ心得ヲ左ノ如ク定メタリ

#### 會員ノ心得

- 一、今回我同盟英國艦隊ノ一部當地來港ニ付同帝國ニ對シ熱誠ナル敬意ヲ表センガ爲メ本市ハ茲ニ歡迎會ヲ開カントス就テハ會員諸君平素我同胞ノ會合スルトハ大ニ趣ヲ異ニスレハ親切ニ彼レヲ待遇スルハ勿論禮讓ノ上ニ於テモ最モ謹慎ヲ加ヘ決シテ不体裁ノ舉動ヲ現ハサス充分彼ニ満足ヲ與フルニ務メラレン事ヲ注意致サレ度候
- 一、會員ハ準備委員ニ限ラズ來賓ニ對シテハ總テ亭主役タル地位ニ在ルハ勿論ナレバ彼我ノ區別ナク接待掛トシテ充分款待ニ盡力セラレン事ヲ望ム
- 一、歡迎會ハ來ル二十三日(雨天ノ時ハ順延ス)大門口埋立地ニ於テ舉行ス當日ハ合圖トシテ煙花五發ヲ打揚グルヲ以テ其際ハ必ズ新聞廣告ノ時限ニハ遅レサル様出席セラレタキ事
- 一、會員ノ服裝ハ「フロックコート」又ハ羽織袴トス
- 一、但シ婦人ハ白襟紋付ノ事
- 一、會員ニハ會場ノ人口ニ於テ會券ト引換ニ徽章ヲ交付スルニ付該會券ハ必ス持參セラレ度キ事
- 一、式ノ順序ハ左ノ如シ

- 最初ニ英國々歌ヲ奏ス
- 此時ニハ一同脱帽シテ敬意ヲ表ス
- 次ニ市長歡迎ノ辭ヲ述ブ(英譯)
- 次ニ縣知事英國皇帝陛下ノ萬歲ヲ三唱ス
- 縣知事英語ニテ祝辭ヲ述ブルト全時ニ日英同盟ノ樂ヲ奏ス
- 大英國艦隊及日英同盟ノ萬歲ヲ三唱ス



此ノ時會員一同之ニ和ス  
 右ニテ式ヲ終ヘ餘興場ニ到リ餘興了ハリテ宴會ニ移ル  
 縣知事會員一同ト共ニ舉盃ノ上來賓ノ健康ヲ祝ス「ビール」及「コーヒ」店ニ案内シ隨意ニ  
 話談ニ移リ餘興ヲ見ル  
 一、艦隊出帆ノ時ハ數回ノ煙花ヲ以テ合圖スルニ依リ可成會員諸君ニハ小國旗ヲ以テ  
 埋立地ニ見送ラレタシ

又市長ハ左ノ告諭ヲ發シ以テ市民ニ對シ同盟國艦隊員待遇ニ關スル注意ヲ與ヘ  
 タリ

今回我同盟國タル英國支那艦隊ノ一部不日來港ニ付市民タル者滿腔ノ熱誠ヲ以テ之  
 ナ迎ヘ充分ナル満足ヲ與ヘサルベカラズ然ルニ從來ノ例ニ徵スルニ商家ニ於テハ往  
 々時價不當ノ利益ヲ貪リ或ハ不体裁ノ容姿ヲ以テ之ニ接シ若クハ男女老幼彼等ノ前  
 後左右ニ追隨シ爲メニ敬意ヲ缺キ不快ノ感念ヲ與ヘシ例少カラス斯ノ如キハ戰勝國  
 民且ツハ親厚ナル同盟國民ノ態度トシテ誠ニ恥ツベキ次第ニテ殊ニ車夫營業者ニ於  
 テハ土地ノ不案内ニ乘シ好機失フベカラズトナシ過大ノ賃錢ヲ請求シ悶着ヲ惹起ス  
 ル等誠ニ痛嘆ニ堪ヘサル事ナリ尤モ今日ニテハ斯ル弊害ナキ事萬々疑ヲ容レザレド  
 モ時ニ心得違ノ者アリテ外賓ニ不快ノ感ヲ與フル如キ事アリテハ折角市民ノ熱誠ヲ  
 注キタル歡迎モ空シク水泡ニ歸スベケレバ市民タル者ハ深ク此處ニ注意シ可及的便  
 宜ヲ與ヘ充分ノ敬意ヲ拂ヒ苟モ不快ノ感情ヲ與ヘサラントニ注意セラレバシ  
 右諭示ス

明治三十八年十月二十日

鹿兒島市長代理 助役 山本德次郎

而シテ市會ハ全艦隊歡迎費トシテ金壹千五百圓ノ支出ヲ議決セリ以テ本市民ガ

如何ニ該艦隊歡迎ニ熱中セシカラ推知スルニ足ルベシ

是日午前十時頃該艦隊錦江灣上水烟糶糊ノ間ニ其艦影ヲ現ハスヤ歡迎接待委員  
 等ハ小汽艇咲花丸ヲ艤シテ之ヲ沖小島附近ニ迎ヘ彼我相會シテ信號ヲ交換ス驅  
 逐艦先頭ニ駛セ母艦之ニ次ギ徐々進航シテ午前十一時全艦隊靜カニ辨天臺場前  
 ヲリ埋築地前ノ沖合ニ投錨ス乃チ歡迎船ニ搭乘セル上村本市長宮里商業會議所  
 會長千頭本縣知事吉弘四十五聯隊長等ハ通譯櫻井本市商業學校教諭及本田竹治  
 ト共ニ「ヘクラ」號ヲ訪ヒ甲板ニ於テ水雷驅逐艦長チャールトン大佐其他ニ面接シ  
 握手ノ禮ヲ終ヘ直ニ來意ヲ告グルヤ大佐ハ喜色滿面一行ヲ艦長室ニ導キ「セリー」及  
 ビ煙草ノ饗アリ上村市長告グルニ該艦隊來航ニ付鹿城市民ハ熱誠ヲ以テ之ヲ迎  
 ヘ既ニ歡迎會開催ノ準備成レルノ事ヲ以テシ全艦員ノ來會ヲ求メタリ大佐喜ン  
 デ之ヲ諾シ其厚意ニ對シテ大ニ感謝ノ意ヲ表セリ續ヒテ閑話ニ移リ或ハ市内附  
 近ノ遊覽地等ニ就キテノ質問出デ或ハ當地風光ノ激賞トナリ更ニ艦尾ノ食堂ニ  
 於テ三鞭酒ノ饗アリ快談湧キ萬歲唱ヘラレ同盟國人間彼我何等ノ畛域ヲ設ケス  
 歡ヲ盡ス少時ニシテ一同艦ヲ辭シテ歡迎船ニ移リ直ニ舳ヲ廻ラシ波ヲ蹴ツテ



歸港セリ

明治三十八年十月二十三日 是日午後二時豫定ノ如ク埋立地ニ於テ同盟國艦隊  
 歡迎會開カル定刻前會員既ニ集テ場内殆ンド立錐ノ地ヲ餘サス來賓タル英國艦  
 隊員ハチャールトン大佐各艦長以下士官四十名水兵四百名ヲ率ヒ各艦艇或ハ汽  
 艇ニ搭シテ石燈籠通下ノ埠頭ヨリ上陸ス上村市長千頭知事市參事會員商業會議  
 所員其他接待員等出テ之ヲ迎フ一同ハ兩國旗ヲ交叉セル綠門下ニ隊列ヲ整ヘ接  
 待員等先導ノ下ニ全隊肅々會場ニ向フ沿道數萬ノ群衆靜肅ニ此遠來ノ珍客ヲ迎  
 ヘテ愉色アリ艦隊員亦喜色滿面左視右顧揚々トシテ得色アルヲ見ル首ヲ擧クレ  
 バ會場ノ入口ニハ一大綠門ノ設アリ兩大國旗交叉セラレ場ノ南端ニ式壇アリ樹  
 ルニ一長竿ヲ以テシ一大旗幟翻ル曰ク「英國艦隊歡迎會日英同盟祝賀會場」ト式壇  
 ヲ東ニ距ルコト少許餘興ノ舞臺アリ運河ノ對岸宴會場ノ入口ニモ亦綠松ヲ以テ裝  
 飾ヲ爲シ上ニ交叉スルニ兩國旗ヲ以テセリ來賓一行式場ニ達スルヤ萬歲ノ聲學  
 校生徒ニ依テ起ル場定ルヤ一同敬禮ノ後上村市長肅乎トシテ式壇ニ立テ歡迎ノ  
 辞ヲ述ブ即チ左ノ如シ

歡迎ノ辭

英國支那艦隊チャールトン大佐貴下並ニ各位、各位ハ我鹿兒島市カ遠ク一方ニ僻在セ  
 ルニ拘ハラズ茲ニ惠然トシテ來リ臨マル余ハ鹿兒島市民ヲ代表シ滿腔ノ誠意ヲ以テ  
 各位ヲ歡迎スルノ光榮ヲ有ス願フニ英國吾ト親交アルヤ久シ今又兩國ノ同盟更ニ厚  
 キヲ加ヘ東洋是ヨリ永ク禍根ヲ絶チ平和ヲ世界ニ長遠ナラシメントス此時ニ當リ同  
 盟國艦隊ヲ錦江灣上ニ見ル我市民ハ歡喜ノ情ト感謝ノ衷心ヨリ湧キ來ルヲ禁スル能  
 ハサルナリ  
 本日ノ會聊カ各位ガ遠來ノ勞ヲ慰メント欲スト雖其設備足ラス供具缺クル所アルヲ  
 遺憾トス各位願クハ我鹿兒島市民ノ熱誠ヲ多トシ懽然樂ヲ罄シ此ノ愉快ナル記念ヲ  
 永ク錦江灣上ノ一角ニ留メラレンコトナレ市民ノ切望シテ己マサル所ナリ  
 明治三十八年十月二十三日 鹿兒島市長 上村慶吉

造士館教授小崎成章之ヲ英譯シ英艦ノ將校以下水兵拍手ヲ以テ之レヲ迎フ次テ  
 チャールトン大佐制服制帽長軀ヲ挺シテ登壇シ自國語ヲ以テ感謝ノ意ヲ述ベ本  
 田竹治和譯ス大略左ノ如シ

本日茲ニ市民諸君ノ熱誠ナル歡迎ヲ受ケタルハ小官等ノ大ニ感謝シ又愉快ニ感スル  
 所ナリ今ヤ日英同盟新ニ組織セラレ將來兩國ノ平和ハ確實ニ繼續サルベク隨テ商業  
 其他百般工藝ノ進歩シ繁榮ナルベキハ勿論ニシテ當鹿兒島市ノ如キ又大ニ繁昌スヘ  
 キハ疑ハザル所ナリ而シテ今回ノ戰役ニ貴國ハ大ナル成功ヲ爲シ實ニ世界萬國ニ誇  
 ルモ亦可ナリト云フベク我英國ニ於テハ斯ル光榮アル同盟國ヲ得タルヲ常ニ他ニ誇  
 ルヲ禁スル能ハサル処ナリ殊ニ當鹿兒島市ハ有名ナル將軍東郷提督其他ヲ出シタル



所ナレバ特ニ最モ光榮アル地ト云フベク吾等ハ大ナル尊敬ヲ拂フ我英國ノ如キ子ル  
ソシテ提督其他ノ誕生地ハ常ニ紀念シテ永久ニ傳ヘテ他ニ誇ル當地ノ如キ實ニ然リ茲  
ニ蕪辭ヲ以テ本日ノ厚意ヲ謝ス

終リテ千頭知事英國皇帝陛下萬歲ヲ三唱シ衆之ニ和シ次テチャールトン大佐日  
本帝國 陛下ノ萬歲ヲ三唱シ衆之ニ和ス萬歲「ヒツプ」ハ「ハラウ」ノ聲場ニ溢ル尋  
テ千頭知事英語ヲ以テ左ノ祝詞演說ヲナス後知事ハ其大意ヲ邦語ニテ譯出セリ

市長ノ熱誠ナル懇到ナル歡迎ノ祝辭ニ次テ蛇足ヲ添ユルノ觀アレトモ余ハ此紀念ス  
ヘキ機會ニ際シテ多少ノ辭ヲ加フルコトヲ禁スル能ハサルモノアリ  
抑モ鹿兒島ノ地ハ僻陬ニ在リ且ツ名勝ノ以テ旅客ノ注意ヲ惹クモノナシト雖モ名將  
大政治家ノ星宿トシテ明治聖代ニ光彩ヲ放ツ所ノ英傑ハ實ニ此土ノ産スル所ナリ今  
ヤ凱旋シテ帝都ニ入り國民ノ大歡迎ヲ受ケツ、アル有名ナル東郷大將ハ實ニ其一人  
ニシテ吾人ノ呼ンテ日本ノ子ルソント稱スル所ナリ而シテ諸君ハ不朽ノ名譽ヲ博シ  
タル彼ノ子ルソソ將軍ガ十九世紀ニ於ケル海軍ノ最大勝利ヲ博シタルトラファール  
ガールノ大海戰百年祭ノ翌日ヲ以テ當市ニ來航セラレシハ吾人ノ欣榮トスル所ニシテ  
其決シテ偶然ニアラサルヲ信スルナリ  
余ガ英語ニ未熟ナルヨク滿腔ノ熱情ヲ表露シテ東洋ノトラファールガールノ勇將ノ誕生  
地ニ於テ諸君ヲ歡迎スルノ誠意ヲ盡ス能ハサルヲ憾ム希クハ諸君ガ滯在中永ク安易  
快適ナランコトハ吾人ノ最モ切望スル所ナリ  
吾人ヲシテ更ニ一言ヲ加ヘシメヨ大英國ヲシテ海上ノ霸王タラシメタルトラファールガール

ノ大海戰百年祭ノ年ニ當リ又我日本國民ガ日本海ノ大海戰ニ於ケル大勝利ニヨリテ  
帝國ヲシテ極東ノ海上ニ於ケル主權者タラシメタル時ニ際シテ日英兩國ガ更ニ其同  
盟國ヲ新ニセシ事モ亦偶然ニアラズ是レ實ニ兩國ノ親好ノ情緒ヲ以テ結着スルチ  
命スル上帝ノ聲ナルナキヲ得ンヤ今ヤ運命ノ手ハ兩國民ヲ連結シテ同盟ヲ締結スル  
ニ至リ兩國民中其一ハ坤輿ニ最モ勢力アル海軍ヲ有シ他ノ一ハ世界上比類ナキ強大  
ノ陸軍ヲ有セリ世界ノ列國何者ガ能ク此人道ノ保護獎勵者タル兩國民ノ結合ニ對シ  
テ抵抗シ能フモノアラシヤ

余ハ擴張サレタル同盟ガ日本帝國ヲシテ名實共ニ東洋ニ於ケル大英國トシテ誇ルニ  
足ルヘキ光榮アル地位ニ達セシムベキ發展進歩ヲ助ケヘキコトヲ少シモ疑ハズ加之此  
同盟ニハ兩締盟國ヲシテ交誼ヲ厚フセシムルノミナラズ之ヲ大ニシテハ世界ヲシテ  
永遠ノ平和利福ヲ維持増進セシムルモノタルヲ信スルモノナリ  
終リニ臨ンテ余ハ諸君ニ對シ此處ニ吾人ノ光榮アル珍客トシテ歡迎スル諸君ヲ代表  
者トシテ大英國皇帝陛下ノ海軍萬歲ヲ三唱セントス吾人ハ常ニ其盛運ノ順風ニ送ラ  
レテ勝利ノ水ニ浮ビ安ラカニ名譽ノ海ニ航進センコトヲ望ミ全時ニ世界平和文明ノ  
堡壘タル日英同盟ノ爲メニ萬歲ヲ叫ハントス

該演說了ハルヤ更ニ又知事ノ發聲ニ依テ大英國艦隊及ビ日英同盟ノ萬歲ヲ三唱  
シ錦江ノ波爲メニ搖キ城山ノ反響耳爲メニ聾ス千頭知事ノ祝詞ニ對シチャール  
トン大佐登壇鹿兒島市民ノ繁榮ト幸福ヲ祈リ尙兩國民ノ親交ヲ希望シテ陸海軍  
ノ萬歲ヲ三唱シ來賓一同之ニ和ス



是ニ於テ師範學校男女生徒高等女學校生徒一齊ニ英國々歌ヲ合唱ス此間來賓舉手敬禮ヲ施ス唱歌了ハリ式ヲ閉チ餘興ニ移ル武者行列最モ同盟國艦隊員ノ注意ヲ惹ケルモノ、如ク衆目悉ク我國古來ノ武裝タル是ノ行列ニ注カレ或ハ自ツカラ鎧ノ袖ニ手ヲ觸レ其説明ヲ求メ或ハ面ヲ取テ自ラ顔ニ擬シ或ハ佩刀ヲ拔テ日本刀ノ銳利ナルヲ賞ス棒踊モ亦其勇壯活潑ナル動作ニ何レモ興ノ禁シ難キモノアルヲ見タリ餘興終リ宴ニ移リ薄暮漸ク撤セリ此日宴ニ列スルモノ主客約一千五百有餘名其盛以テ想フベキアリ宴中彼レニ依テ知事ノ胴揚ケアリ上村市長病餘身体ノ動搖ヲ恐ル潜匿以テ此難ヲ免ル會員又チャールトン大佐ヲ胴揚シテ之ニ酬ヒ萬歲ノ聲場ニ溢ル是日運河橋外觀衆填溢夜ニ入り煙花ヲ揚ケ提灯行列ヲ行フ滿街到ル処人ヲ以テ埋メ歡聲深更ニ至リテ漸ク止ム

是日歡迎會終了後午後六時頃婦人學生等十餘名英艦觀覽ノ爲メ一艘ノ和船ヲ僦ヒ大門口運河下ニ纜ヲ解キ進ムト全運河ヲ距ル東約四十間許偶々疾航シ來ル英艦ノ蒸汽「ボート」ニ衝突シテ顛覆シ乘員悉ク溺ル此急ヲ見ルヤ艇ノ水兵若干名忽チ挺身海中ニ投シ以テ此急難ヲ救ヒ溺者皆全キヲ得タリ

明治三十八年十月二十四日 是日亦英國艦隊將校ヲ招キ江南九州第一樓ニ饗宴ヲ開ク昨日ノ歡迎會ニ欠席セシ人ヲ招ケルナリ來賓ハ「ブギレゴ」艦長グレゴリー中佐以下ノ將校三十名ニシテ千頭本縣知事山本本市助役染川本市會議長商業會議所會頭其他官吏市會議員新聞社員等約六十餘名是日ノ主人タリ点燈時開宴山本助役一場ノ挨拶ヲ爲シ櫻井商業學校教諭之ヲ譯ス之ニ對シグリゴリー中佐ノ謝辭アリ本田竹治之ヲ意譯シテ滿坐ニ紹介ス其要鹿兒島市民ノ爲メニ斯ク懇切ナル歡迎ヲ受ケシ事ハ滿腔ノ熱心ヲ以テ之ヲ謝シ其厚意ヲ深ク感銘シテ忘レサルト共ニ親愛ナル諸君ガ若シ我ガ英國ヲ訪問セラハ日アラバ我々モ亦全シ熱心ヲ以テ諸君ヲ歡迎スベシト云フニ在リ次テ大英國皇帝陛下同國海軍ノ萬歲ヲ三唱シ聲堂宇ニ震フ興益々進ミ歡聲湧キ絃歌起リ十二時ノ頃宴ハ霽々タル和氣ノ裡ニ撤セラレタリ是日及ヒ昨二十三日ノ歡迎會席上ニ於テハ英艦隊員何レモ滿面喜色ヲ湛ヘ宴中ニ於ケル動作ノ如キ恬淡何等ノ飾ル処ナク或ハ歌ヒ或ハ踊リ或ハ戯レ真情ヲ流露シテ餘ス処ナシ而カモ非禮ニ落チズ卑猥ニ流レス

明治三十八年十月二十五日 英艦隊將ニ明日ヲ以テ當港ヲ去ラントスチャールトン



大佐左ノ謝狀ヲ本市長ニ贈リ尙是日大佐自ツカラ市役所ヲ訪ヒ滯麿中ノ厚意ヲ謝シ贈ルニ紀念トシテ茶盆一個ヲ以テセリ該茶盆ハ英國海軍中稀有ノ紀念品ト稱セララル、モノナリト云フ

チャールトン大佐ノ謝狀櫻井商業學 校教諭譯

拜啓今回英國艦隊「ヘクラ」號及ビ其所屬驅逐艇ガ此風趣ニ富メル港内ニ碇泊中其乗込將校下士等ガ眞ニ善盡シ美盡シタル歡迎ヲ受ケタルヤ小官胸中ニ溢ル、感謝ノ意ヲ充分ニ表示スルハ到底不可能ノ事ニ有之況シテ閣下等ノ此御厚情ニ對シ何ノ報ヒル処ナキハ小官ノ最モ遺憾トスル処ニ有之候希クハ閣下ヨリ今回御關係ノ諸君ニ小官並ニ部下將卒ノ感謝ノ意ヲ御通シ下サレ度偏ニ奉懇願候  
又御親切ニ御贈與下サレ候美麗ナル花瓶草花ニ對シテ小官ハ去ルニ臨ミテ此鹿兒島市ニ一小紀念トシテ一度ハ子ルソソ將軍ノ旗艦タリシ「ブードロヤーン」號ガ紀元一千八百九十八年老朽ノ故ヲ以テ遂ニ解毀サレタル際ニ拔キ取リタル銅釘ヨリ成リタル茶盆一個ヲ殘シ行キ申ス可ク候  
名聲世界ニ赫々タル東郷大將ヲ出シタル鹿兒島市カ故子ルソソ將軍トノ奇シキ關係ヲ思ヒ此小紀念品ヲ嘉納セラレン「ト」チ希望ニ有之候  
紀元壹千九百〇五年鹿兒島市ニ於テ  
エドワード、チャールトン  
親愛ナル上村慶吉殿

明治三十八年十月二十六日 是日午前十時英艦隊香港ニ向テ去ル全艦隊ノ當港

ニ在ルヤ既ニ數日同盟友交ノ情漸ク深シ滿街朝來國旗ヲ掲ケテ惜別ノ意ヲ表シ午前九時ノ頃埋築地ノ堤上既ニ各學校生徒及一般市民ノ出テ、麿至セルヲ見ル市長知事其他接待委員等ハ汽船不老丸ヲ舥シ滿船飾ヲ爲シ九時前棧橋ヲ解纜シ「ヘクラ」號外數隻ノ錨地ヲ左舷ノ方ニ一週シツ、樂ヲ奏シ各艦ニ向テ高ク萬歳ヲ唱フ各艦亦帽子手巾ヲ振り一齊ニ萬歳ヲ酬フ「ヘクラ」艦長チャールトン大佐ハ特ニ其長軀ヲ提ケテ甲板ニ出デ嫣然トシテ脱帽シ慰勸ニ答禮シタリ不老丸ハ徐徐々廻轉進航シテ沖小島附近ニ到リ少時停船艦隊ノ到ルヲ待ツ既ニシテ母艦先ツ錨ヲ拔キテ駛走シ來リ驅逐艇四隻之ニ次キ不老丸ニ近クヤ隊中ノ三隻右舷ノ方ニ進路ヲ轉シテ挺進シ來リ同船ノ舷側ヲ過グ相離ル「ト」僅ニ數尋彼我別意ヲ表シ萬歳ヲ交換シテ別ル英艦隊中ノ一艦「ハンリー」號郵便物受領ノ爲メ上陸セシメタル艦員ノ歸艦ヲ待チ爲メニ一行ニ後ル、事四十餘分ニシテ錨ヲ拔ク不老丸ハ歸路全艦ニ別ヲ告ケ飯來ス此時艦隊ハ既ニ遠ク雄姿ヲ没シ錦江灣上只ダ一抹ノ淡煙ヲ殘スノミ

明治三十八年十月二十七日 上村市長ハ英艦隊歡迎會開催ノ日即チ去ル二十三



日運河沖ニ於テ婦人學生等ヲ乗セタル和船顛覆ノ際挺身海中ニ投シ該乘客ヲ救助シタルヘクラ號乗組士官アルテンダブルユーターンウイールキンソンギ外八名ニ對シ左ノ謝狀ヲ贈與シ香港ヘ向ケ郵送シタリ

貴艦隊ガ我が鹿兒島港碇泊中明治三十八年十月廿三日全港運河口外ニ於テ解船顛覆ノ際挺身海中ニ飛入り日本國人男女十三名ヲ救助セラレ幸ニ一名ノ死傷者ヲ出サ、リシハ全ク貴下等ノ迅速ナル行動ニ依ル儀ト深ク感謝ノ意ヲ表ス

明治三十八年十月二十七日

鹿兒島市長 上村慶吉

此感謝狀ニ對シテチャールトン大佐ハ同年十一月廿七日ヲ以テ左ノ答禮狀ヲ送レリ

市長閣下

御送附ニ預リタル御懇篤ナル感謝狀十一通本日落掌御芳志ノ段奉謝候

貴諭ノ通り部下將校士卒各宛名ノ者ヘ夫々配付方即刻手配致サセ候處各受領者ハ閣下ノ深慮能ク万般ニ亘ルニ對シ大ニ敬愛ノ意ヲ表シ候

斯ノ如キ謝狀ハ其ノ事ノ起リタル當時ヲ追想セシメ且ツ其ノ總テカ幸福ナル終局ヲ告ケタルヲ思フ好個ノ紀念トシテ各受領者ハ深ク此謝狀ヲ尊シトスルヤ小官ノ確言

シテ疑ハサル處ニ有之候

謹テ閣下ノ萬福ヲ祈ル

海軍大將東郷平八郎生誕ノ地ハ今ノ鹿兒島縣立高等女學校ノ地域内トナリ

附記 現住ノ家ハ帝都築町ニ在リ而シテ今大將ノ戶籍ハ市内山ノ口町高見馬場小

倉氏ニ在リ故ニ全家ノ門柱掲クルニ全大將ノ氏名標ヲ以テス一日英國艦隊員市内遊覽ノ途次偶々全家ノ門前ヲ過ガ案内ノ市立商業學校生徒門札ヲ指シ告クルニ東郷大將ノ籍アル家ナルヲ以テス一行ノ士官等邸内ヲ覽ンコトヲ乞フテ止マス全校生徒刺ヲ同家ニ通シテ艦隊員ノ希望ヲ告ゲ其許諾ヲ求ム大將ノ實兄ニシテ明治丁丑ノ亂ニ陣沒セシ小倉壯九郎ノ老未亡人出テテ之ニ接ス此家素薩摩風ノ建築ニシテ庭園亦々荒涼未亡人稍躊躇ノ色アリ然レモ其ノ請ヤ遠來ノ珍客而カモ帝國ノ同盟國艦隊員等ガ平八郎ノ名ヲ慕フニ出テタルヲ思ヘバ之ヲ辞スルニ由ナシトシテ其請ヲ容ル艦隊員等觀テ以テ其素朴ニ驚ケリ

### 六 英國大使マグドナルドノ來覽

明治三十八年十二月一日 本邦駐劄英國大使マグドナルド夫妻相携ヘ鐵路本市ニ來ル縣市官民無慮五百餘名之ヲ「プラットホーム」ニ迎フ大使夫妻慰勲ニ答禮シ出迎ノ各官公吏ニ送ラレテ磯島津邸ニ入ル

明治三十八年十二月三日 二日英國大使夫妻市内ヲ遊覽シ三日午後鐵路ニ依リテ出發セリ本市ハ同大使滯魔中花瓶一個ヲ贈リタリ因ニ全大使今回ノ行タルヤ全ク微行ニ出テ歡迎會ノ如キハ固ク之ヲ辞シタリ

明治三十八年十二月七日 是日英國大使マグドナルド氏謝狀ヲ上村市長ニ送ル



即チ左ノ如シ

余ノ妻並ニ自身ガ山紫水明ノ鹿兒島市ニ滞在中閣下並ニ市民全体ガ最モ友愛ニ富メル懇情ヲ以テ余等ヲ遇セラレタルノミナラス美麗ナル薩摩焼花瓶迄ヲモ御贈與ニ預リタルニ依リ閣下並ニ閣下ヲ通シテ善良ナル鹿兒島市民全体ニ對シ余等ノ最モ深厚ナル感謝ノ意ヲ申述セ候且ツ此花瓶ハ我家ノ子々孫々ニ相傳ヘ貴重ナル財産ノ一ニ數フベク候

余ハ鹿兒島市ノ美景其ノ附近ノ愛スベキ風物而シテ之ニ加フルニ其住民ノ懇切ハ余ノ妻ト余ガ永ク忘ル、能ハサル處ニ御座候

紀元千九百五年十二月七日

鹿兒島市長上村慶吉殿

クロード、マゲドナルド

又全大使ハ上村市長ニ對シ左ノ書翰ニ金貳百圓ヲ添ヘ以テ之ヲ本市慈善事業ニ寄贈セリ市長ハ内金百圓ヲ鹿兒島養育院ニ金五拾圓宛ヲ佐土原盲啞學校及ビ慈惠盲啞學校ニ配付シタリ

拜啓 過日貴地滞在中御丁寧ナル待遇ヲ辱フシ候間心ハカリノ御禮トシテ金二百圓ノ小切手封入致候條何卒鹿兒島市ノ慈善事業ノ資ニ御加入下サレ候ヘバ幸甚ノ至ニ奉存候拜具

七

國賓英國皇族アーサー、オフ、コンノート親王殿下ノ御來覽

明治三十九年三月三日 我 聖上陛下ヘ英國皇帝陛下ヨリ贈ラレタル「ガーター」

勳章捧呈ノ使命ヲ帶ヒ來朝セラレタル國賓英國皇族アーサー、オフ、コンノート親王殿下ニハ其使命ヲ終ヘサセラレ是日特ニ我鹿城ノ地ヲ訪ハセラル是ヨリ先キ殿下御來鹿ノ報傳ハルヤ昨秋全盟國ノ艦隊ヲ迎ヘタルノ縣市民ハ今復タ全國皇甥ニシテ國賓タルコンノート親王殿下ヲ此地ニ迎ヘ奉ルノ光榮ニ感激シ全力ヲ傾倒シテ以テ其奉迎準備ノ事ニ從フ先ツ委員ヲ組織シ知事ヲ委員長トシ接待掛田之浦旅館詰外務省員旅館詰我陸海軍武官旅館詰内外軍艦接待事務所詰物品寄贈及陳列掛餘興掛設備掛宴會掛車駕掛會計及庶務掛ニ分チ以テ縣市官民日夜其事務ニ執掌シタリ是日天晴レ春光三州ノ野ニ滿ツ午前八時ノ頃市長縣會議長縣參事會員縣會議員市參事會員市會議員補充大隊聯隊區司令官其他接待員等ハ滿船飾ヲ爲セル歡迎船新不老丸ニ搭シ棧橋ヲ解纜シテ沖合ニ出デ御召艦ノ到ルヲ待ツ既ニシテ午前九時ノ頃御召艦ダイヤデハ二號ハ橋頭高ク皇族旗ヲ掲ケ警衛艦タル我音羽八雲吾妻巖手等ノ四艦ト共ニ雄風堂々錦江灣ヲ壓シテ來ル光景轉ダ壯絶御召艦愈々進ミ來リ歡迎船ト相并ブノ頃歡迎船ハ樂ヲ奏シ接待諸員一同船上ニ三ダヒコンノート親王殿下ノ萬歲ヲ唱フ既ニシテダイヤデム號我國旗ニ對



シテ廿一發ノ禮砲ヲ放チ續ヒテ先着ノ常盤艦廿一發ノ答禮砲ヲ放チ更ニ常盤千早ノ兩艦皇族殿下ニ對スル各廿一發ノ祝砲ヲ放ツ山嶽爲メニ震フ此間陸上歡迎ノ煙花モ亦轟々タリ先是島津忠重公爵千頭知事其他接待員等棧橋ニ參集シ殿下ノ御上陸ヲ待チ奉リ佐藤(武文)少佐指揮ノ下ニ儀仗兵二個中隊亦整列シテ御上陸ヲ待ツ九時三十分頃ニ至リ御召艦及警衛各艦共ニ錨ヲ投ス先ツ殿下隨員ノ一部御行李ヲ護シテ上陸シ次テ我 皇室ノ接待員タル黒木東郷兩大將等ノ乘艇先導トナリ殿下坐乗ノ小汽艇皇族旗ヲ掲ケテ棧橋ニ着ス時正ニ午前十時四十分千頭知事上村市長湯池警部長等奉迎ス殿下御上陸アラセラル、ヤ一全ニ御會釋ノ後知事市長ニ握手ノ榮ヲ賜ヒ隨員接待員縣接待員等ヲ從ヘサセラレ徐々トシテ棧橋御通過アリ鳥居形歡迎門左側ニ奉迎セシ婦人會總代及矯風會代表者各花束ヲ捧呈ス長崎式部官ノ通譯ニテ御言葉アリ且ツ握手ヲ賜フ斯クテ知事ノ御先導ニテ歡迎式場タル棧橋右側ノ上家ニ向ハセラル其途中島津忠重公爵ト握手ノ御交換アリ式場ニハ各官衙高等官縣市各名譽職陸海軍將校有位有爵者商業團體代表者銀行會社重役在留外國人及婦人會員等數百名場内兩側ニ整列シテ殿下ノ御入

場ヲ待チ奉ル場内ハ一隅ニ壇ヲ設ケ飾ルニ活花ヲ以テ天井ニハ各交親國ノ國旗ヲ縱横ニ吊シ入口ニ日英ノ兩大國旗ヲ交叉セリ殿下ノ御着座アルヤ一同脱帽敬意ヲ表ス是ニ於テ知事及市長ハ恭シク日英兩様ノ歡迎文ヲ捧グ各左ノ如シ

知事ノ歡迎辭

鹿兒島縣知事從四位勳三等千頭清臣鹿兒島縣民一同ニ代リ謹ミテアーサー、オフコンノット殿下ノ特ニ僻遠ノ海隅タル當地ニ貴臨シ給フチ光榮トスル事ヲ陳謝シ奉ル恭シク惟ミルニ大英國兵艦ノ砲聲錦江灣頭ニ轟キシ以來未ダ星霜五十ナラズ當時干戈ノ事素ヨリ慘憺タルモノナキニシモアラザリシト雖モ却テ之ガ爲メニ他日弊國進歩ノ運此ニ胚胎スルニ至リシハ縣民ノ窃ニ以テ誇トスル所ナリ爾來風雲漠々幾多勇政義烈ノ犧牲ヲ捧ケ戰鬪ニ從事シテ實力ヲ養成シ且骨肉離散ノ悲哀ヲ經タリト雖モ弊國ヲ擧ゲテ聊カ今日ノ盛運ニ向ハシメ貴國ト協同盟約ヲ結ブノ域ニ至ラシムルヲ得タルハ縣民ノ均シク光榮トスル所ナリ今ヤ殿下此地ニ貴臨セラレ獨リ當縣下不朽ノ名譽タルノミニアラズ實ニ是レ隼人々士ガ帝國ニ辛勤セル四十五年來ノ歴史ノ頂点ナリト謂フヘシ抑モ大英國ガ高ク正義ノ燭光ヲ掲ケ自由ノ旌旗ヲ靡カシ列國ノ上ニ巍然タル雄姿ハ縣民ノ久シク敬慕措ク能ハサリシ所ナリ今ヤ弊國トノ間ニ同盟ノ成立ヲ見ル進歩繁榮ノ前途必ズ期待スベク殊ニ正義自由ノ標榜ノ下ニ東西兩帝國ノ提携ヲ見ルニ至リシハ欣喜抃舞措ク能ハサル所ナリ謹ミテ

アーサー、オフコンノット親王殿下歡迎ノ辭ヲ呈シ奉ル

明治三十九年三月三日 鹿兒島縣知事從四位勳三等 千頭清臣



鹿兒島市長上村慶吉鹿兒島市民一同ヲ代表シ謹ミテ  
アーサー・オブ・コンノート殿下ノ當市ニ親臨シ給フコトヲ感謝シ滿腔ノ熱誠ヲ以テ歡  
迎シ奉ル

恭シク惟ルニ泰西ノ一強邦極東僻遠ノ一帝國ト初メテ干戈ノ事アリシハ實ニ當薩南  
ノ海隅ニシテ市民ノ均シク記スル所又永遠ニ傳ヘテ忘ル、コトナカルベキナリ彼ノ  
干戈ノ教訓ハ凄慘ナルモノアリシト雖モ亦極メテ裨益スル所多大ニシテ弊國ハ實ニ  
此舉ニ依テ自ラ強フセサルヘカラサル所以ノモノヲ覺レリ蓋シ是レ數百千載ニ亘リ  
遠ク地球上ノ一角ニ隔絶シ全ク國交場裏ニ加ハラス相互競争ノ間ニ於テ初メテ發展  
シ來ルベキ勢力ノ之ヲ鼓舞スルモノナカリシ國民ノ當ニ經驗セサルベカラザルモノ  
ナルベキカ

爾來新世紀ハ弊國ノ史上ニ開ケ今日太陽没スル無キ大帝國トノ間ニ不變ノ盟約ヲ見  
ルニ至リシハ市民ノ欣舞措ク能ハザル処ニシテ兩帝國ノ同盟ガ愈々和親ヲ加ヘ大英  
國皇帝陛下ト弊國 帝國陛下トノ優渥ナル庇護ノ下ニ治安大平ノ永遠ニ維持セラレ  
ベキコトハ慶吉等ノ信シテ疑ハザル所ナリ謹ミテ  
下歡迎ノ辭ヲ呈シ奉ル  
アーサー・オブ・コンノート親王殿

明治三十九年三月三日

鹿兒島市長 上村慶吉

知事市長ノ歡迎文捧呈ニ次デ知事ハ更ニ代リテ縣會議長及商業會議所會頭ノ歡  
迎文ヲ捧ケ長崎式部官各之ヲ通譯ス殿下之ニ對シ懇篤ナル令旨アリテ式全ク終  
ル十一時知事警部長先導トナリ隨員リーヅデール卿シーモアー海軍大將ケリ

一ケンニ海軍大將マグトナルド大使以下及ヒ黒木東郷兩陸海大將長崎式部官  
等接伴員隨從腕車ニ召サセラレ錦江橋ヲ經海岸通ヨリ朝日通ニ縣廳門前ニ出デ  
サセラレ右折國道筋ヨリ御旅館磯島津邸ヘ入ラセラレタリ時正ニ午前十一時三  
十分沿道奉迎ノ學校生徒一般拜觀人等堵ノ如シ

磯邸ヘ入ラセラレタル殿下ニハ午後三時四十分ノ頃ニ至リ再ビ腕車ニ召サレ赤  
十字社支部ヘ向ハセラル

前驅後列前ノ如ク忠重公ノ腕車殿下ニ次キ沿道万歲聲裡ニ午後三時七分ヲ以テ  
御着車直ニ樓上陳列ノ武器刀劍馬具等御覽知事等ノ説明アリ時々賞嘆ノ聲ヲ洩  
ラサセラレタリ全部ニ在ラセラル、コト約十七分間ニシテ演技場タル築港埋立  
地ニ向ハセラル

赤十字社支部ヲ出テサセラレタル殿下ニハ沿道幾方群衆ノ間ヲ腕車ニ召サセラ  
レ縣廳本門ヨリ朝日通りニ出デ右折シテ廣馬場通りヲ大門口埋築地演技場ニ御  
着車アラセラル演技場ハ裝飾設備到ラサルナク殿下ノ御座ハ中央ニ一段高ク設  
ケラレ其左方ヲ忠重公爵、マグトナルト大使右方ヲリーヅデール卿シーモアー大將